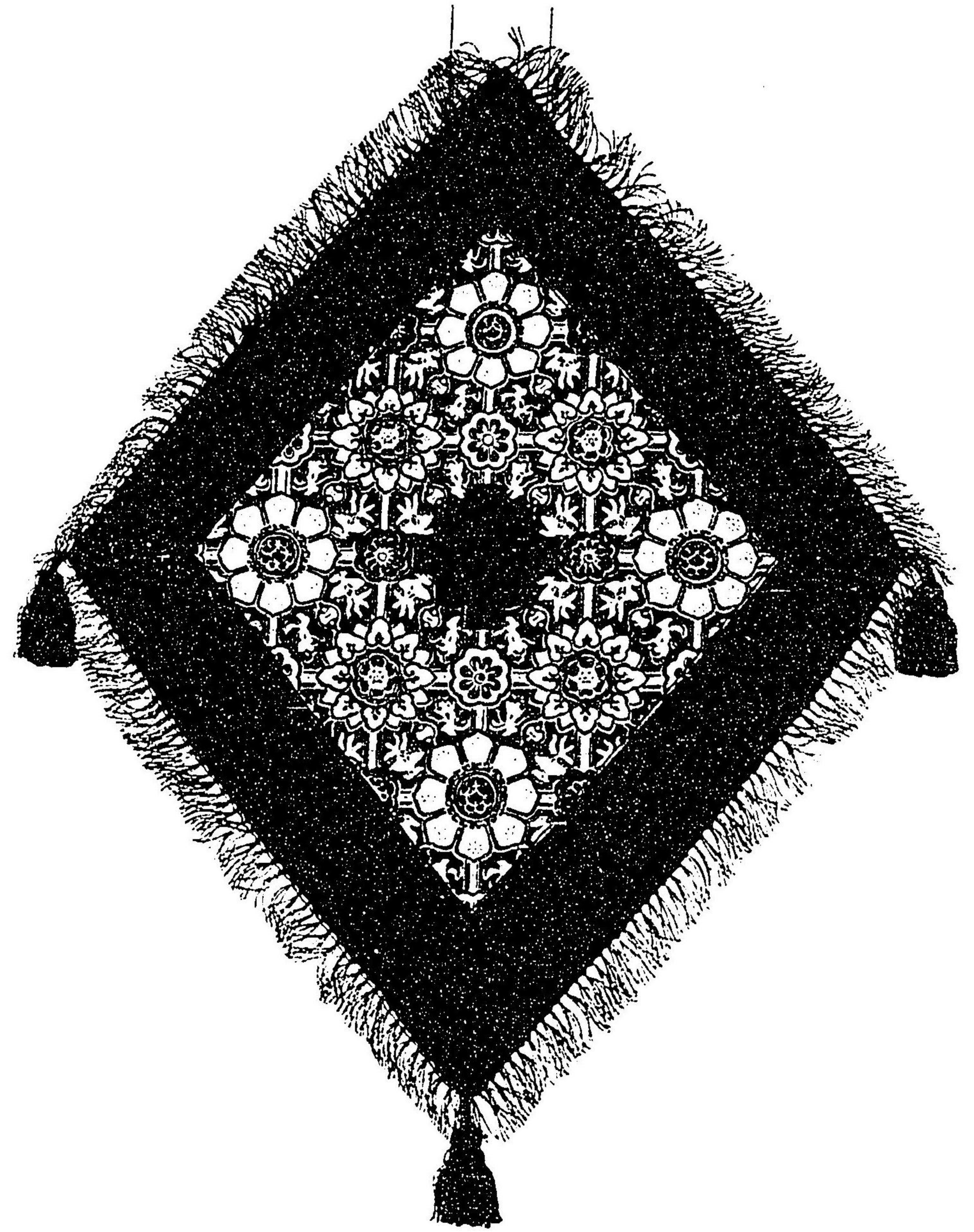


ツリパの服祭納獻



一の分四廿の物賞



特55  
157

主教職二十五年  
及ビ大主教ノ昇  
班ニ就テ日本國  
教會衆民ノ感謝  
祝典記念ノ爲メ

# 重刊 歡 錄

挿  
畫

再  
版

水島行揚 寄贈本

イサイヤ  
水島行揚編  
明治四十年一月  
東京正教本會編輯所





---

ТОРЖЕСТВО ЯПОНСКОЙ ПРАВОСЛАВНОЙ ЦЕРКВИ  
ПО ПОВОДУ ВОЗВЕДЕНИЯ ВЫСОКОПРЕОСВЯЩЕННАГО  
НИКОЛАЯ ВЪ САНЪ АРХІЕПИСКОПА И ДВАДЦАТИ-  
ПЯТИЛѢТНЯГО ЮБИЛЕЯ ЕГО ЕПИСКОПСТВА.

---

СОСТАВИЛЪ  
КАТИХИЗАТОРЪ  
ИСАІЯ ЮСИФОВИЧЪ МІДЗУСИМА.

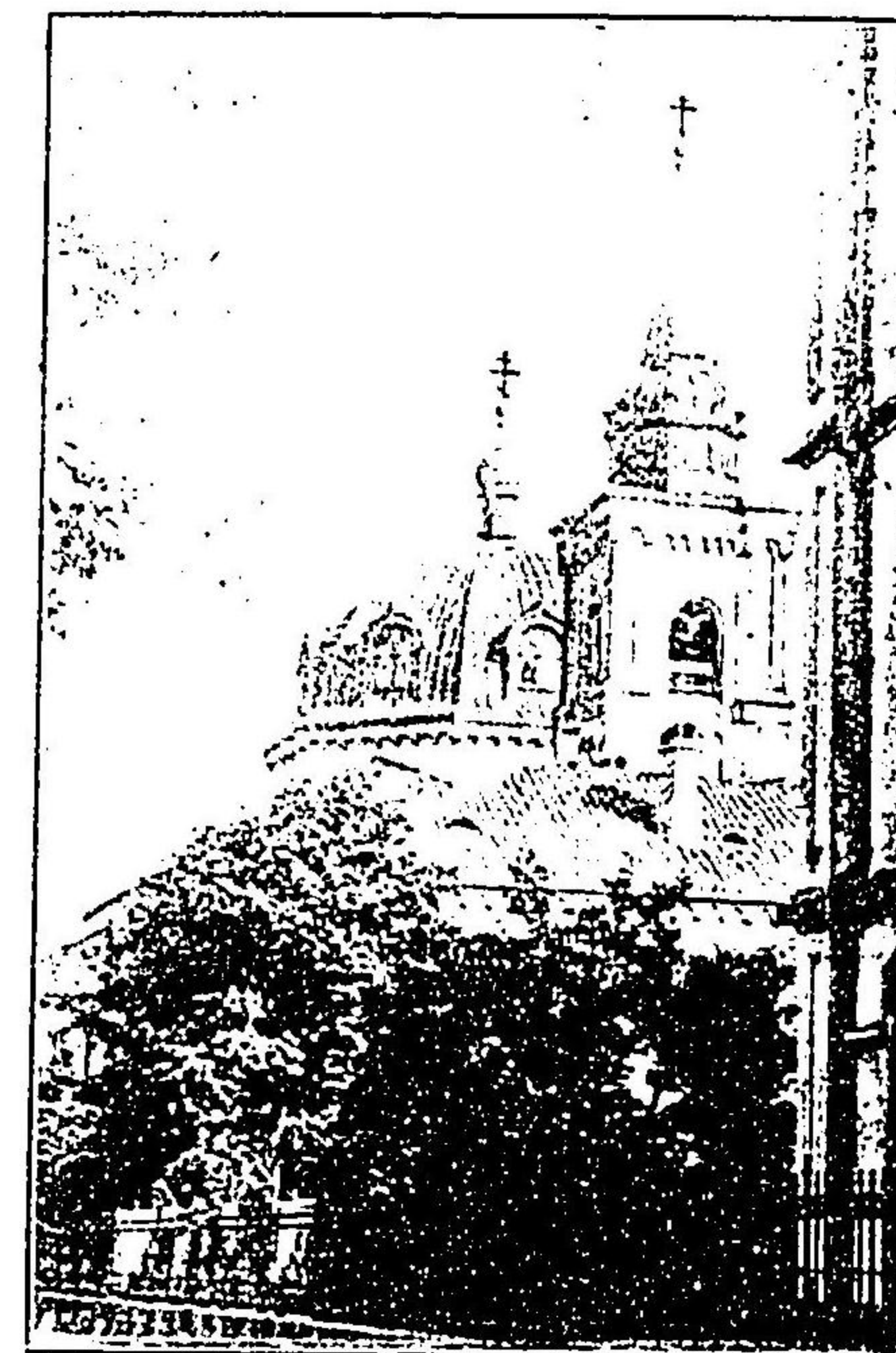
---

1907.





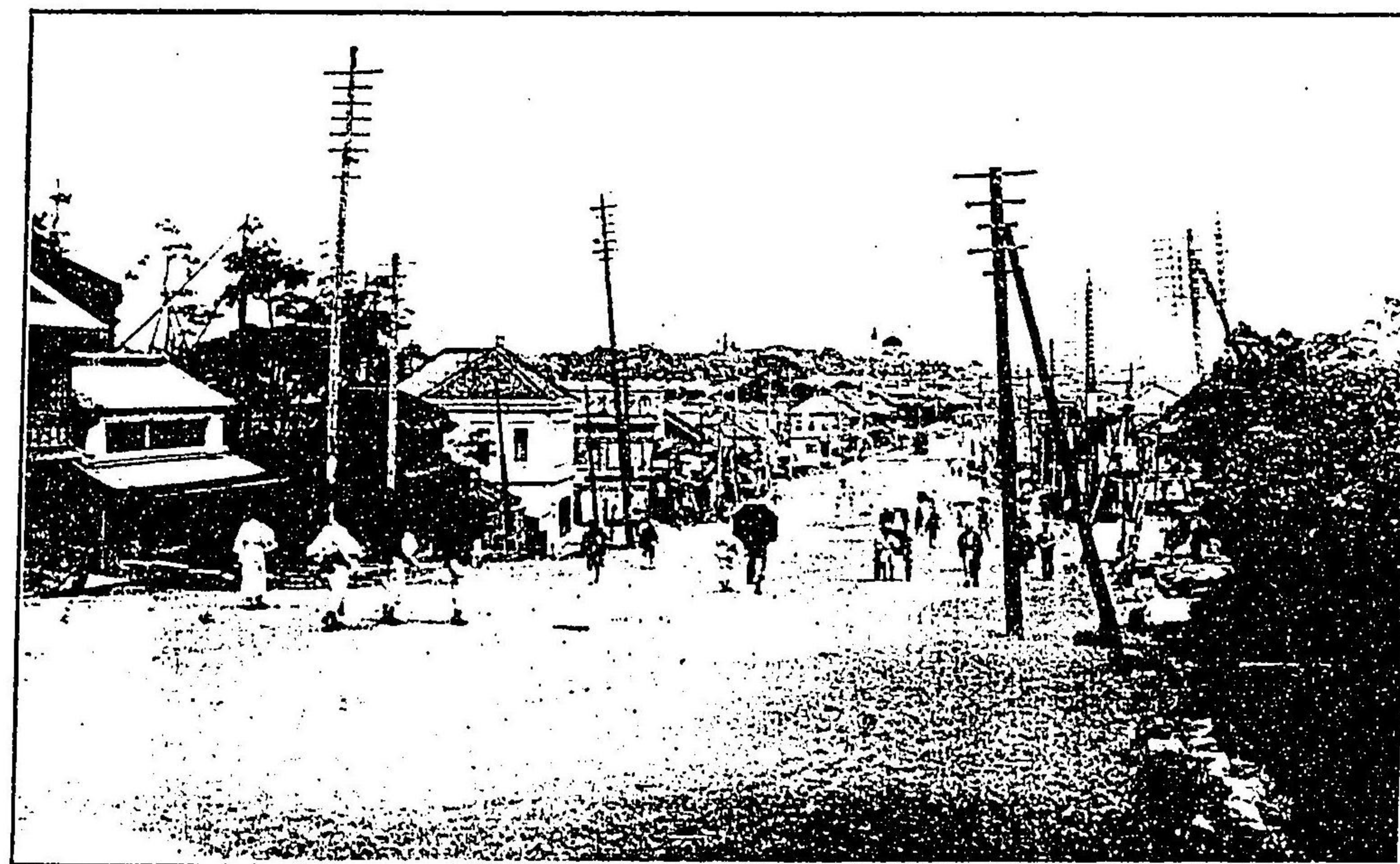
父師尊イラコニ教主大



堂聖本活復京東

〔第一圖〕

Аще благовѣствую, несть ми подвѣви: куда  
во ми наисхождѣ. Горѣ же снѣ сътъ, аще не  
благовѣствую. 1 Кор. 9, 16.



景遠の堂聖本るけ於に街市京東



再 版 重 歡 錄

凡 例

凡 例

記録ハ編者ノ願ヒニ因リ、我が大主教閣下ノ祝福ヲ得テ發行シタル者ニシテ、先ニ其必要ナル部數ヲ預定シテ着手シタルモ、忽チ多數ノ不足ヲ生ズルニ至リ、直ニ又再版ヲ發行スルノ不得已ニ至リシ者ナリ。抑世ノ祝詞ナル者ハ、概チ千篇一律ニ其人ヲ祝頌スルニ止マリテ何等ノ變化ナク折角之ヲ朗讀スルモ、徒ラニ聽衆ノ倦厭ヲ買フニ過ギザル者アリ。サレド今回 我が教會ノ祝典ニ於テ四集シタル夥シキ祝辭中ニハ頗ル特別ノ趣味ヲ有スル者ト教會歴史ノ材料トシテ取ルベキ點モ存スルヲ見ル、且ツ全教會ノ民ガ各々其靈父ヲ愛シ熱誠ヲ籠メテ捧呈シタル者ヲ、式場ニ朗讀ノ時間ナカリシ爲メ、又新報紙上ニモ編輯上ノ都合ニテ採録スルヲ得ザリシ爲メニ、斯ノ多數ノ祝辭ヲ全ク筐底ニ葬了スルハ殊ニ遺憾ノ至リナリトス、是レ本帖ヲ編シテ衆祝辭提出者ト凡ソ其靈父タル大主教ヲ愛敬スル者ノ善心ニ酬ユル所以ナリ。

斯ク 本帖ハ其初メ首トシテ祝辭ヲ集録スルノミノ目的ナリシト雖モ、他ニ尙衆人殊ニ獻納ノ聖服ニ付テ出資ノ有志者等ニ報告スベキ要件アリ、乃チ祝典舉行ノ景



況、祭服其他聖物ノ調製ト献納始末、及び全地方ノ善男善女ノ誠意ヨリ出デシ献金ガ預想外ノ好結果ヲ現ハシ、即チ戦後多端ノ幼教會ニ於テ立ロニ一千六百有餘圓ヲ得タルヲ明カニスルノ件是ナリ。依テ本帖ハ前記ニ於テ、祝典舉行ト献品ノ始末ヲ叙シ、卷末ニ献金ノ收支等ニ關スル明細ヲ附録セリ。

**前記中** 『春來祝典委員會に於て云々』以下ニ在ル『献品の調製』ヨリ其『献呈』ニ至ル記事ハ、特ニ是ノ件ニ關與セシ中井木菟麿氏ノ筆ニ成リ、次ノ『式典次第』ハ新報ノ報知ニ依リ特ニ誤記ヲ訂正シタル者ナリ。本記最初ノ祝序亦中井氏ノ筆ニ成ル  
**本記**ハ又四部ニ分チ、第一部ニハ東京及び各地方教會ト其他ノ團體ヨリノ祝辭ヲ、第二部ニハ諸教役者ヨリノ、第三部ニハ諸信者ヨリノ掲ゲ、第四部ニハ教會ト個人ニ論ナク凡テ電報ニテ來リシ祝辭ヲ載ス、各通ノ順序ハ或特種ノ者ヲ除ク外一ニ到着ノ先後ニ依ル。

**祝辭中** 作文ノ點ヨリスレバ巧拙一ナラズ、中ニハ辭句ヲ成サヌ者アリ。又字体ハ頗ル謹嚴ニ楷書ヲ以テシタル者アリ、粗笨ニ若クハ能書ナルモ變体甚シクシテ讀ミ難キ者アリ。サレド本帖ハ専ラ提出者ノ誠意ヲ主トシテ、誤字ノ訂正ト萬不得已場合ノ外ハ悉ク原文ノ通りニ爲セリ。

十五年前ハリストス復活本聖堂ノ成聖式ニハ、電報祝辭、共ニ百十六通アリシガ

今年大主教閣下ノ祝典ニハ同ジク百四十七通アリ、即チ前ノ時ヨリ多シ。此レ等ノ祝辭ニシテ編者ノ手ニ渡リシ分ハ悉ク之ヲ採録セリ、サレド此ノ外ニ編者ノ手ニ得ザル爲メ或ハ漏レタル者ナキヤノ疑ナキ能ハズ、若モ之アリトセバ、編者ノ恐謝シテ特ニ當提出者ノ御諒恕ヲ請フ所ナリ。

**挿畫中**、特ニ記述ヲ要スル者ハ、次項ノ如ク之ヲ記述シ、他ノ本文ニ依テ自然判明スベキ者、若クハ圖ヲ一見シテ畧明瞭ナル者ハ別ニ何等ノ記述ヲ爲サズ。

**附録ノ出金者** 署名ノ書方ハ頗ル一定セズト雖モ、一二當事者及び保存原簿ノ書方ニ從フ。

**再版ニ際シ**、文字ノ誤植ヲ訂正シタル外、概子初版ト異ナル所ナシ、但挿畫ニ付テハ多少ノ取捨ヲ行ヘリ。

口 繪 ノ 事

**前** 圖ニ 掲ゲタル 大主教ニコライ尊  
師父ノ肖像ハ、尊師父ガ最近ノ撮影ニシテ  
今年アルヒ エピスコプニ昇班サレシ以來  
甫メテ寫サレシ尊影ナリ。其全生命ヲ上帝  
ニ献ゲタル高德ト救世安民ノ道ニ熱誠ナ

ル神靈ノ崇美ハ、肅然トシテ顔容ノ表ニ著  
ハル。師父ハ露國スモレンスク縣ノ人、千  
八百六十一年サントペテルブルグノ神學  
大學ヲ終リ、二十四歳ニシテ修道司祭ヲ以  
テ外國傳道ノ大志ヲ起シ、我が日本ノ人口



ガ二千萬ノ時代ヨリ五千萬ヲ超過スル今日ニ至ルマデ、我が異邦民ノ中ニ留リテ一意純正ナル宗教ノ爲ニ勉勞セラル、一、既ニ世ノ認ムル所ノ如シ。師父ガ今日ヨリ四十六年前甫メテ函館ニ來リシ時ハ、茫々タル大八洲一人ノ知己ナク、固リ信徒ノ影モ無シ、然ルニ今ヤ全國ヲ通シテ大約三萬ノ信徒、大約二百ノ傳道者ヲ有シ、一大本聖堂ト數聖堂ト二百六十有餘ノ地方教會ヲ立ツルニ至レリ、亦以テ彼ガ上帝ノ爲ニ勤ムルコトノ徒勞ニ非ザルヲ知ルベシ。師父ハ千八百七十年(明治三年)ヲ以テ修道院長ノ高位ニ昇リ、全八十年(明治三十三年)四月、主教ノ榮職ニ叙セラレシヨリ、昨千九百五年四月ハ其二十五年ノ禧年ニ當リ、今年亦大主教ノ高位ニ昇斑セリ。師父ノ聖職ハ單ニ教會内ニ限ルコト勿論ナリト雖、其道徳界ニ於ル功勞ハ延テ國家ニ貢獻スル所亦少シ

トセズ、故ニ師父ハ從來二個ノ勳章——聖アンナ一等章ト聖ウラヂミル二等章——及ビ帽衣ノ金剛石十字章ヲ領シ、近時又最高等ノ聖アレキサンドル子ウスキイ勳章ヲ領ケタリ。師父當年七十、其勇壯清康ニシテ、主日祭日ノ奉事ニ、日夜經典ノ翻譯ニ其他巨細ノ事務ニ勤行勵精スルコト壯者モ及ブ所ニ非ズ。尊像ト下遠景ノ中間ニ在ル横文ハ大主教ノ筆蹟ニシテスラワヤン語ニテコリンフ九章十六節ヲ書キシ者即チ大父閣下ノ理想ナリ。

**大主教ノ 右ナル「ハリストス復活本聖堂ノ圖」ハ、西北ヨリ望ミタル近景ニシテ、高キ鐘樓ノ前面下部ニ屋根ノ見ユルハ本會ノ十字架聖堂、右端ニ大キク一部分ノ見ユルハ書籍庫ナリ。**

**右圖ノ 下ナル「本聖堂ノ遠景」ハ、駿河臺ノ西南ニ當ル九段坂ヨリ望ミタル景色**

ハリストス降生一千九百六年

明治三十九年 十一月

イサイヤ 水島 行 楊 識

ニシテ、此ニ紛々囂々雜沓セル東京市街ノ一分ト、彼ノ巍々霽々タル上帝ノ聖殿ト好個ノ對照ヲ顯ハセリ。

目 次

目 次

前記——祝典舉行の必要、獻納 祭服	頁 數
等の調製。	九
大主教感謝の祈禱、獻品式 及び 祝賀會の事。	十三
本記——祝辭集。	
第一部 全日本正教會及び各地方教會並に特別團體より提出したる祝辭	
——計五十通。	十七
第二部 聖公會の外國宣教師及び我が正教會内國教役者よりの祝辭——計	
二十一通。	三十七

第三部 地方信徒 其他個人よりの祝辭——計十七通。	頁 數
	四十七
第四部 祝電——計五十九通。	五十三
以上 書面 八十八通、電報 五十九通、合計 百四十七通。	
後記——祝典舉行後に於ける我等日本正教會の奉教者の留意。	五十七
附錄——獻品調製費 寄附金 報告。	六十一
全調製、祝典 及び 之に 附帶する 諸費 決算 報告。	八十六



挿 畫 目 次

特、パリツアの圖(石版彩色九度刷)……………扉の前	頁數
一、大主教閣下最近の肖像 及び 其御筆蹟……………	
東京ハリストス復活本聖堂最近の景。全上最近の遠景……………	三の前
二、獻納祭冠の前面 及び 後面、附祝典に信徒等の參集 其他……………	八の次
三、全サッコスト、ステハリ……………	八の次
四、全オモフォル、エピトラヒリ、パリツア、其他。及び全マンテヤ……………	八の次
五、祭冠の前面に描かれたる救世主の小聖像、及 祭冠臺と目錄臺、並に獻品臺……………	
六、本聖堂内 祭冠 祭服 獻納式の景、並に聖裝したる大主教、及び祭服室の圖……………	十三の前
七、祝典に參會せし衆人の合寫……………	十五の前
八、大主教閣下の翻譯夜業及び閣下の客室、其西面の圖……………	五十一の前
九、本聖堂の福音經の圖 其前面……………	五十四の次
十、全上、其後面……………	五十五の前
十一、東京正教本會書庫の二階……………	六十一の前
以上特別色刷共 計二十四面入。	

\* \* \* \* \*





全上後面



献納新祭冠の前面

三



祝賀會場に往く



祝典に信徒等を集める

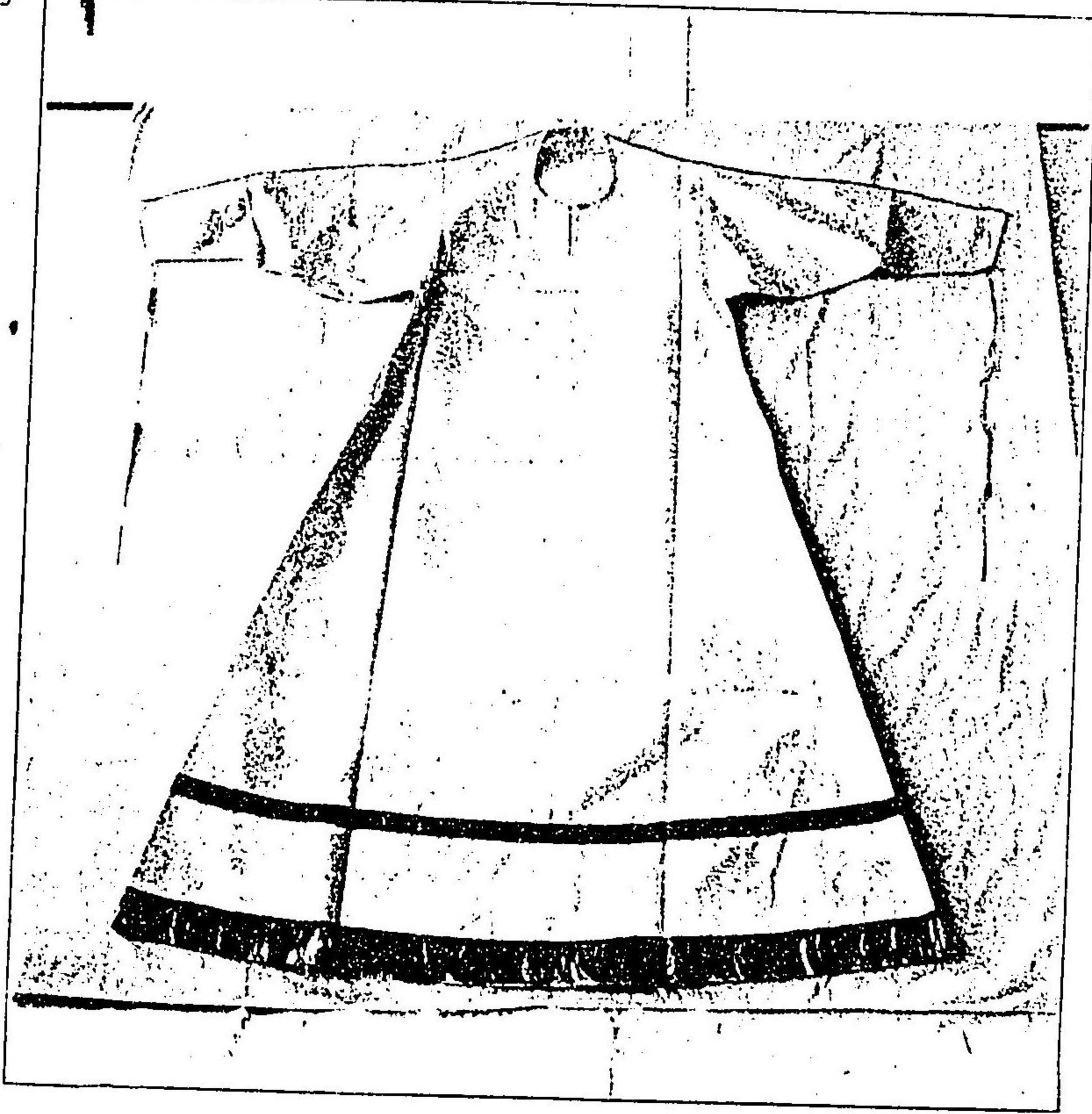


新調 献納の祭服



上衣

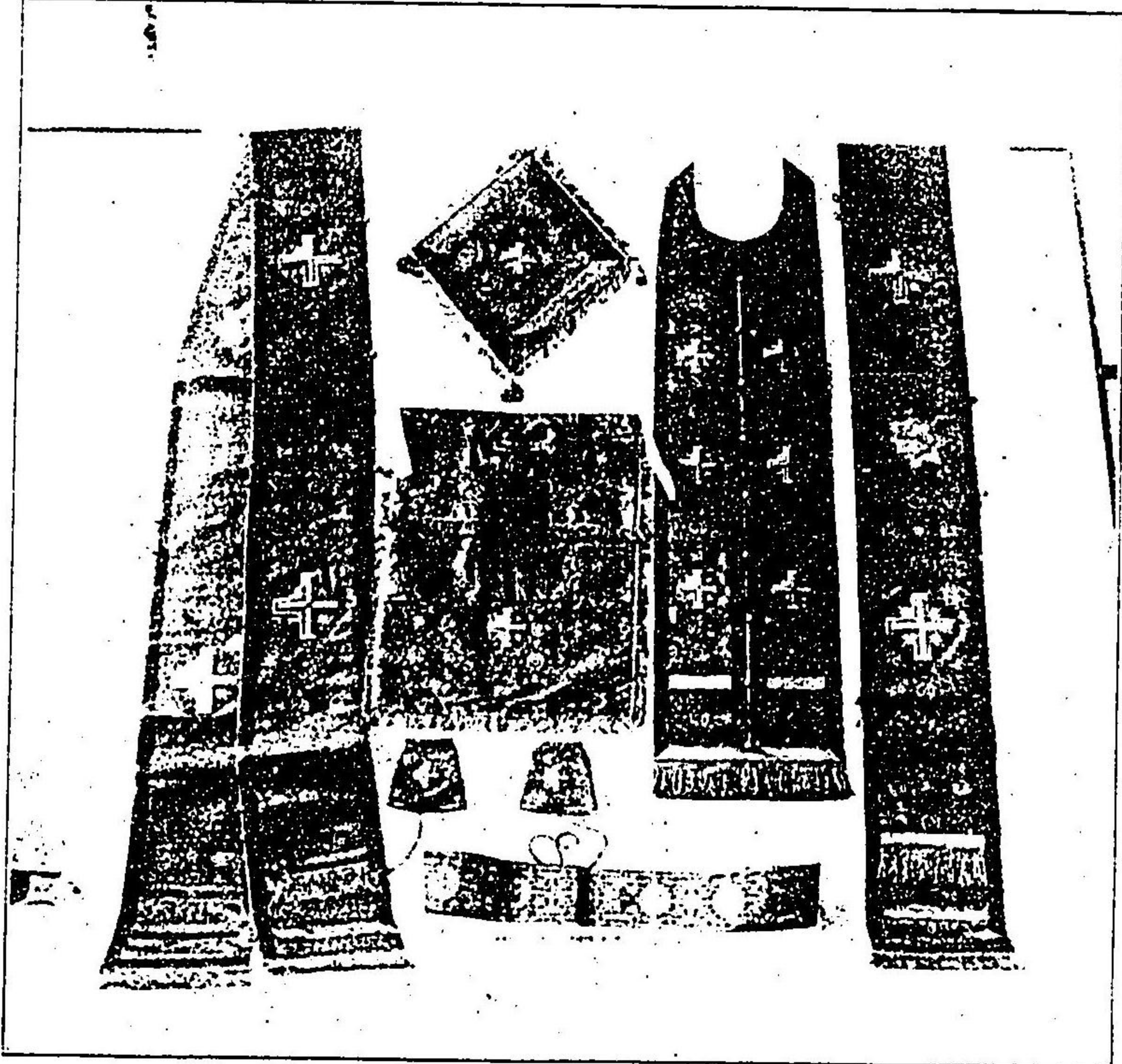
三



下衣

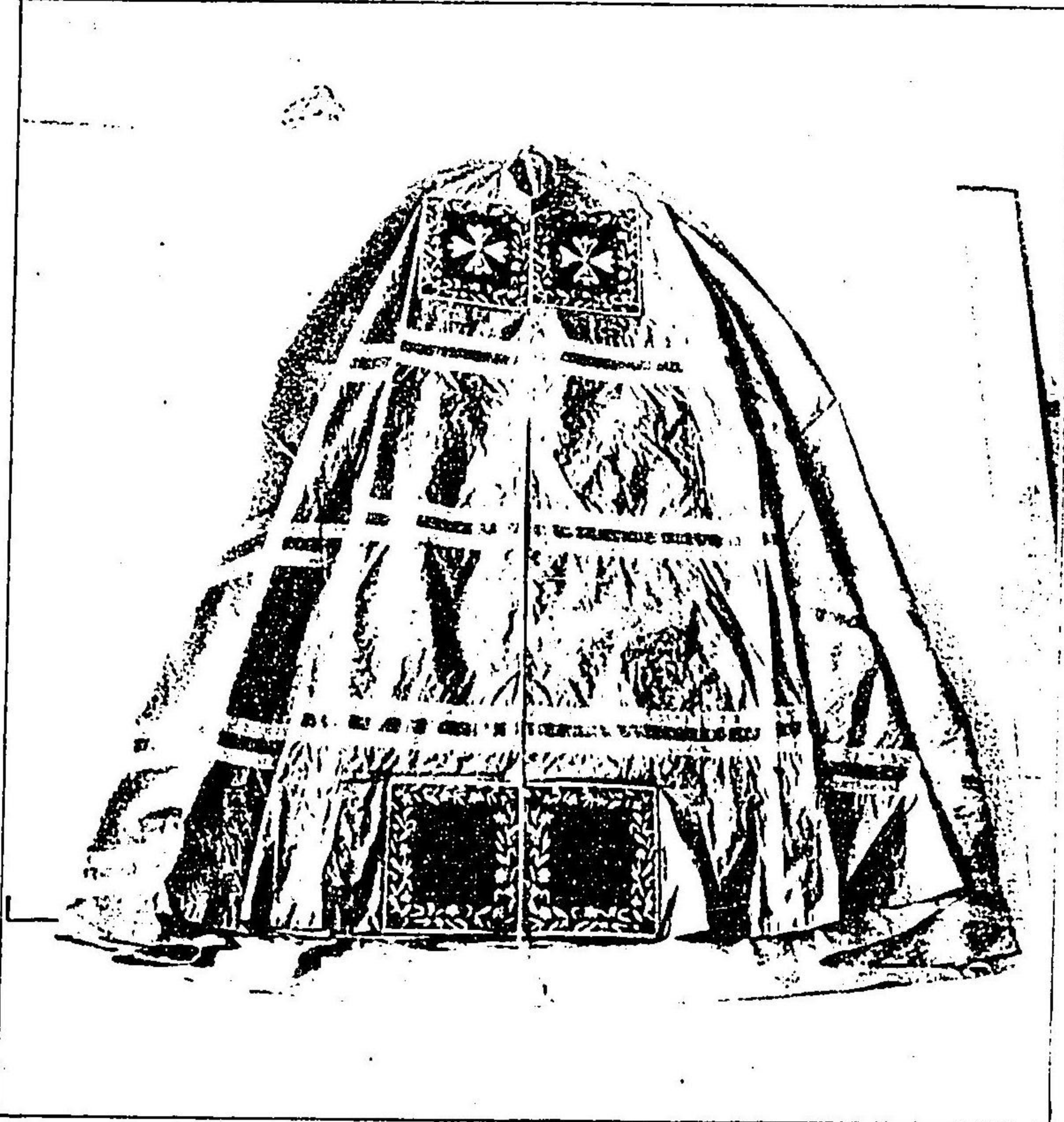


新調 献納の祭服



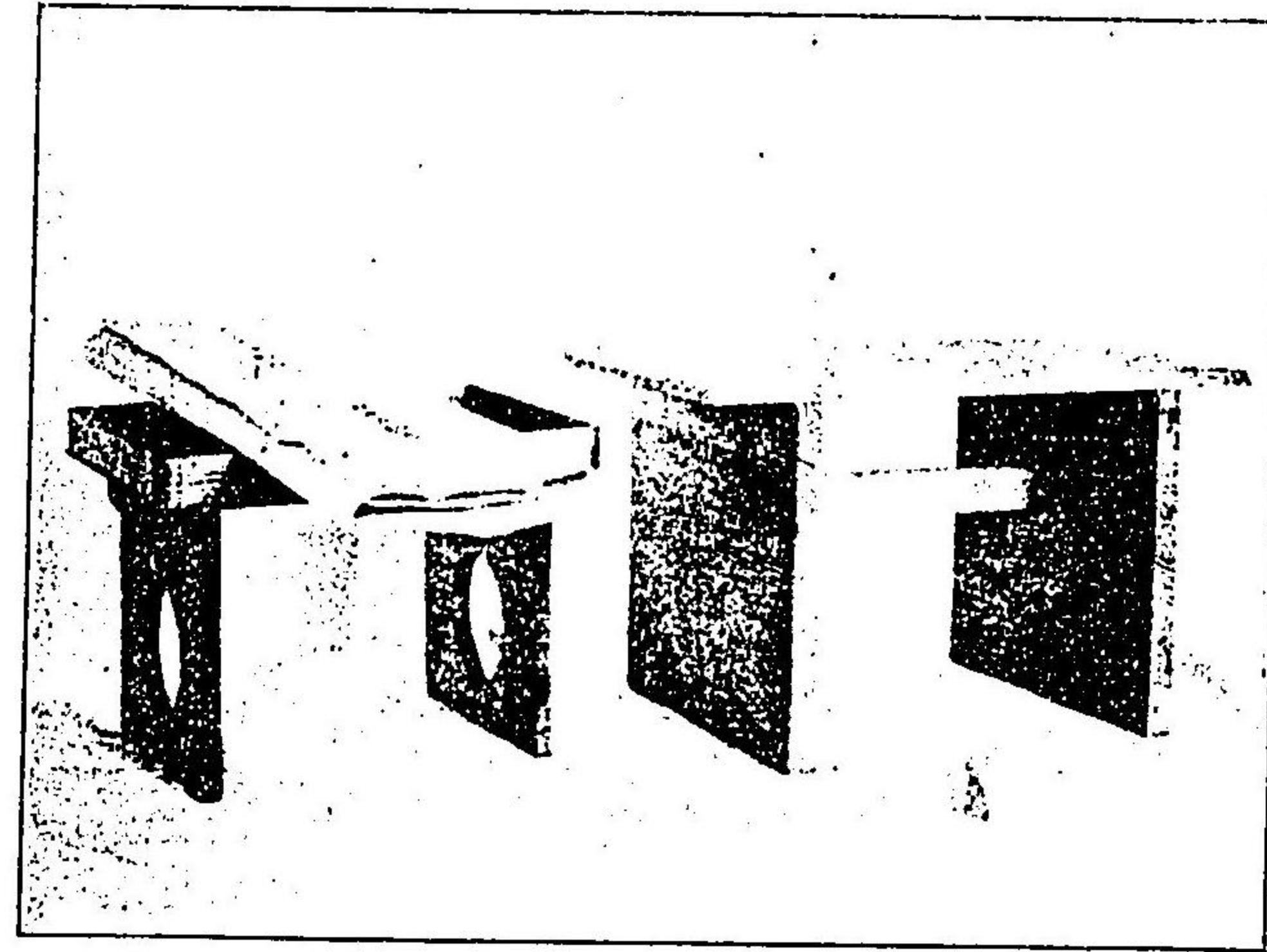
肩衣、領帶、其他附屬品

(四)



長袍



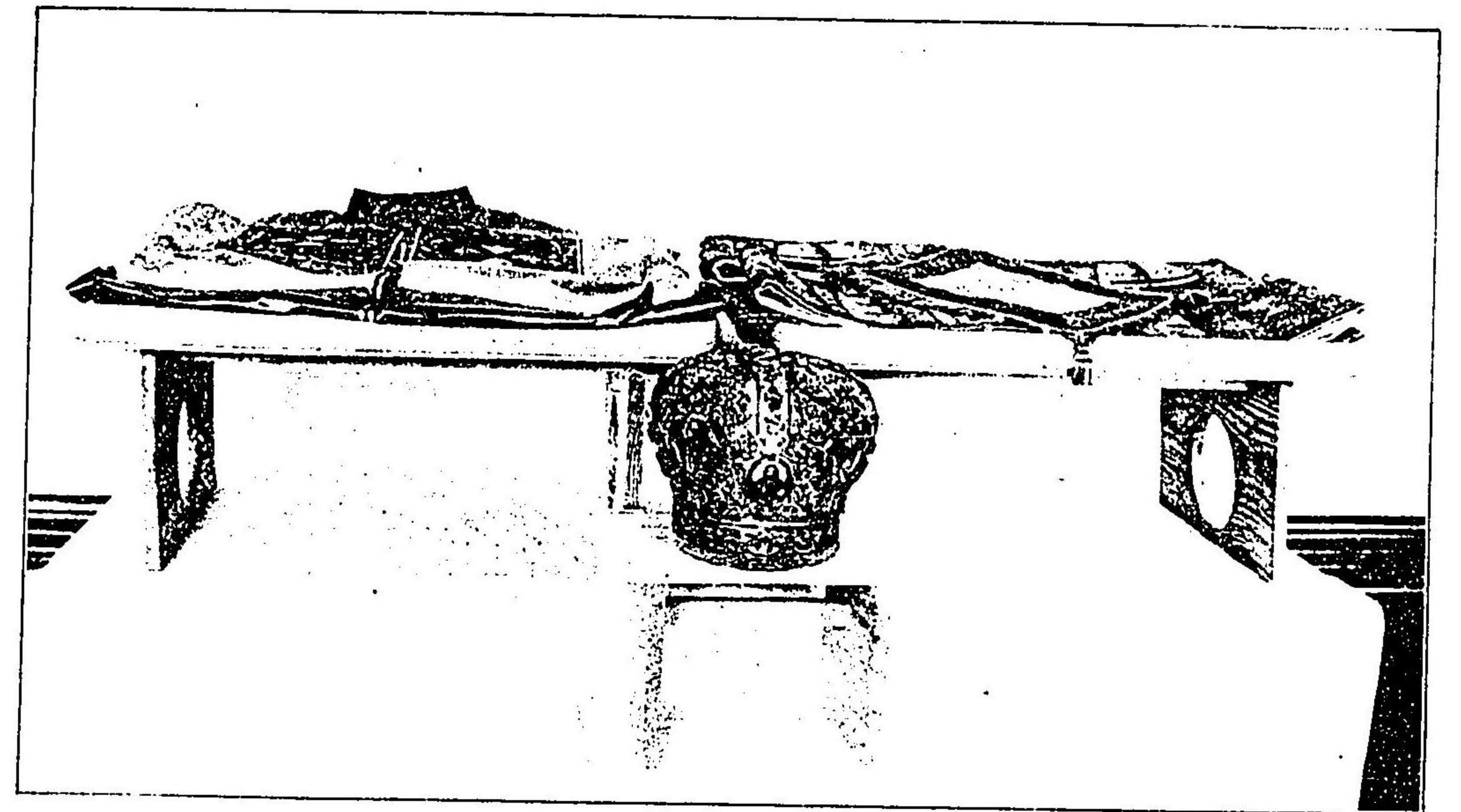


臺録目 び及 臺冠祭



像聖小の面前冠祭

〔五〕



圖るたせ載に臺品献を冠衣祭



前記——祝典舉行の必要、獻納祭服等の調製、  
大主教感謝の祈禱、獻品式及び祝賀會。

若

も世間の官職に居り通常の業務を執る者も、一定の長年期間無事に勤続し多少の功勞を彰はしたらんには、自他共に之を慶祝せざる者なしとせば、況や教會の聖職に居り萬民の永遠に關する業務を執れる主教ニコライ尊師父が大禧年の半なる二十五年の長期間壯健に斯の日本正教會に勤續し福音の爲め多大の功勞を彰はされたる事實に於ておや、彼れの靈子なる我等衆ハリステアニンは、各々衷心より之を慶祝 感謝せざらんと欲するも能はざるなり。而して假の世に人の定めたる官職勳位の昇級亦賀すべしとせば、眞の生命に神の定めたる聖職の昇班の大に賀すべきは固り當然なりとす。是れ吾人日本教會が茲に尊師父の主教叙聖二十五年祝典に併せて、大主教昇班の祝

典を舉行せし所以なり。

抑

近世東歐に於て最も外國傳道に熱誠の精神を有し、世の毀譽榮辱を意とせず、獻身的勉勞を以て遂に異邦の中にハリストスの 光榮を顯したる者、先にアムールの教化者大主教インノケンティ尊師父あり、今我が日本の教化者主教ニコライ尊師父あり、前者は歸りてモスクワのミトロポリトとなりたれども、後者は今に我が國に留りて今年甫めて大主教アルヒヒエパスコフとなれり。是れ彼が深く日本の民を愛し日本教會の爲に全生命を獻げたる覺悟の致す所、彼れの子たる我が日本教徒も亦彼に對して滿腔の誠意を表せざるを得ざるなり。

然ば東京正教本會に在りて 春來祝典委員會に於て計畫せられたるニコライ大神父が主教叙聖二十五年の祝典



は、明治三十九年七月十一日を以て滞なく舉行せられたり。叙聖第二十五年は、其實三十八年四月に相當したりしが、當時は日露戰役中に在りしを以て、平和克復後の公會開設期に於て舉行することに議定せしに、今正に其時期に達し、且今般前願の如く大主教昇班の事にも遇ひたれば、茲に併せて大祝典を舉行することとなりたり。

献品の調製 主教叙聖二十五年祝典の際大神父の座前に奉獻すべき物品は、本年二月二十七日の委員會に於て、主教職の祭冠、祭服、長袍等の中、寄附金の多寡と製作の價金とに應じて及ぶべき丈を製して、獻呈することに議決し、二月四日の評議に於て、略製作品の價格を調査したる上、祭冠、長袍、肩衣、領帶を約七百圓と假定して、寄附金を募集することとなり、本誌を以て集金に着手し、一方には祭冠、長袍の製作に取掛ることなし、夫々適當なる商工を求めて、工に就かしめたるに、諸教會の寄附金額々到來して、程なく豫定額を超え、優に祭服一式を調製すべき見込立ちたれば、遂に豫定の品目の外に上衣、祭衣をも製することとなりたり。委員等の希望は、本邦の工藝を用て、教會美術品模造の伎倆を本品の上に顯さしむることを期するにありたれども、何分本邦に於ては、創作試製の品にして、未曾て一見だにせざりし工藝家の手腕を煩はすことなれば、既成後の可否を知り難く、且何の品を某店に命すべきかすら定め難かりしが、調製委員が

拮据搜索せし上にて長袍を三越吳服店に、祭冠を芝罘月町の小松崎茂介に命じ、其他 祭服地、祭衣、並に金モール等、或は既成品に取り、或は新製して、調製委員が嚴密なる監督によりて期の如く工を畢へ、舶來の原品に對して聊も遜色なきばかりに精巧華麗なる品を新製するを得たり。是れ即今回獻呈せし祭衣冠なり。

新製の祭衣冠

一 祭冠

和紙張抜半瓢形の下地に金絲織布を覆ひ、此に刺繡を以て二重の十字縦線を施し、二線の中間には葡萄、縦線の外には百合花、聖像の周圍には橄欖を刺繡し、下部に二重圓線を施して、中間に花卉を刺繡せり、悉く金絲刺繡臺附なり。聖像は、頂上は聖父、前面は救世主、右側は生神女マリヤ、左側は前驅授洗イオアン、後面は奇跡者聖ニコライ、共に五面、平面玻璃を以て之を覆ひ、各金絲を繞らす、地は純銀なり。聖像の上邊には純銀に紫色の玻璃を嵌入せる小冠形を附す。其冠桶は赤革製にして、堅硬なる圓形の器なり。右は芝罘露月町の文武官服裝師小松崎茂介が監督の下に調製せられたり。聖像は聖書師山下林女史の筆なり。

一 祭服 上衣、肩衣、領帶、方佩等一具

表は蜀江形錦にして、裏に白色琥珀を用る、十字章を織

り出したる金モールを以て縁と爲し、下邊に散垂を繞らし 諸處に十字章大小十七個、星章三個を附す、共に金絲刺繡臺附なり。衣端には純銀金メッキの鈴四個を附し、又金メッキ透鏤の釦三十七個を附す。方佩には流蘇を垂る。(編者曰く、祭服の色彩を此には文字にて顯はされず、開卷第一のバツツに付て其一斑を察すべし)

一 杖頭飾

表綾並にモール等 同上。

一 祭衣

表白綾織藤丸紋章裏白琥珀金モールを以て縁となし、背に十字章を附す。右祭服地の表裏及び祭衣の裏は共に三越吳服店の既成品を用ひ、祭衣の表地は、裝束司高田茂の工場に於て織成せり。祭服及び祭衣のモール、十字章、星章は、共に小松崎茂介が監督の下に織成せし者なり。祭服 祭衣の裁縫は、正教信徒鶴飼鶴三郎之を擔當せり。因に記す、祭冠の制度は、別に寶石 珍珠を嵌入して、金紫燦爛たる者あり、單に刺繡を以て裝飾したる者あり。然るに本邦の美術を表章するには、寧刺繡を以て適當と爲すが故に今其制度に循ふ。

祭冠の聖像は、本邦の美術を表彰せん爲には、必七寶焼を以て之を製するを可とす。然れども畫樣織密にして、成功期し難きを以て、油畫を用たり。祭服 祭衣は合せて之を籠蓋桐匣に藏む。

一 長袍

表に紫色の琥珀を用る、白色に紅線を引きたる三條の大リュボンを繞らすこと、常式の如し。前面上下に各二個を貼附する所の新舊約を表章する方板は、天鵝絨地にして、上板には十字章及び草花を刺繡し、下板には單に草花を刺繡す、裾端には銀鈴二個を附す。右は三越吳服店に於て全部調製せり。

獻呈祭衣冠禮 式典執行の時、祭衣冠は左の如く三臺に分載して獻呈したり。

一 祭冠 國風の冠臺に載す。

國風の冠臺は、柳宮又は柳葉と稱する者にして、柳の木を五分程に三角形に削り、定數の如く(けたの數に諸説あり、冷泉家には重數を用ゐる、或は吉事には半數、凶事には重數)並べたるを生絲又は紙捻にて綴ちて、足を附けたる者なり。元は柳宮と稱する同製の筐の蓋ありしを、後世蓋の足のみを高くして、冠經卷等の臺となしたる者なり。其「ヤナイバ」と稱するは「ヤナイバユ」と區別したるなり。今般の冠臺は略して椏



を用ゐたり)

一 祭服 祭衣

足附白木の臺に載す。縫一尺七寸  
幅二尺五寸

一 長袍

同上 寸法同上。

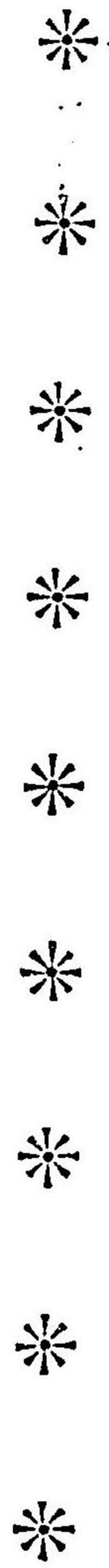
一 三品目録

目録臺に載す。

一 賀序祝詞

長方形白木臺に載す。

以上記述されたる祭冠、祭服の説明は、之を開卷第一の色刷パリツァと第二圖より第四圖までの祭冠服縮圖に参照して知るべし、尙祭冠の表に描かる、小聖像に付ては、第五圖の右上部に前面なる救世主の小聖像を實物大に寫したるに依て其一斑を悟るべし。又以上諸品を載せし諸臺に至りては、第五圖左上部及び下部の圖に付て見るべし。三品目録臺に載せし三品目録及び後に掲ぐる祝序の文字は、假野父の筆にして頗る風韻に富める雄健の書なり。





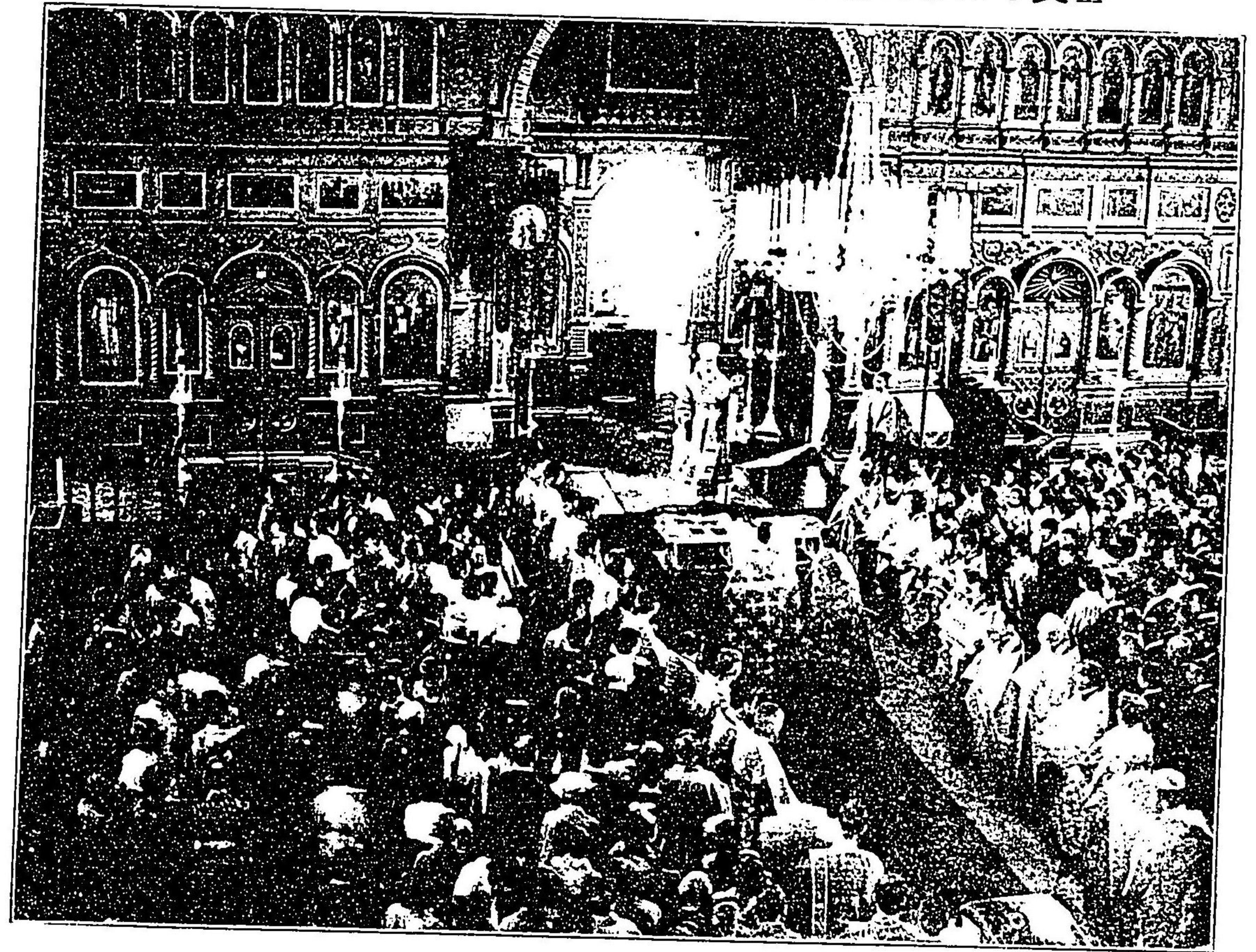


室服祭堂聖本



教主大るたし裝聖

〔六〕



景の式品献日典祝班昇教主大び及年五廿職教主



式典次第 當日午前九時の鳴鐘を聞くや、大主教ニコライ師は、在京の諸司祭諸輔祭を率ゐる東京ハリストス復活本聖堂に於て感謝祈禱を献せられ、畢りて後祭衣冠献呈の式に移る。此の時大主教は原祭服のまゝ、西面して、高壇の中央に直立せられ、其右側(即ち北方)には三井、小松、笹川、千葉、水山、水野、山懸、櫻井、鈴木、向山、加藤、福井、小野、廣田の諸司祭、其左側(即ち南方)には老澤邊、影田、假野、山村、湯川、河野、片倉、森田、小澤邊、日時、柴山、薄井、藤平の諸司祭並列し、副輔祭等進みて、案四脚を設く。是に於て釘宮輔祭は祭冠を臺上に捧持して前に在り、高井輔祭は祭服を臺上に捧持して後邊の右方に在り、白岩輔祭は長袍を臺上に捧持して後邊の左方に在り、内田輔祭は目録を臺上に捧げて其後の中央に在り、石田輔祭は祝詞を臺上に捧げて又其後に在り、共に洗禮室より堂中に進みて、各其定位(右祭服 祭冠 目録 祝詞)に置く。此の時長司祭澤邊老神父は右列より、三井司祭は左列より、共に中央に進み、澤邊長司祭は大主教に對して挨拶の詞を述べ、次ぎて日本正教會の名を以て捧呈せし「奉賀大主教座下序」即ち次の第一部に掲ぐる文を捧讀し、後三井司祭之を助けて、全文を朗讀せり。(賀詞は本記に載す)

朗讀畢りて後、山田藏太郎氏は前進して、祝詞祝電を捧呈せし各教會、學校、及び個人の名稱を列舉し、(時間に限あるを以て祝詞の朗讀を略す)後特に日本聖公會の監督マキム氏より

呈せられたる祝詞を代讀す。即ち次の第二部に掲ぐる文是なり。畢りて後三井司祭目録を捧持して壇を登り大主教に捧呈し、大主教は目録して之を受け、直に之を河村副輔祭に授く、副輔祭は之を受けて至聖所に納めたり。次に釘宮輔祭は祭冠を高井輔祭は祭服を、白岩輔祭は長袍を、内田輔祭は祝詞を捧呈す、式前の如し。式已に畢りて、大主教は衆に對して謙讓なる謝辭を述べられたり。其意、日本正教會の兄弟姉妹が、是くの如く高美至寶なる祭冠祭服を製して贈與せられたるは、感謝の至に勝へず、然れども余は敢て之を受けて、吾が私と爲さむことを欲せず、永く之を教會に藏して、後世に會の爲に模範となさむことを欲す、諸兄は日本正教會の隆興せしを見て、一に功績を余に歸すれども、余は敢て當らず、余は之を全能者の寵佑と諸神品、傳教者及び、男女學校教師、翻譯著作、雜誌記者等、凡そ教會に従事する者の功に歸して自ら與らず、願はくは爾後彌諸兄の協力に因りて教會の盛運を見むことを」といふに在り。當日來賓の重なる人々は、露國新公使バクメフ氏及び夫人、並に館員、横濱駐在露國領事ウクトル、グロッセ氏、學院バウル師、露領ニコラエスク司祭イリナルフ、マラコフ師、露領ウラヂャストク市司祭ベトル、ボルガゴフ師、前東洋學院長ボツネフ氏、日本聖公會監督オードレイ氏、組合教會宣教師グリム氏等なり。參拜者宏堂に満ちて頗る盛況を呈せり、祝典舉行中紀念の撮影を爲せり。



(即ち第六圖に掲ぐる者はなり)。

祝賀會 式典畢りて後、祝典委員は大主教並に來賓を本會内の下の半圓室に請じて、茶菓を饗し、後大主教、來賓、參拜者一同を館内の廣場に聚めて、こゝにても紀念の撮影を爲し(次の第七に掲ぐ)次きて正教神學校内に於て來會者一同に茶菓を饗し、又女子神學校の廣間に蓄音器を置きて、衆兄弟姉妹の清聴を慰めたり、是れ祝典當日の景況概畧なり。



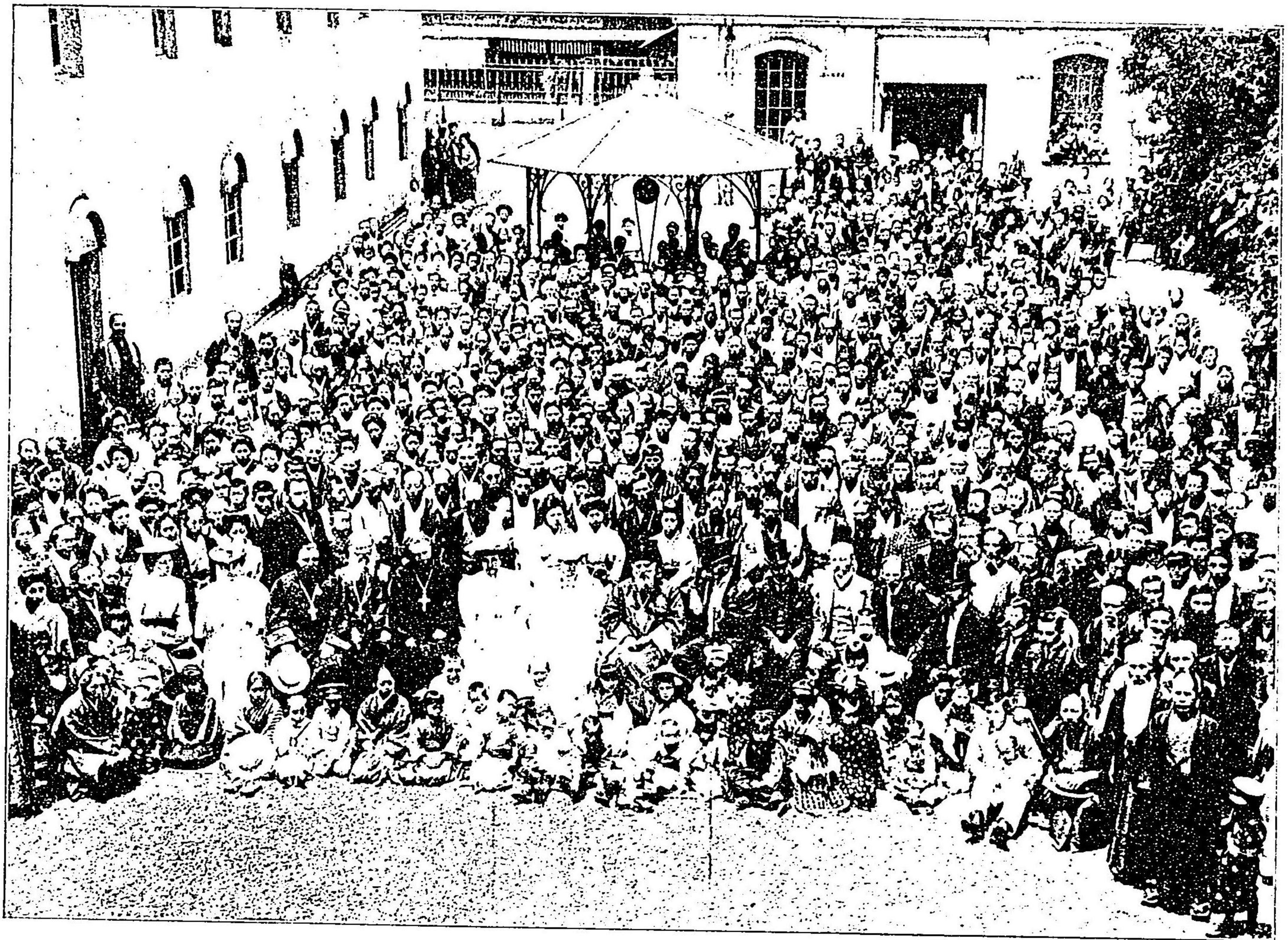
第六圖中に 立てるアルヒエビスコフ閣下は、此時從來の祭服全黄色の者を着裝されたり。其前に安置されたる新祭服は此祝典の次日即ち聖使徒祭に甫めて着用されたり、其は同圖右上部に寫せる者即ち是なり。獻品の前に後向きに見ゆるは三井父が祝辭を朗讀せる所なり。



此寫眞面に寫れる衆民は、實際之に數倍するの多數なりし。

前圖ノ左方ナル祭服室ハ、東京本聖堂ノ二階西南隅ニ在リ。此處ニ大主教閣下ノ莊麗ナル祭服ヲ初メ司祭輔祭等ノ澤山ノ祭服、其他種々ナル聖器物ヲ藏メラル。圖ノ中ニ立テル二人ノ中、前ニ稍大キク寫レルハ聖物懸リ河村副輔祭ニシテ、多年聖物取扱ノ任ニ當リ最モ斯道ニ精通セルヲ以テ、今回祝典委員會ニ於テ大主教ノ祭冠祭服ヲ調製スルニ付テモ同氏及ビ今田副輔祭等ガ與カリテ最モ力アリシハ衆ノ認ムル所ナリ。





祝典會衆の合影



(七) 祝典に參會せし衆人の合寫

此圖ハ明治三十九年七月十一日、エピスコプ二十五年ノ記念及ビアルヒエピスコプ昇班ノ感謝祈禱後、本會十字架聖堂(舊二階ノ聖堂)ノ西窓カラ撮影シタル者ニシテ、此中ニ寫サレタルハ固リ當日會衆ノ全体ニ非ズ、會衆ハ無慮一千人以上モアリタレバ、此影中ニ外レタル人モ亦少カラズト知ルベシ。前列中央ナル大主教ノ左右ニ席ヲ占ムルハ新來ノ露公使バフメチエフ氏ト其夫人、其夫人カラ婦人ヲ隔テテ圖ノ左ニ並ベル三司祭ハ、朝鮮ノアルヒマンドリトパエル、カムチヤッカノ司祭イリナルフ、及ビウラヂチストックノボルガユフ父ナリ。其他ハ此群衆ノ人名ニ付テ到底説明スルヲ得ズ。

圖ニ向テ左手ノ建物ハ本館ノ洗面場及ビ傳敎學校生徒ノ食堂ノアル所、中央三角形ノ屋根ハ井ナリ。

圖ノ右手一ノ入口ト二ケノ窓ノ見ユル建物ハ本會ノ書庫ニシテ三階ノ大室アリ。(其二階ハ後ノ第十一圖ニ示ス者是ナリ、中ニ希臘、露、羅、耶、英、佛、獨、其他外國語ノ宗教及ビ學術ノ群書ヲ藏ス。)此ニ見ユルハ僅カニ第一階ノ東半面ノミニシテ、其後方即チ西半面ノ中ニハ、凡テ翻譯ノ聖書、神學書及ビ著作ノ敎書ヲ藏セリ。



本記—祝辭集

第一部 全日本正教會及び地方教會並に

團體より提出したる祝辭。

奉賀大主教座下序

(全日本正教會を代表して)

敬

ミテ尊榮大徳ナル大神父ニコライ師が主

教ノ聖職ニ叙セラレタル第二十五年ヲ祝シ併  
セテ大主教ニ昇班セラレシヲ賀シ奉ル

恭シク惟ミルニ日月ノ照ス所霜露ノ墜ツル所  
我等ノ主イエスキリストノ道ハ流行シテ  
息マズイウテヤ人トエルリ人ヲ同視スル神ノ  
仁慈ハ氣運ノ回移スル所ヲ炤察シテ福音ヲ萬  
邦ニ施シ億兆ノ民衆ヲシテ其道ヲ歸一セシム  
故ニ主ハ言ヘルアリ他ノ羊此半ニ屬セザル者  
アリ我ハ彼等ヲモ引クベシト

我が邦基ヲ肇メテ二千五百有餘年西方露國ニ  
司祭ニコライ師アリ夙ニ日本傳道ノ志ヲ立テ

單身海ニ航シテ遠ク斯ノ土ニ來リ東方ノ言ヲ  
學ビ東方ノ書ヲ讀ミ衆義ヲ咀嚼シテ眞理ヲ表  
證シ以テ吾ガ豊葦原ノ棒莽ヲ披カント欲シ  
タリシガ時正ニ徳川氏ノ末造ニ當リ海内亂ヲ  
思ヒテ人心歸スル所ヲ知ラズ福音ノ宣傳ハ猶  
ホ禁遏ノ中ニ在リキ王政綱ヲ統ベテ治功新ニ  
趨キシヨリ以降泰西ノ文物漸ク伎能ヲ智術ノ  
上ニ施シテ積年ノ長眠ヲ攪破シ事物ノ外觀纒  
ニ舊態ヲ脱シタルガ如シト雖モ道德蘇倫ノ大  
教ハ之ヲ外邦ニ仰グヲ屑シトセズ訓誨指導一  
ニ之ヲ祖國ノ道念ト古來ノ諸宗トニ取り務メ  
テ異言ヲ攘斥スルヲ以テ護國ノ要ト爲セリ當  
時ニコライ師ハ斯ノ教敵圍繞ノ地ニ立テ福音  
ノ眞道ヲ以テ人心ヲ陶成セント欲シテ屢辛酸



ナ 爭論ノ中ニ嘗メ 危難ヲ禍害ノ間ニ忍ベリ神  
 國ヲ建立スルコト實ニ易易タラザリキ然レド  
 モ上天ノ光明ハ 粲然トシテ 積霧ノ間ニ發射シ  
 テ 篤信虔誠ノ士ヲ 荒草亂麻ノ野ニ起シ師ハ其  
 同勞ニ因リテ能ク多子ヲ艱苦ノ中ニ生ミ教會  
 ナ 四方ニ建立スルヲ得正教宣傳ノ事漸ク其緒  
 ニ就キテ信徒ノ數彌加ハリシヲ以テ明治十三  
 年至聖ナル教務院ハ師ヲ舉ゲテ主教ノ聖品ニ  
 叙シ更ニ之ヲ極東ニ遣シテ教會統治ノ任ヲ託  
 セラレシガ師ハ職ヲ承ケシヨリ二十有餘年其  
 按手ヲ以テ司祭職ヲ多人ニ授ケ宣教傳道ノ士  
 ナ 養フコト亦尠シトセズ能ク彼等ヲ任用シテ  
 教界開拓ノ業ニ服セシメ躬カヲ紛糾セル會務  
 ナ 處理シテ倦怠スル所ヲ知ラズ此等皆ナ師ノ  
 元功盛勳ニシテ我等日本教會全信徒ノ感激シ  
 テ措カザル所ナリ然レドモ大神父ノ謙虛ナル  
 一ニ之ヲ神全能者ト他ノ同勞者トニ歸シテ自  
 ラ與ラズ故ニ我等ハ私ニ感謝ノ心ヲ抱キテ故

ニ之ヲ宣揚スルヲ爲サズ唯我等ノ宏贊大誇セ  
 ザルベカラザル者アリ大神父ガ主イイススハ  
 リストスノ正教ノ定理ヲ證明擁護シテ萬世不  
 動ノ大本ヲ建定スルコト是ナリ蓋聞ク主教職  
 ノ重任ハ己ヲ慎ミテハリストス教ノ定理ヲ傳  
 ヘテ毫釐モ違ハザラシムルニアリト我等謹ミ  
 テ大神父ノ中情ヲ察シ奉ルニ其日夕傾心シテ  
 會事ニ勞スルコト一ナラズト雖其苦心焦慮シ  
 テ當現世教會ノ爲メノミナラズ將來ノ教會ニ  
 モ定理不動ノ基址ヲ堅メテ萬世誤リナカラ  
 コトヲ期待セラルルコト甚深ナリ故ニ聖堂ヲ  
 建テ、奉神ノ諸禮ヲ修シ聖經ヲ翻シ奉事ノ禮  
 典ヲ譯シテ歌章ニ含蓄スル所ノ定理ノ蘊奧ヲ  
 後世ノ教會ニ貽サンコトヲ務メ孜孜トシテ懈  
 ラザルナリ  
 抑明治三十八年ハ大神父ノ主教ニ叙セラレシ  
 ヨリ正ニ廿五年ニ滿チタリシガ故ニ我が國ノ  
 正教會ハ宜シク教會ノ禮俗ニ循ヒテ是ノ年紀

ヲ賀慶スベカリシナリ然レドモ當時我が國外  
 ニ事アリテ干戈戢ラザリシヲ以テ其期ヲ延ベ  
 テ今ニ至リシガ今ヤ我等ハ斯ノ大典ヲ舉行ス  
 ルニ當リ他ニ又一ノ慶事ニ遇ヘリ蓋是ヨリ先  
 至聖ナル教務院ハ殊ニ吾ガ主教ノ班ヲ昇セテ  
 大主教ト爲シ新ニ之ヲ日本正教會ニ立テ日本  
 ナ 以テ其教區ト定メタリ是レ前事ニ倍シテ欣  
 慶スベキ事ナリ蓋既往二十餘年間ノ吾ガ主教  
 ハ其身我國ニ在リテ親シク教務ヲ掌リタリト  
 雖主任ノ地ハ尙遠ク露國ニ在リシニ今ヤ其聖  
 班ノ榮ヲ獲タルト共ニ吾ガ教會ハ其教區ト定  
 メラレ彼ノ野橄欖ノ橄欖ニ接ガレシガ如ク實  
 ニ地方教會ノ一ニ數ヘラレ聖公使徒ノ教會ノ  
 一肢ト爲レリスク我等ハ一事ヲ慶セント欲シ  
 テ二倍ノ慶事ニ遇ヘリ豈吾諸教會ハ聲ヲ合セ  
 律ヲ協ヘテ謳歌 誦詠スベキニアラズヤ唯我等  
 ハ恐ルズノ歡聲ノ一時ニ虛發シテ其實ヲ後日  
 ニ傳ヘザランコトヲ是ノ故ニ我等ハ警醒シテ

此ノ崇大鴻明ナル 恩寵ヲ降シ給ヒシ神ニ感謝  
 スルト共ニ幼穉ニシテ微力ナル我が教會ガ斯  
 ノ尊榮ヲ蒙リシガ爲ニ恐懼シテ其教會ヲ充實  
 セシメンコトヲ務メザルベカラズ  
 露國ノ正教會ガ日本ノ教會ヲ定メテ大主教區  
 ト爲シニコライ大神父ヲ升セテ其職ニ就カシ  
 メシハ譬ヘバ壯麗高美ナル宮殿ヲ造リテ其保  
 管者ヲ置キシガ如シ然レドモ虛堂ノ荒漠ナル  
 ハ豈 其輪奐ノ美ニ稱ハンヤ其レ必什器調度ヲ  
 備ヘ以テ之ニ充實セシメザルベカラズ即定理  
 不動ノ大鼎ヲ置キ福音宣傳ノ巨鐘ヲ懸ケ教會  
 經營ノ寶藏ヲ充テ德操固守ノ金壺ヲ設ケ信望  
 愛三德ノ衣裳ヲ襲キ溫柔謙遜ノ屢帳ヲ張り諸  
 使徒預言者諸聖人ニ陪從シテ在天ノ主ニ奉事  
 セザルベカラズ而シテ斯ノ大美盛觀ヲ備フル  
 ハ一ニ吾ガ大主教座下ノ嚮導保護ヲ仰ガンコ  
 トヲ要ス故ニ我等ハ斯ノ大典ヲ賀慶シテ吾ガ  
 大主教座下ノ永ク我が微弱ナル教會ヲ牧シ給



ハンコトヲ希望シテ已マズ

今ヤ我等ガ歡喜ノ情ハ最高ノ潮度ニ達シ我等  
ガ謳歌ノ聲ハ至極ノ琴調ニ協ヘリ茲ニ我等日  
本諸教會ノ神品傳教者及ビ其他ノ教役者并ニ  
信徒ハ聊日本全教會ノ葵衷ヲ申ベテ別牒目錄  
ニ記載スル所ノ祭衣冠一具ヲ大神父ノ尊前ニ  
奉獻シ以テ祝慶ノ微誠ヲ效シ併セテ子育ノ恩  
ヲ永久ニ垂レンコトヲ求ム冀ハクハ祝福シ給  
ハンコトヲ

主降生一千九百零六年明治三十九年七月十一日

大日本國ハリストス正教會ノ神品傳教者及ビ  
其他ノ教役者并ニ信徒ニ代リテ奉呈ス

長司祭パワフル澤邊琢磨拜具

賀 表

東京市十五區内ニ存立セル十有七ヶ所ノ正教會二千有餘  
ノ子ハ茲ニ同心一信ニシテ至愛ノ父我ガ日本教會ノ創立者ナ  
ルアルヒエビスコフ ニコライ尊師ノ二大吉事ニ就テ滿懷至  
誠ノ慶賀ヲ表シ奉ル

謹テ按ズルニ尊師ガ 主イ、ス、ハリストスノ福音ノ爲  
ニ全靈全身ヲ獻ジ給ヘル勉勵勵精ニ依リテ我ガ國ニ純正無玷  
ノ教ハ愈々弘布シ遂ニ大牧者タルエビスコフノ尊職ヲ要スル

ニ至リ至聖シノドガ最モ適當ナル敬虔ナルアルヒマンドリト  
ニコライ尊師ヲ以テ是ノ尊職ニ叙聖シタルハ明治十三年四月  
ニシテ昨三十八年四月ハ實ニ其二十五年紀ニ當レリサレド當  
時事故ニ因テ斯ノ祝典ハ暫ク延期サレシニ今日新ニアルヒエ  
ビスコフ昇叙ノ吉事ヲ合セテ吾人ハ茲ニ二大祝典ヲ一時ニ祝  
謝シ得ルノ佳日ニ逢ヘリ是レ主神ノ恩佑ニ因ルハ言フ俟タズ  
ト雖モ又尊師閣下ノ功德ニ因ル者ト信ジ吾人ハ欣喜感謝ノ至  
リニ堪ヘズ一言無辭ヲ陳ベテ至愛ナル閣下ノ健康長生ト併セ  
テ祝福ノ下ニ我ガ日本正教會ノ益々成長弘延センコトヲ祈ル  
ミン

明治三十九年七月十一日

東京市ハリストス正教會

- 麹町 番町 小石川 諸教會
- 牛込 赤坂 麻布 諸教會
- 四谷 山ノ手 諸教會
- 神田 日本橋 京橋 芝 諸教會
- 下谷 本郷 淺草 本所 諸教會
- 深川 教會

各管轄司祭傳教者及ビ信徒一統

主教尼透賴師の主職叙聖二十五  
年 祝典の祝辭

尾張 常滑福音教會信徒總代上

父と子と聖神の名によりて 大日本正教會今後の大發展  
と主教尼透賴閣下の長壽を禱る

明治三十九年七月十一日を以て大日本ハリストス正教會の  
神品傳教者並に信徒は尊憲なるわが主教閣下の同職叙聖二十

五年紀念祝典を東京復活大聖堂に於て奉行し且つミトラ マ  
ンテヤ オモフル エビトラヒリ等を 獻呈せらる 苟も尊師  
傳道の成果たる三萬の日本正教徒は云ふに及ばず直接間接に  
師の薫陶を蒙れるもの將た其徳を慕へるもの誰か滿腔の感謝  
と喜悅とを以て之を慶賀せざる者あらんや況んや我等多年直  
接に同師の撫育を蒙り光照を受け本日の盛典に参加するの榮  
を得るものに取りては更に其情の増大するなくんばあらず

抑々師が修道司祭として日本帝國教化の壯圖を抱き北海函  
港の地に上陸してより今日に至るまで殆ど四十有餘年の星霜  
を経其間幾多の辛慘を嘗めしかは到底他人の得て想像す可ら  
ざる量に屬す或は日本を覬覦するものと疑はれ或は皇室に不  
敬を及ぼすものと罵られ或は密探者として蛇蝎視せられ逆境  
より逆境に赴く事昔者ネロン帝ユリアン帝時代の無明に髣髴  
たるものありき而も其間に處し熱切なる信仰と愛とを把持し  
「鵬の巢を喚起し其子の上に舞翔る如く神は其羽を展べて  
彼等を載せ其翼を以て之を負ひ給ふ」(申命記二二) 如く己が生み  
し日本正教會を擁護し從容侃諤紳々として餘裕ある態度は何  
に比すべきか余は聖經の所謂「我等嘗られては祝福し窘透せ  
られては忍び誘られては禱る我等は世の汚穢の如く衆の踐む  
所の塵垢の如くせられて今に至れり」(コリント前四)との聖使  
徒の境遇を再現したるものたる感なくんばあらずるなり實に  
四十餘年間の苦戦健闘豈凡人の能く耐ふる所ならんや而も師  
の敢て意に介せざるもの、如きは適くして師の信仰の「我死  
の蔭の谷を歩むも禍を恐れず主我と偕に在せばなり」(詩廿二)  
の境に達したる堅實のものなるを見る吾人は師の事業の過程

賀 辭

江間教會よりの

我ガ 尊憲ナル主教ニコライ師ノ主教職叙聖廿五年紀ヲ

祝ス

明治三十九年七月十一日



江間正教會信徒總代

伊奈 マトノイ 仰

宮階 エラスト 仰

前 賀 辭

三島教會よりの

三島正教會信徒總代

大沼 ダマド 仰

外 一名

祝 詞

小樽教會よりの

父ト 子ト 聖神ノ名ニ依テナリ阿民

明治三十八年四月十二日ハ尊嚴ナル主教尼適頼大神父閣下叙聖二十五年ニ相當セラレシヲ以テ茲ニ其祝典ヲ舉ラル罪神子等欣喜措ク能ハザル所ナリ閣下ハ萬難ヲ排シ聖恩ノ流ル、最高ナル主教職ヲ全クセラレ第壹祝期ニ達セラレタルモノ是レ主神ノ容旨ニシテ大日本正教會ニ屬スル吾等歡天喜地ノ感ナクンバアラズ獨リ信徒タル吾等ノミニアラズ實ニ吾ガ國家ノ幸福ト云フ可シ伏シテ祈ル自今益々神寵ニ滿被セラレ長壽ト壯健トニ在シテ照導シ給ハランコトヲ聊カ蕪辭ヲ述ヘ祝詞ヲ奉呈ス

明治三十九年七月十一日

小樽生神女進堂會信徒總代

バ エル 松 本

マ ル ク 澁 谷

イ リ ヤ 高 村

祝 詞

尾張 坂井教會よりの

最モ尊嚴ナル我等ノ エビスコフニ格頼尊師弱冠弱ヲ挺シテ單身孤杖遠ク西伯利亞ノ曠野ヲ横斷シテ遙カニ絶東ノ一孤島ニ渡來セラレ靈界ノ榛莽ヲ拓キテ拮据天國ノ種子ヲ下シ玉フコト實ニ四十有餘年其間ニ於ケル幾多ノ苦心幾多ノ困難想フニ慘憺淋漓タルモノナクンバアラズ絶倫ノ信仰の大忍耐力ト超凡異常ノ献身の大精神ト有スル者ニ非ズシテ誰カ能ク斯ノ如キ使命如斯大任ニ其命ヲ委スルヲ得ンヤア、此事既ニ偉大ニ屬ス假令有形眼前ノ事業ノ如キハ暫ク之ヲ論ゼズトスルモ尙傳ヘテ以テ永ク東洋ノ傳道史ヲ飾ルノミナラズ併セテ唯一聖公使徒ノ教會史ニ光榮アル異采ヲ加アルモノト言フベキ也況ンヤ此使徒の大勇猛心ノ汪然セル所發シテ全國二萬八千有餘ノ信徒ト爲リテ到ル處ニ信仰上ノ靈華ヲ開キ凝テハ巍峨雲表ニ聳立セル大殿堂ト爲リテ全國二百有餘ノ教會ト其經營トヲ治理統轄ス是レ固ヨリ神恩ノ厚キニ因ル所ナリトハ言ヘ主教尼格頼師ノ崇高ナル人格ト其不斷ノ勤勞トニ因ラズシテ焉ゾ克ク如斯ナルヲ得ンヤ爾來我邦ノ文化ハ長足ノ進歩ヲ加ヘ内外ノ形勢亦著々トシテ新ナル面目ニ移リ隨而教會事業ノ發展モ前途益々有望ナルモノアラントス此時ニ當リ在京ノ教役者各位及有志信徒諸子相圖リテ茲ニ主教叙聖廿五年ノ記念祝典ヲ舉行セラルト聞ク想フニ是レ日本正教會ナルモノアリテ以來寔ニ空前ノ盛事無比ノ大典ナリト謂フベキ也聞クガ如クンバ露國聖務會院亦深ク我エビスコフ多年ノ功勞ヲ嘉セラレ昇スニ大主教ノ聖位ヲ以テセラルト嗚呼祝謝何

モノカ之ニ加ヘン慶賀何者カ之ニ加ヘン聊カ蕪辭ヲ陳シテ遙カニ當日ノ盛典ヲ奉祝ス願クハ神恩長ヘニ滿被セラレンコトヲ

主降生一千九百零六年七月十一日

尾張國 坂井正教會信徒總代

マトノイ 日比 松藏 仰

ベ ト ル 望月 富之助

尊嚴ナル主教御叙聖二十五年

祝典御祝詞

備前 兒島教會より

至聖 至潔ナル永在ノ救世主イ、ス、ヘリストス之御恩祐ト其聖名ノ下ニ我等罪僕婢ハ

維時救主降生一千九百零六年七月ベトルバエル祭ヲ期シ尊嚴ナル大神父アルヒエビスコフ閣下ガ主教御叙聖ヨリ以來御壯安御勇健以テ茲ニ二十五年ニ相渡ラセラレタル記念祝典ヲ舉行セラレタルヲ欣喜萬祝ニ絶エズ閣下ガ光榮アル主ノ傳道ニ一意献身セラレ罪僕婢タル我等迷羊ヲ真理ニ指導セラレ益々御勇壯ニ拜スルハ我等一同欣祝ニ絶ヘズ四十年來一日ノ如ク親子慈母ノ御慈恩御降福ヲ我等罪人ニ下賜シ玉フ事ヲ誠心誠意感泣謝恩ニ絶エズ茲ニ深ク欣祝ト謝恩ノ意ヲ謹ンデ表呈仕候尙這般拜聞御公示ニ接シ奉レバ多年御神前ノ勤功ハ大主教ノ御叙聖ト成リ罪僕婢等一生ノ光榮ニ浴スル事ト更ニ斯ノ最高至榮ノ御顯職ヨリ罪僕婢等ニ慈愛ノ御降福ヲ賜ハル事ヲ欣喜感謝奉候希クハ大主教閣下ノ益々御勇壯御壯安ヘ斯ノ欣ブ可キ日ヲ更ニ倍大シテ御長壽御平安ニ大主教御叙聖二十五年

記念祝典ヲ上ゲラル、ニ到ランコトヲ主ノ御慈恩ニ依リ吾等一同希願ニ絶エズ誠惶謹言

教主降生一千九百零六年七月十一日

備前國兒島復活正教會

信徒總代 執事アンドレイ太幸克己 仰

傳教者イグナテイ龜井介男 仰

賀大主教尊上叙聖廿五年ノ祝狀

宮津教會よりの

至聖三者ノ御名ニ依リテ也阿民

時惟レ明治卅九年七月十一日我等ノ最モ敬愛ナル尼格頼大主教尊上ノ是ノ祝典ニ際會シ我等豈之ヲ祝シ之ヲ神ニ感謝セザルヲ得ンヤ昔救世主降臨シ給ヒ救贖ノ大法ヲ示サレシ以來聖賢相繼デ顯ハレ其大法ヲ世界ニ宣傳シ罪ノ子ヲ救ヒ迷ヘル者ヲ導キ邪ヲ排シ闇ヲ照シ頑ヲ開キ望ナキモノニ望ヲ與フ是レ世界ノ暗黒ハ神ノ限リナキ恩寵ニ光照セラレツ、アルモノニアラズヤ而テ一匹ノ迷羊ヲ山ニ遣シ給ハザル神ハ豈我等ヲ忘レ給ハンヤ

大主教尊上ハ此神ノ使命ヲ抱キテ我等ニ來リ給ヒ我等ヲ補導シ我等ヲ教訓シ我等ガ迷ヒノ深クシテ悟ルコトノ遅キヲ怒ラズ我等ノ頑ニシテ理ニ反スルヲ正シ倦ム事ナシ 鞠躬不拔謹嚴薰陶十年尙一日ノ如シ然ルニ濼々タル塵寰ハ常ニ彼ノ身邊ヲ蔽ハントシテ威嚇スルコト獅子ノ羊ヲ怒喝スルガ如シ冷嘲熱罵譏毀誹謗極マルナシト雖モ彼ハ其使命ヲ信ズルコト深厚ナレバ眞摯爛熳聖然トシテ其態度ヲ改メズ諄々トシテ正道ヲ教示



シ以テ今日ニ至ル我等ハ其偉ヲ謳歌スルト共ニ其優恩優愛ヲ神ニ感謝ス  
 歲月ハ流ル、如ク先年ハ其渡來四十年ノ祝典ヲ奉祝シタリ然シテ我等ノ正教ハアラユル困難ヲ排シ嘲罵スルモノ、言詞ヲ空シカラシメ敵對スルモノ、理由ヲ破壞シ以テ教會ノ基礎ヲ確立シ更ニ進ンデ一大發展ヲ試ミントスルノ日ニ於テ大主教尊上ノ此祝典アリ我等現教徒之ヲ祝セントテ高キ歡聲ヲ舉グルハ其ノ所ナリト信ズ、今日此盛典ニ相遇シテ感慨ノ極マリナキモノアリ謹ンデ祝意ヲ表ス

宮 津 正 教 會

- バホミイ 村 瀬
- イオアン 建 部
- イリヤ 山 内
- ベトル 山 田
- 其他信徒一同

賀 辭

松川 奥玉 及び 會慶教會よりの

謹而我ガ 尊憲ナル主教尼格頼師ノ大主教ニ昇叙セラレシヲ賀シ奉ル

明治三十九年七月十一日

岩手縣東磐井郡松川正教會信徒總代

- バエニル 島山直之助
- イヲアン 石川 善平團
- 全縣全郡奥玉正教會信徒總代
- ステハン 小山 利元

祝 辭

下總 小見川教會よりの

謹テ惟ミルニ 大主教ニコライ師 福音宣布ノ使命ヲ負フテ我國ニ渡來セラレテヨリ年ヲ經ルニ茲ニ四十有餘年今ヤ其徳ヲ慕ヒ風ヲ望ンデ歸信セシモノ殆ド三萬人ニ垂ントス是レ偏ニ主神ノ祐助ニ因ルト雖モ師ガ燃ユルガ如キ熱信ト絶群ナル精力ノ致ス所ニアラズンバ安ゾ能ク此ノ如キヲ得ンヤ人聖使徒バエニルヲ以テ師ヲ擬ス實ニ故アリト謂フベシ

下總小見川正教會ハ本日ノ祝典ニ際シ謹ンデ祝意ヲ表シ併セテ主神ノ恩寵益々師ノ上ニ洽カラント祈ル

敎主降生一千九百六年

千葉縣下總香取郡小見川正教會

賀 辭

下總 舟尾教會よりの

謹慶賀 尊憲大主教尼格頼大父閣下聖職二十五年紀祝典 恭讃頌感謝其宏功 併祈閣下之長壽萬福

降生一千九百六年七月十一日

千葉縣印旛郡船穂村舟尾正教會信徒總代

- イアコフ 細谷 佐重
- モイセイ 豊島伊三郎

尊憲大主教尼格頼大父閣下

祝 辭

豊榮 吉岡 及び其他の教會より

大主教閣下 閣下ガ叙聖二十有五年ノ祝典ハ 閣下ガ慈

- アキラ 宍戸 彰
- 全縣全郡會慶正教會信徒總代
- ベートル 佐藤壽三郎
- ベートル 及川右七郎
- 傳教者 ルカ 安宅 博
- エビスコフニコライ尊上

賀 辭

御殿場及び小山教會よりの

謹奉賀主教叙聖二十五年 併而感謝多年之聖恩

降生一千九百六年七月

御殿場小山正教會信徒總代

- イオシフ 荒 井
- コノン 竹 内
- マトスイ 佐々木
- 傳教者イリヤ 本 多

大主教閣下

賀 辭

濱松教會よりの

謹祝賀叙聖二十五年之大典併而祈大主教閣下之萬歲

明治三十九年七月十一日

遠江國濱松正教會

- 傳教者マトスイ 松 永
- 執事 モイセイ 太 田
- 全 ベートル 川 合
- 大主教ニコライ尊上

父トシテ扶育セル少年ナル日本正教會信者ガ熱情ヲ以テ閣下ニ感謝ノ意ヲ表スルニ最モ適當ノ時タルヲ信ズ和平ノ神ノ教會ハ初ヨリスラヤン民族ト大和民族間ノ唯一ナル親愛ノ握手ニアラズヤ時妖雲去テ晴明ノ天ヲ仰グニ會シ茲ニ此大典ヲ舉ゲラレ又殆ド同時ヲ以テ聖務會院ハ閣下ヲ大主教ニ陞進セラレ是レ閣下多年ノ陰密ナル勤勞苦難ガ明顯ニ僅ニ表彰セラレタルモノニアラズヤ閣下ノ兒等ガ如何ニ大ナル悦ニ滿テラルヤヲ見ルコトヲ悦バレヨスシテ兒等ハ遂ニ自ラ立テ歩ムコトヲ見ルノ悦ヲ閣下ニ得ンコトヲ禱ルナリ希クハ閣下永ク健康ナレ主ナル神ハ祝讃セラルベキ哉亞民

一千九百六年七月十一日

豊榮、吉岡、七榮、八街等各會信徒ト共ニ

- バエニル 金 杉 再 拜

大主教閣下

祝 詞

茨城縣鮎川教會よりの

至聖三者ノ御名ニ依ル 阿民

大日本帝國ハリストス正教會主教ニコライ閣下叙聖二十五年ノ記念ニ際シ本日ヲ以テ其盛儀ヲ舉ゲラル不肖熱信ト感謝トヲ以テ鮎川正教會ヲ代表シ茲ニ謹テ祝意ヲ表シ奉ル

明治三十九年七月

茨城縣多賀郡鮎川正教會總代

- イアコフ 小 野 敬 白



祝 詞

次城縣 太田教會よりの

謹 奉賀大主教仁道頼師之主教職叙聖二十五年紀念祝典

明治三十九年七月十一日

茨城縣太田正教會信徒一同

バエル 佐久間

祝 詞

青森教會よりの

維時明治三十九年七月十一日大日本帝國東京駿河臺復活大聖堂主教座ニ於テ尊主叙聖二十五年ノ紀念祝賀式舉行セラル我等此ノ千載一遇ノ聖典ニ際會シ何ノ喜悅乎之ニ若カンヤ 伏テ惟ルニ我等救贖ヲ得ルハ主神全能者ノ至愛ナル鴻恩ニ依ルト雖モ亦尊大主教閣下ノ博愛ナル鴻慈ノ賜ナリ抑モ尊大主教閣下今ヨリ四十有餘年前ニ絶海ノ孤島ナル此國ニ渡航セラレシトキハ人文ノ開發幼稚ニシテ殊ニ宗教ハ暗黒時代ト云フモ敢テ謬言ニ非ザルノ時ナリ然ルヲ閣下世ノ光トナリテ死蔭ノ境ニ處ル我等ヲ光明ノ子トナサンガ爲メ四十餘年間一日ノ如ク勉メ今ヤ三萬ニ垂ントスル光明ノ子ヲ得其間種々ナル内外ノ迫害窘逐ニ遭遇セラレシモ毫モ屈スルコトナク堅忍不拔ノ熱信ヲ以テ主ノ群羊ヲ牧シテ本日ノ盛典ヲ舉グルニ至レリ豈偉ニシテ盛ナリト云フベシ特ニ本年ハ閣下大主教ニ御昇進セラレシ大典ニ會シテ我等信徒タル者滿腔ノ喜悅ヲ以テ此記念ヲ祝賀セザルヲ得ズ聊カ蕪辭ヲ述ベテ祝詞ニ代フト云爾

明治三十九年七月十一日

青森正教會信徒總代

シメオン 松原 清  
ベートル 楠引 貞作

祝 辭

石卷 廣瀨及び鹿又教會よりの

詩ニ曰ク 我ガ口ハ樂ニ盈テ我ガ舌ハ歌ニ滿ッ其時諸民ノ中云フアリ主ハ彼等ニ大事ヲ行ヘリト主ハ我等ニ大事ヲ行ヘリ我等喜ベリト小子等敬ミテ斯佳詠ヲ大主教ノ尊前ニ獻ジ以テ千載一遇ノ盛典ヲ奉祝ス

一千九百零六年七月十一日

石卷聖伊望教會信徒、廣瀨及鹿又地方在住信徒一同

祝 詞

鳥山教會よりの

千時 明治三十九年七月十一日我が正教會ニ於テ現大主教ニコライ師父ノ主教叙聖二十五年紀念祝賀式ヲ舉行セラル抑モ大師父ガ本朝へ渡航以來傳道ニ從事シ我が國禁未ダ除カザルノ日ニ方リ榛藪ヲ披キ東京ニ函館ニ西走東奔危險ヲ冒シ萬難ヲ排シ生命ヲ神ニ捧ゲシ以テ還四十餘年ノ久シキ一日ノ如シ其後明治十三年ニ至リ主教ニ陞セラレ又三十七八年日露難ヲ構フルニ會シ大師父ガ一日モ我正教會ヲ去ラズ兩國ノ間ニ介シ言フニ忍ビザルノ苦境ニ陥ルモ屈セズ擔マズ拮据勵精兩國民ノ爲メ盡瘁セラル而ルニ神ハ兩國ノ民ヲ愛シ憐れ成リ國交舊ニ復スルニ及ンデ其功勞ヲ酬ユル所カ本年大主教ニ榮進

尊意ナル主教尼道頼閣下

祝 辭

盛岡教會よりの

我が親愛ナル大主教閣下 エビスコプ叙聖ノ榮ヲ得ルヤ茲ニ二十有五年ノ星霜ヲ經今ヤ又大主教ノ榮進ヲ見ルニ當リ我が同志相圖リソノ祝典ヲ舉グルト聞キ一言ノ祝辭ナクシテ豈可ナランヤ

伏シテ惟ミルニ我が親愛ナル大主教閣下主ノ福音ノ教斧ヲ携ヘ荒々漠々タル西比利亞ノ原野ヲ横斷シ我が邦ノ教田ヲ粗クヤ茲ニ殆ド五十年ソノ間幾多ノ艱難幾多ノ辛勞ト苦闘シ今ヤ三萬有餘ノ成果ヲ視ルニ至ル之レ天ノ植付ケ給フ聖寵ニ憑ルトハ雖モ閣下灌漑ノ勞全ク與リテ大ニ力アリト言ハザルヲ得ズ我等之ヲ思ヒ之ヲ考フルトキハ感謝措ク能ハサル所ナリ殊ニ近クハ三十七八年ノ比東雲暗鬱タル秋ニ當リ閣下毅然トシテ我等ヲ思フノ餘リ身命ヲ擲テ我が邦ニ留リ教養到ラザル所ナキンノ深情ニ至リテハ轉々感泣ニ堪ヘザルナリ今ヤ四海波靜ニシテ稍モ鳴ラス平和ノ秋ニ際シ閣下ノ祝典ヲ舉ゲラル、ヲ聞キ欣喜雀躍ノ至リニ不堪聊カ蕪辭ヲ呈シ祝意ヲ表シ併セテ閣下ノ萬壽ト永福トヲ切ニ禱リ我が日本帝國否福音ノ光ヲ世界ノ上ニ耀カサンコトヲ

明治三十九年七月十一日

盛岡十字教會信徒一同團

賀 表

神戸教會よりの

至愛ノ主ハ今日我等ノ爲ニ新ニ記憶スベキニ大事ヲ感謝スル大佳日ヲ賜ヘリ一ハ我等ノ大牧者長タル主教ニコラ

セラレ記念感謝式ト共ニ祝典ヲ舉グルニ至ル於是乎我輩罪子大師父ノ功德ヲ稱贊セント欲スルモ言語紙筆ノ得テ盡ス所ニ非ズ然ルニ我國正教ノ徒トシテ神ノ子タルヲ得ルモノ千萬人中ソレ幾人カアソノ實ニ滄海ノ一粟モ管ナラズ故ニ大師父ノ前途ニ於ケル勞役未ダ緩ウス可ラズ自今益々異教ノ罪子ヲシテ神ノ愛ニ接セシメ我國正教會ノ獨立ヲ致シ愈々隆昌ノ域ニ達スルヲ期セラレンコトヲ懇希シテ已マザルナリ記念會ノ祝典ニ際シ蕪辭ヲ願ミズシテ恭シク祝詞ヲ捧グ阿民

明治三十九年七月十一日

鳥山ハリストス正教會

副傳教者 バエル 橋 公武  
マ マ 中山 市  
イオアン 鈴木民之助  
ユリヤ 大石 貞子  
アンナ 網川 奈美

賀 辭

陸中 磐井教會よりの

主之 御名ニ 因リテ也

謹啓陳者茲ニ罪僕等一同閣下ガ主教職就任後二十五年ニ當ラレタルヲ記念シテ滿腔ノ祝意ヲ表シ尙一層優渥ナル神恩閣下ト偕ニセンコトヲ奉禱候敬具

明治三十九年七月

陸中國西磐井郡山目村

磐井正教會信徒一同團

傳教者 三ト 中島◎



イ大師父が使徒ノ相續者タル聖職ニ立テラレシヨリ茲ニ二十五年即チ大禧年ノ半ヲ過グル期間ニ於テ主神ハ彼ヲ壯健ニ護リ我等モ彼レノ祈禱祝福ニ依テ護ラレシヲ記憶スベキ者一ハ大師父ガ丁年ニシテ使ヲ奉シ遠ク異邦ノ我が朝ニ來リシ始メヨリ老イテ古稀ノ壽ニ達スル今時ニ至ルマデ主イ、ス、ハリストスノ爲ニ世ノ千々ノ苦辛ト萬々ノ妖言ヲ意トセズ一ニ愛ノ精神ト献身ノ行動ヲ彰ハセシ功勞及ビ殊ニ非常時ニ於ケル宗教家タル勳勞ニ因テ至聖務會院ヨリ特ニ大主教ノ榮位ニ昇叙サレシヲノ感謝スベキ者はナリ彼レガ牧群中ノ至微ナル神戸正教會ハ茲ニ全信徒ノ全靈全心ヲ擧ゲテ此ニ大吉事ヲ祝シ感謝ノ誠意ヲ表ス願クハ大仁慈ノ主ハ我が至愛ノ大主教ヲ永久ニ佑ケ併セテ彼レノ聖右手ニ依テ我等ニモ恩露ノ灌ガレシヲアミン

降生一千九百六年  
明治三十九年七月十一日

神戸正教會代表者  
傳教者 雅各 萱野三次郎  
執事 但以理 津田 清吉

全 彼得 井土久次郎  
尊榮ナル主教尼适頼大師父閣下

祝 詞 鹿兒島教會よりの

明治三十九年七月十一日ノ佳日ヲトシ 閣下ノ主教職叙聖二十五年ノ盛典ヲ舉行セラルル何ノ喜カ之ニ若シヤ加フルニ主神ハ此祝典ヲ榮スルニ大主教ノ高品ニ昇叙ヲ以テセラル閣下ヲ敬慕スル吾等正教徒ニシテ誰カ慶賀ノ聲ヲ發セザルアラシヤ吾等心ヲ一ニシテ主ノ光榮ヲ歌ヒ併テ閣下ノ萬歳ヲ祝ス阿民

鹿兒島ハリストス降誕教會

祝 詞 日向延岡教會よりの

謹 奉祝賀 主教叙聖二十五年

降生一千九百六年七月十一日

日向國延岡正教會  
イオアン 内藤興二郎



祝 詞 女子神學校よりの

主降生一千九百六年七月十一日 吾が大主教座下の主教職に叙せられたまひしより第廿五年になりたる記念日に大主教に榮進し給へる祝典は紫雲たなびく復活大聖堂に於て舉行せらる時恰も總公會の秋にあたるを以て東より西より雲の如く烟の如く簇りつとど給へる教役者の君たちを初め幾多の兄弟姉妹はこゝに會して大主教座下の美しき御けしき拜しつゝ、歌頌する者はたちて歌ひ衆人は手を拍ちて慶び讚美と感謝との聲は堂の中に充ちあふれん計りなれど主のつくり給ひし佳き日に於て實に吾が正教會未曾有の大祝典なりといふべし謹みて惟ふに吾が大主教座下は遠く萬里の波濤を越えて吾が國に渡り給ひ具さに千辛萬苦をなめ給ひつゝ一意に天國の福音をつたへて吾等迷へる羊を救はたまふとこゝに四十有餘年而して尊貴なる主教職の榮冠を戴き給ひしより實に二十五年に滿ちたりし此の間に於て吾等に被らせたまひし慈愛と功勞とは吾等之を述ぶるに日を盡し夜をつぐともなほ足らぬ所あり而かも今や其功勞と熱心とは神の御手より親しく報いられてこたび光榮なる聖職に再び榮冠を加へられて大主教に昇進したりとうけたまはる

あゝ吾等多手其撫育のもとにあるものは豈欣然雀躍し祝てひたのしまざるを得んや是れ此の盛大なる祝典のあげらるゝに至りし所以なり吾等不當の小婢も此の席に列するを得て悦びに堪へずいさゝか微言を呈して祝辭に代ふ伏て願はくは大主教座下が至聖二者の恩佑を滿被して吾等群羊は更なり死の

かげにある吾等幾萬の同胞の爲に幾とせも壽を保ちて真理の光をいよゝ明かにつたへ給はんことをなほ小婢等も大主教座下の祝福をあふぎて神恩のもとに女子の道を全うしいさゝか座下の聖業をとり給ふ器とならん事を乞ひ願ふこと切なり  
明治三十九年七月十一日 女子神學校

祝 詞 正教神學校よりの

高德ナル大主教 ニコライ大神父 座下

座下ハ尙青年ニシテ祖國ヲ去リ爾來 殆ド五十年 我ガ日本ヲ第二ノ故郷トシテ専ラ身ヲ福音傳播ノ聖業ニ捧ゲテ寧日ナシ而シテ座下第二故郷ノ後半生ハ主教ノ聖職ニ在マシテ一身ヲ教會ノ勞ニ献ゼラル

抑モ使命ト云フ語ハ世人往々之ヲ濫用スレドモ座下ノ如キハ眞ニ使命ヲ全フル者ト謂フベキナリ座下ニシテ若シ榮進ノ念アリシナラバ既ニ我ガ日本ヲ去リ今ハ露國教會ノ神品中ノ第一位ヲ占ムルハ容易ナリシナラン然ルニ座下ハ榮譽ヲ輕ンジ使命ヲ重ンジ堅忍不拔我ガ日本國ヲ以テ墳墓ノ地ト定メ現ニ二百以內ノ教役者ヲ指導シ倦マズ夙夜勵精實ニ聖徒使バエルノ所謂「我レ若シ福音ヲ傳ヘズバ禍ナル哉」(コリンテ前書九章十)ノ精神ヲ活現ス

我ガ日本正教會ハ座下ガ手ヅカラ播キシ種子ヨリ繁生セシ田園ナリ秀デタル麥ノ中ニ稗ト雜草ノ存スルハ免ルベカラザルモ今現ニ五十倍或ハ百倍ノ收穫ヲ與フルモノナリ

我ガ正教神學校ハ座下ノ創設ニシテ三十餘年來常ニ座下ノ熱愛懇篤ナル保護ト監督ノ下ニ立テテ教役者養成ノ大任ヲ負



フ而シテ日本ノ使徒トシテ世界ニ高名ナル座下ノ大人格ノ感  
化ニ浴スルハ職員及ビ生徒ノ爲メニ無上ノ裨益ト名譽ニシテ  
我等職員一同ノ常ニ感謝ニ堪ヘザル所ナリ今茲ニ大主教座下  
ノ聖職二十五年ノ祝典ニ際シテ聊カ祝辭ヲ呈シテ座下ノ我  
等ニ對スル慈愛ナル眷顧撫育ヲ謝シ並ニ座下ノ高壽ヲ祈リ以  
テ祝意ヲ表ス

明治三十九年七月十一日

正教神學校

祝 詞

名古屋教會よりの

大主教尊上獲ニ至上者ノ使命ヲ奉ジテ貴臨セシヨリ以來  
四十餘年一日ノ如ク高潔己ヲ持シ至誠人ヲ教ヘテ敢テ渝ラズ  
泰然駁論ノ目標トナリテ具サニ譏諷迫害ヲ嘗ム暗ハ光ヲ  
蔽フ能ヘズ我等死陰ノ民漸ク興起シテ救贖ノ恩ニ浴スルヲ得  
タリ加之今ヤ既ニ諸敵愧耻シ凡百ノ疑惑朝露ノ如ク消ニ失セ  
舉國靡然トシテ真理ノ光輝ヲ仰ギ望ムニ至レリ是レ偏ニ尊上  
教化ノ致ス所ナリト信ズ惟フニ將來ノ擴張期シテ待ツベシ茲  
ニ其主教職叙聖二十五年ノ祝典ヲ舉グルニ際シ又大主教ニ昇  
叙セラレシ嘉音ニ接ス主神ノ我等ニ福ヒスルニ何ゾ此ニ至  
ルヤ今罪子等彼此歡ビニ滿テラレ熱誠ヲ以テ慶賀ノ意ヲ表シ  
聊カ多年眷顧ノ恩ニ酬ヒント欲ス猶斯ル善牧者ヲ賜ヒシ主神  
ニ感謝シ且祈ル願クヘ主ハ我大主教ニ長壽ト平安トヲ賜ヒ彼  
ニ由テ速ニ凡ソノ迷羊ヲ救ヒ之ヲ其一牢一牧ニ合セ給ハンコ  
ヲ恭シク燕辭ヲ上リ謹デ祝ス

一千九百零六年七月十一日

名古屋福音會

司 祭 ベトル 柴 山

祝 詞

松山教會よりの

謹 奉賀 我尊憲ナル大父ニコライ師之主教職叙聖二十  
五年

明治三十九年七月十一日

松山正教會

祝 詞

日向 飢肥教會よりの

我 尊憲ナル大主教閣下

閣下主教ノ聖職ニ昇叙セラレ我大日本帝國ノ群羊ヲ牧セラレ  
、正ニ二十有五年此間ニ於ケル吾大日本正教會ノ進歩發達ハ  
實ニ偉大ナルモノナリ是ニ至上者ノ恩寵ニ基因スルモノタ  
ルヤ論ナシト雖モ又閣下が主ニ於ケル献身的熱誠ヲ以テ教會  
ノ聖業ニ盡粹セラレ、ナクンバ焉ゾ斯カル偉大ノ功蹟ヲ實現  
スルヲ得ンヤ閣下が如何ニ慈母ノ愛ヲ以テ吾全群羊ヲ孕育愛  
養シ給ヘルカヲ追懷スルモノニシテ聖經ノ所謂「己ノ生命ヲ  
羊ノ爲ニ捐ツル善キ牧者」トハ閣下ニ對シテ最モ適切ナル聖  
言タルヲ信ゼザルモノアラズ今茲ニ閣下ノ主教職叙聖二十五  
年ノ記念祝典ヲ舉グルニ際シ不肖罪子等飢肥正教會信徒一同  
ヲ代表シ謹デ閣下ノ萬福ヲ奉祝シ尙神恩常ニ閣下ノ上ニ豊カ  
ナランコトヲ奉禱ス

明治三十九年七月

- フオドル 黒田兵三郎
- アレキセイ 梅村 友清
- マルコ 吉野 清
- ミロン 金丸 喜被
- リ 高橋 新衛

- 傳教者 バエル 寺 島
- 信徒總代 イリヤ 宮 下
- 全 エリセイ 馬 場
- 全 アキラ 水 谷

小倉教會よりの

謹而小倉正教會信徒一同ハ 滿腔ノ敬意ト赤誠ヲ以テニ  
コライ大主教閣下ノ叙聖二十有五年ノ祝典ヲ慶賀シ併テ閣下  
ノ健康ヲ祈ル

明治三十九年七月十一日

豊前國小倉正教會團

祝 詞

柏久保教會よりの

謹デ叙聖二十五年ノ盛典ヲ祝ス

一千九百零六年七月四日

大主教ニコライ師父

祝 詞

黒松教會よりの

父ト 子ト 聖神ノ名ニ因ル阿民

不肖罪子等 恭シク茲ニ我等ノ大師父閣下ノ主教叙聖二十五  
年紀及ビ這般ノ尊榮ナル昇進ヲ祝願シ且其終始撓マザル勤勞  
ニ對シテ衷心ヨリ感謝ヲ献リ併セテ閣下ノ益健康ニシテ長ク  
我等幼稚ナル羊群ヲ牧養シ給ハンコトヲ熱切ニ祈願ス

主降生一千九百零六年 明治三十九年七月十日

黒松内正教會 傳教者 信者一同團

大主教ニコライ閣下

祝 詞

愛々社員よりの

ハリストス正教ノ我が邦ニ傳ハリテ今日ノ盛ヲ致スヤ神佑  
ニ因ルハ言フヲ俟タズト雖モ四十餘年ノ久シキ銳意傳道ノ業  
ニ精勵シ勝テ數フベカラザルノ障礙ヲ排シ毅然トシテ天職ニ  
盡萃セラレタル大主教ニコライ師父ノ力ニ因ルモノタルハ衆  
目ノ齊ク視ル所タリ

今回日本全國ハリストス正教會信徒尊師主教叙聖二十五年  
記念ヲ舉ゲントスルニ際シ偶我ガ尊師大主教ノ榮職ニ昇叙セ  
ラレタルノ嘉報ニ接ス平常親シク尊師ノ薰陶啓迪ヲ辱フスル  
我々愛々社員一同此ニ謹ミテ我ガ日本ハリストス正教會ノ  
使徒ナル尊師ノ主教叙聖二十五年ノ「ユビレイ」ヲ祝シ併セテ  
大主教昇叙ノ榮進ヲ賀ス

救主降生一千九百零六年七月十一日

愛々社員

- 社 社 員
- 堀江 復 中井木茂慶
- 上山 將 石田 敬治
- 大和田敬時 石川喜三郎
- 木村 英吉 吉田卯太郎
- 鈴木 透 松本高太郎

祝 詞

袋井教會よりの

父ト 子ト 聖神の名に依りてなり 阿民  
我が尊憲なる主教ニコライ師が其聖職に叙せられたまひしよ  
り既に二十有五年の星霜を閱し彼等正教のハリストスアーンが  
多年師の撫育に被れる其恩膏に海嶽のみならずるなり今其紀  
念の祝典を舉行せらるゝに會す是素より屢々遭遇する能はざ  
るの盛典にして謝恩の念と欣慶の情とに勝へざるものあり下



名の者等は常教會の信徒全部を代表し遙に祝意を表し奉る  
降生千九百六年七月十一日

遠江國袋井聖イオアン會  
ダウド 村 松  
マルコ 西 尾

祝 詞

東京府下 軍道教會よりの

本會ハ我等ガ最モ尊敬スル大日本正教會 主教 ニコライ  
イ大師父ノ主教職二十五年紀念ト並ニ大主教叙階ノ榮ヲ聞キ  
謹テ茲ニ祝意ヲ表ス

明治三十九年七月十一日

東京府下軍道教會

傳教補助 バエル 栗原 豊吉  
信徒總代ガマリイル栗原清八  
全 イサイヤ 池谷 龜吉

祝 詞

前橋教會よりの

維時 救主降誕紀元一千九百六年我明治三十九年七月十  
一日東京市ハリストス正教會復活大聖堂に於て我尊嚴なる大  
主教ニコライ尊上の主教職叙階二十五年紀の盛典を擧げられ  
罪子等敢て我前橋聖神降臨教會信徒一同を代表して其末班に  
列するを得たるは自ら無上の光榮とする所なり  
抑々我大主教ニコライ尊上には夙に豪邁明敏なる不出世の  
壽資を享けて早くも一千八百六十一年我が文久元年に於て我

前橋聖神降臨教會

國に渡來し烈火の如き熱誠を振ふて我正教の眞理を宣傳すべ  
き偉業に任せらるゝや當時恰も我國中一般に外教を禁じ且攘  
夷餽國の兩論上下に沸騰して紛々又擾々歐米の外交を禁じ且攘  
と甚しく頻々浪士の毒刀に倒るゝ者すらあり其危險實に名  
狀すべからざる有様なりしにもかゝはらず堂々自若嚴然に磐  
石の如くして自ら動かす専心一意自ら學び自ら策を講じて期  
の熟するを待つと恰も翼を收めたる大鵬の如く既にして躬自  
ら傳道の實務に服するや内外の百事獨り一身に任し夜を日に  
徹して更に倦まず四十有餘年一日の如くにして今日に至る何  
ぞ夫れ嘆稱せざらんと欲するも得んや神の其刻苦勤勞に報ゆ  
る所終に今日の吾國ハリストス正教會あるを致すに至れるや  
眞に宜なり二千五百有餘年の久しき間靈的死陰に坐して昏迷  
の五里霧中に徘徊せる吾國の同胞中翻然茲に義の大陽を拜し  
眞理の寶藏を見神恩の泉源に就くを得て國中教會を爲す者大  
小二百又六十に滿ち同信の兄弟三萬に垂んとし四十の神品職  
に百五十有餘の教役者を輩出するに至る此れ皆我尊嚴なる大  
主教尊上單獨の聖勤に神の祝福したる結果に非ずして何ぞや  
誠に我國の使徒たる名實を全うしたる偉業と稱すべきなり我  
等一同の感謝と慶祝と何者か之に如かん願くは神天地の主宰  
は更に深厚の恩寵を此偉人に垂れて永く其寶壽を保ち其聖業  
を無究に傳へて以て神の聖なる名は普く吾同胞中に聖とせら  
れ神の完美全盛の國は斯地に臨まんとを罪子等の切に祈る所  
なり聊か蕪詞を呈し謹みて祝意を表すると爾  
明治三十九年七月十一日

尊嚴なる我等の大主教ニコライ尊上

祝 詞 埼玉縣 大宮教會よりの

至聖三者ノ 御名ニ 依ル

恭シク主教閣下ノ叙聖二十五年紀念ノ祝典ヲ讃頌シ我等亦大  
主教ノ祝福ノ下ニ永ク神恩ニ浴センコトヲ祈ル  
明治三十九年七月十一日

埼玉縣北足立郡大宮町正教會  
信徒總代 執事イニレミヤ 福原  
傳教者 イオアン 新田  
大日本正教會大主教ニコライ閣下

至愛ノ父日本正教會ノ大主教閣下  
ニ上ツル 賀表

東京府下 江北其他の教會より

主ハ是ノ佳日ヲ賜ヘリ、我等ノ尊愛ナルアルヒエビスコ  
ブ閣下ヲ榮スル祝辭ノ數ハ頗ル夥シク、閣下ノ諸子ハ皆彼等  
ニ純正ノ教ヲ傳ヘ給ヒシ靈父ニ對シテ感謝ノ誠意ヲ表セザル

ハ莫シ、因テ我等不肖者モ左ニ所感ノ一二ヲ述ベテ聊カ祝辭  
ニ換ヘントス  
肅ンデ惟ミルニ我がニコライ大師父ハ幼時ヨリ淨キ家庭ニ  
人ト成リ給ヘリ、會テ聞ク、有名ナルケリミヤノ戰ハ大師父  
ガ年少ノ中學時代ニ在リキ、時ニ大師父ハ愛國ノ至情燃ユル  
ガ如ク、切ニ自ラ出征軍士タランコト望メリ、サレド奉公ノ  
務ハ獨リ從軍ノ一事ニ限レルニ非ズ、國ニ常制アリ、民ニ常  
業アリ、聖役者ノ家ニハ別ニ又天ヨリノ使命アリ、是ヲ以テ  
大師父ノ嚴父ハ之ヲ戒飾シテ、所謂名譽ナル此舉ヲ斷念セシ  
メタリト、是レ大主教閣下ノ今日アル所以ニシテ我等閣下  
ノ心事ト聖業ヲ稱揚スル者ハ其嚴父 デイミトリイ カサット  
キン輔祭ノ高潔ナル心事ト上帝ノ教會ニ忠實ナリシコト大ニ  
稱揚スベキヲ認メザル能ハザルナリ。  
嗚呼我が大師父ハ嚴父ノ善勸ニ從テ地ノ劍ヨリモ聖ナルバ  
リツアヲ帶ブル生命ノ教師トナレリ、孝ト謂フベシ、嗚呼大  
師父ハ其善行ト聖務ヲ以テ國家ニ貢獻スル所亦少シトセス、  
忠ト謂フベシ、嗚呼大師父ハ斯ノ異邦ノ民ヲ顧ミテ、忍ビ難  
キ惡言ヲ忍ビ、救ヒノ爲ニ慈父ノ實子ニ對スルノ丹誠ヲ彰ヘ  
セリ、愛ト謂フベシ、而シテ此愛ハ明治三十七八年ノ非常時  
ヲ經過シテ愈々輝ケリ、蓋シ大師父ハ初メヨリ愛ノ爲ニ我が  
國ニ來リ、今モ尙愛ノ爲ニ此コニ留マレルナリ、今日東京本  
會ノ委員並ニ全教會代表者等ノ群ニ依テ行ハル、主教叙聖二  
十五年及ビ新ニ大主教叙ノ祝典アルニ際シ、恭シク蕪辭ヲ  
上ツリ、閣下ノ清康ト我が全國ニ福音ノ弘布ヲ祈ル、アミン、  
ハリストス降生一千九百六年七月十一日



東京府下 江北堀ノ内及ビ附近ノ教會

代表者 イサイヤ 水 島 園

アルヒエビスコフ ニコライ大父閣下

祝 詞 筑後 柳河教會よりの

謹 奉祝 エビスコフ閣下二十五期叙聖ノ大典候 阿民

明治卅九年七月十一日

柳河正教會

信徒總代グリゴリイ 古澤 義光

賀 辭 德島教會よりの

父ト 子ト 聖神ノ御名ニ因リテ也

謹テ主教閣下叙聖二十五年期ヲ祝讃シ大主教ニ榮進ヲ慶賀仕候 阿民

明治三十九年七月十一日

德島聖母福音教會信徒一同

執事オニシム廣岡四男四郎

ニコライ大主教閣下

祝 詞 甲府教會よりの

我ガ 尊憲ナル大主教ニコライ師父閣下ノ主教職叙聖二十五期紀念祝典舉行ニ際シ茲ニ謹テ祝意ヲ表ス

降生一千九百零六年七月十一日

甲府正教會教役者及信徒一同

賀 辭 西條教會よりの

恭 祝 主教叙聖二十五年

西 條 教 會

函館教會よりの

謹 而奉賀 主教叙聖二十五年紀及 大主教御昇進

基督降生一千九百零六年七月十一日

函館復活正教會總代 イグナティ厨川敬白

祝 詞 青森婦人會よりの

伏して惟みるに 戰の雲晴れしとて喜べる人をばいやが

上にうきたせし春の花もあとかたなく納まりて世の眠れる者をば呼び起さんとする若葉の梢すしげに繁りゆくこの折しも我が日本の東都なる駿河の岡に空高くそびえる神の宮居において今日しも我等幼子の父と仰げる主教尊上のこの務に聖せられし廿五年の思ひでとしていとも嚴かなる祝の式を開かるゝとかましてこのはるは大主教とならせ給ひしと承りてはおどろいたつばかり悦ばしく何ともものべまらることかなはずなん思ひめぐらせば四十余年のそのむかし我等信徒のいともく恐るべき死の淵にしづまんとするその危き時仁慈限りなき神の御心や通ひけん尊上には斯る者やあらんと悲しませ給ひ故里遠く離れこの異國に渡り百千の敵にうちかちて三萬の老幼をば惠の露にうるははせ給はりし其の苦みは古の聖人のいさほにもおとるまじさなりながら若し大主教閣下の御志なかりせばいかに加へる身となられしか其れをおもひ此をてらせば有り難き嬉しさ包みあへず一言なりと祝ひ聞え上げんとすれど書くこと綴るすべさへ知らぬ己等なればこの地にて

伏し拜みつゝ昔ソロモン堂を守りませし紫雲の復活聖堂にもくんだりて正教の光のかやくとも尊上も千代にさきくおはして枯れなるとする信をば堅めたまはんことをねぎまつりてほぎことにかへんと拙きよでのしづくにかくはものしぬ

明治三十九年七月十一日

青森正教婦人會總代

マトロナ 山形の子子

マリナ 松原さだ子

主教叙聖記念祝辭

秩父教會よりの

復活ヲ以テ全人類ヲ永遠ノ死亡ヨリ救ヒ給ヘル救世主ハリストスノ傳道者即チ東洋ノ使徒ニコライ大主教閣下ノ叙聖二十五年紀念ノ祝典ヲ恭賀ス 團圓タル地球上古今洋ノ東西ニ論ナク都府村落ノ別ナク至貴至聖ナル者ハ何ゾヤ人類ノ救ヲ傳ヘ神ノ光榮ヲ讚美スルノ職ニ如クハ無シ大古ニ溯テ其理由ヲ尋レバ神ノ獨生子吾等ノ救ノ爲メ死シテ復活ノ道ヲ立テ救主昇天ノ後ハ使徒等其後任ヲ受ケ身ヲ犠牲ニシテ亞細亞ノ西部ヨリ全歐洲ニ救ノ道ヲ傳ヘタリ然レバ日本人ハ未ダ其道ヲ受ケズシテ十九世紀ニ至リ閣下ガ日本傳道ノ爲ニ身ヲ犠牲ニスル決心ヲ以テ我が國ニ渡來セラル、ニ至レリ此時我が國民ハ徳川三百年來ノ鎖國主義ニ慣レ其夢未ダ全ク醒メサレバ外人ノ殺害セラル、者サヘ屢々有リ閣下ハ此危難時代ニ於テ「一ノ雀ハ一錢ニテ售ラル、ニアラズヤ若シ爾等ノ父ノ旨ナクンバ一モ地ニ隕チザラン」ト云ヘルガ如ク閣下ハ天父ノ御

明治三十九年七月

賀 辭

謹 而奉賀 主教叙聖二十五年紀及 大主教御昇進

基督降生一千九百零六年七月十一日

函館復活正教會總代 イグナティ厨川敬白

祝 詞 青森婦人會よりの

伏して惟みるに 戰の雲晴れしとて喜べる人をばいやが上にうきたせし春の花もあとかたなく納まりて世の眠れる者をば呼び起さんとする若葉の梢すしげに繁りゆくこの折しも我が日本の東都なる駿河の岡に空高くそびえる神の宮居において今日しも我等幼子の父と仰げる主教尊上のこの務に聖せられし廿五年の思ひでとしていとも嚴かなる祝の式を開かるゝとかましてこのはるは大主教とならせ給ひしと承りてはおどろいたつばかり悦ばしく何ともものべまらることかなはずなん思ひめぐらせば四十余年のそのむかし我等信徒のいともく恐るべき死の淵にしづまんとするその危き時仁慈限りなき神の御心や通ひけん尊上には斯る者やあらんと悲しませ給ひ故里遠く離れこの異國に渡り百千の敵にうちかちて三萬の老幼をば惠の露にうるははせ給はりし其の苦みは古の聖人のいさほにもおとるまじさなりながら若し大主教閣下の御志なかりせばいかに加へる身となられしか其れをおもひ此をてらせば有り難き嬉しさ包みあへず一言なりと祝ひ聞え上げんとすれど書くこと綴るすべさへ知らぬ己等なればこの地にて

祝 詞

古馬牧 及び 須川教會よりの

謹 ミテ 主教叙聖廿五年紀並ニ大主教ノ榮進ヲ奉祝ス

明治三十九年七月十一日

古馬牧及ビ須川正教信徒一同

祝 詞

金成及岩ヶ崎教會よりの

前 同 文 金成及岩ヶ崎正教信徒

祝 辭

東京府八王子教會よりの

謹 テ 尊憲ナル 大主教座下叙聖二十五年並ニ光榮ナル



升班ヲ祝シ奉ル

基督降生千九百六年七月十一日

八王子顯榮會

祝 詞 京都正教女學校よりの

遊久水のこと なかれて屋まぬとし月の一とせ二とせは
夢の間とこそ以へ二十餘五年とは又ほと登はきうつりかはり
にてそ阿りける尊嚴なるわか大神父の君の主教てふ御職に就
かせ給ひしよりそのとし數にならせ多まひたるを祝ひ奉らむ
とて本邦諸教會の神品傳教者並に信徒達けふこの尊きむしろ
飛らかせたまひて盛なる御式を阿けら流古の席につらなるも
津らならぬもいかて古の日を祝ひたてまつらてある邊幾
知りの世の人農いと免るかりそめのわさすらく長き年
月に堪えたらむには口をきは免てほめたふるものなるをま
し亭多久ひも阿らぬこの聖職を二十五年一日のとゆるかせに
し給ふとなくてうはたまの暗路耳まよふ小羊の群を久方の天

つ御國にみちひ幾給ひしそのいさをは今さらには免まぬらす
るもをこのわさとや以はまし

阿葉れこの一事すら以ひしらぬよるこひなるにこの祝にさ
起多ちてあらたに大主教職耳のほらせ給ひたりとさへうけ多
まはりつ一重ならぬ二重のこのよ路こひはいかはかりそ
はたまちて小をとりせむはかりにこしかたの二十五年を以は
ひ納免て又こむあらたなる登しをさ記くなしはてたまひ
ししるき以さをにいやまし亭二十五年はさらなり菅の根の長
き末まで榮えたまへと祝ひまぬらす

花たちはなのそ連よりもかくはしきみ徳そなはり給へるか
しこき人耳徳うす記もの、ほきとたてつまらむもをこなるわ
さなりとはしりぬれとこのうれし幾御式耳つらなりてはせ免
て祝の一節た丹奉らてやはと可久な舞 阿なかし故
明治三十九年七月十一日 京都正教女學校



第二部 聖公會の外國宣教師及び我が正教會内國 教役者よりの祝辭。

賀 辭 監督マキム師よりの

拜啓
大主教ニコライ師ノ主教職二十五年紀念感謝祈禱式ヲ舉行セ
ラル本職ハ謹デ祝賀ノ誠意ヲ表スルト共ニ師ガ過去ニ於テ克
己献身ノ至誠ヲ以テ斯教宣傳ト教會設立ノ爲メニ盡瘁セラレ
タルヲ感謝致候本職ハ從來日本ニ於ケル宣教師中師ノ成功ニ
勝リタルモノヲ見ズ候日本正教會ノ進歩發達今日アルヲ致セ
シハ蓋師ノ學識人格ト賢良ナル施設ノ然ラシムル處ト思考致
候惟フニ神學上ノ立場ヨリスレバ各其執ル所ノ些少ノ相異ア
ルトモ使徒ヨリ繼承セル教理訓誨ノ根本ハ敢テ彼我ノ別ナキ
ヲ信ジ教會ノ一致ハ 本職ノ日夕祈願スル所ニ候希クハ將來
愈神ノ祐護ノ下ニ斯教擴張ニ盡瘁セラレントヲ本職ハ祝賀
當日旅行ノ故ヲ以テ其盛式ニ列スル能ハザルヲ以テ遺憾ト存
候敬具
千九百六年七月九日

日本聖公會東京北部地方
監督 ジョン、マキム
長司祭 シメオン三井殿
長司祭 パワニル澤邊殿

賀 辭 聖慰主教會ジュフリース氏よりの

謹啓
尊憲ナル貴教會大主教ニコライ師ノ主教職二十五年紀念感謝
祈禱祝賀御執行ノ由ニテ御招キ被下奉謝候
謹テ茲ニ祝意ヲ表シ候
猶貴大主教ヲ敬慕スル小生ガ着手シ居ル支那人傳道ノタメニ
御祈リ下サレントヲ希望致候敬具
聖主降生一千九百六年七月十四日
司祭 智 神 和

日本正教會信徒代表
長司祭 シメオン三井殿
長司祭 パワニル澤邊殿

祝 詞 南傳道者よりの

偉哉大主教尼格賴大神父之於聖德也上奉教祖聖訓而捧赤誠
於天父下明宗義大本而致布教於億兆勤于朝勉于夕耐艱難克至
苦惟德惇種惟記明微焉然而不擇人黃白不問國東西以一家同仁
四海兄弟意教之是以德光被四表教義傳萬邦矣其恩德之所致以
不一而足今不多贅也今茲基督降生後千九百六年我明治三十九
年七月十一日見舉主教叙聖二十五年紀念祝典式不肖亦得班列之



光榮豈爲無一言祝辭哉謹而述蕪辭且頌曰

大明無偏照 心事盡天公 圓萬如輪月 溫和似惠風  
一身迎億兆 孤想立照功 神父慈仁德 盛裁到極東

斯天範 南 勝太郎拜

賀 辭 寺島傳道者よりの

至尊至愛ナル主教閣下福音傳教ノ任ヲ負フテ我國互市場タル函館港ニ渡來セシハ西曆一千八百六十一年即我文久元年ナリキ其初メニ當テヤ言文通セズ人情詳カナラズソノ教化極テ艱難ナルニ拘ラズ非常ノ勇氣ト非常ノ忍耐トニヨリ改々汲々トシテ益々職務ニ努メラレ爾來四十有六年ノ星霜恰モ一日ノ如ク傳道教會ニ從事アラセラレ給フノ結果今ヤ我國二百有餘ノ會堂ヲ見ルニ至ル都市ハ固ヨリ如何ナル僻色ニアル人ト雖モ眞理ノ福音ニ浴スルヲ得タリシハ偏ニ至上者恩寵ノ然ラシムル所ナリト雖モ亦主教閣下ノ恩澤ニアラズシテ何ゾヤ光陰矢ノ如シ茲ニ閣下叙聖第二十五年ヲ迎フ我等信徒タルモノ歎ビ躍リテ此祝典ニ與リ伏シテ閣下ノ萬歳ヲ唱フルト共ニ其德望ノ甚ダ嵩キヲ仰ギ福音ノ長久ヲ祈ラザルモノアラシヤ教會ノ慶祥信徒ノ歡喜此ヨリ大ナルハナシ且閣下多年鞅掌傳道ノ功績大ニ顯著ナルニ依リ今回

露西亞國大皇帝陛下ヨリ聖大侯アレキサンドル、ネウスキイ勳章ヲ下賜セラレタリ 洵ニ此至大ノ名譽ト云ヘザルベケンヤ、閣下今日ノ光榮ヲ荷フテ此ニ至リ給フ豈其レ偶然ナランヤ加フルニ聖務會院ヨリ閣下ヲ陞セテ大主教ニ進メラル蓋當サニ然ルベキノコトナリ誠ニ閣下ハ堅牢不拔ノ精神ヲ以テ

多年我國ノ靈界ヲ開拓シ幽暗ノ民ヲシテ主ノ眞光ニ導キ給フコト此ノ如キノ盛ニ至ル我等信徒タルモノ閣下ノ叙聖第二十五年ヲ祝スルト同時ニ榮陞及ビ受勳トヲ賀シ併セテ閣下ノ功勞ヲ謝セザルベケンヤ聊蕪辭ヲ呈シ謹テ以テ祝意ヲ表シ奉ルト云

明治三十九年七月十一日

名古屋福音教會傳道師

パウル 寺 島 九拜

賀 辭 鵜澤傳道者よりの

謹 奉祝閣下之貳拾五歲祭尙祈御萬福 敬白

明治三十九年七月

下總須賀正教會

ヒリッブ 鵜 澤

大主教尼适頼尊丈閣下

主教職叙聖廿五年紀念祝賀の文

ルカ廣岡傳道者よりの

最も尊憲なる大主教大師父閣下

維時明治三十九年七月十一日は正に是れ閣下が光榮の神位主教職廿五年紀念の嘉節也閣下牧群の小羊たる 聖子斯の聖なる長期の時代に與かる光榮を得主の聖寵を感謝す謹んで尊大師父の萬福を奉賀す

聖經に曰く善備なる賜は上より光明の父より降る一ノ十ハと今の時 聖子は何の辭を以て祝すべきかを知らず故に凡の事を紀念する毎に祈禱祈願を以て神に感謝シテスの日を祝ふて

樂まん

千載一遇の佳日に往時を追憶すれば神恩の顯著と攝理の至妙に驚かざるを得ず誰れか異教民中より光榮の牧者が在位を祝するに斯の莊嚴の聖所を建て、今日こゝに祝賀の會を擧ぐるを期せんや天か下の事には期あり四十餘年前の帝國は荒蕪せし心田の久しく開拓者の手を待てるか如し主は全知にして寛容この迷羊を恤れみ永生の嗣子を興さんが爲に閣下は實に選はれて異教民の中にイイススハリストスの役者となり神の福音の聖務を行<sup>ロマ</sup>マ書<sup>六</sup>六使徒として絶東異域の我國に來り給へり嗚呼 神の富と智慧と知識や 其定は測り難く其道は究め難<sup>ロマ</sup>マ書<sup>三十三</sup>哉 聖子等會て神無くして世に在りし時閣下はヘリス<sup>コリ</sup>コリ<sup>前</sup>トス<sup>四</sup>イイススに於て福音を以て我等を生み<sup>コリ</sup>コリ<sup>前</sup>給へり如此く我等信者は招かれて主の婚筵に入り其喜び満るを得たり之れ己れの徳に由るに非ずして閣下の献身の傳道と夙夜斷へざる祈禱に因る如此く我等は一の神に在て父に近づくを得異民或は他邦人に非らず 乃 諸聖徒の同邦の人神の家<sup>エ</sup>エ<sup>二</sup>と爲り基督の肢に接合して普世教會の員と爲るを得たり是れ閣下勤勞の鴻恩にして我教會の基礎は閣下に藉て植へられ灌かれ固められたり唯之を長大する者のみ主に光榮讚美は歸す 斯の佳日に遇ふて黙止すを欲せず然れとも何の辭を以てすへきかを知らず唯我等は帝國初代の教化者群羊の善牧眞理の保護者として偉大なる大師父を奉戴するを得たる福を光榮として誇らん録して誇るものは主を以て誇るべし<sup>コ</sup>コ<sup>三</sup>と實に閣下は我國のキリアルメホデイなり斯の大使徒ありて正教は堅立せり而して至大の教師は亦た實に至大の謙遜を有せ

らる故に耳順の高齡に垂んたる迄も主の爲に勞して多くの患難にも窮乏にも困苦にも<sup>コ</sup>コ<sup>四</sup>以下或は平和の時に或は戦ひの時に主に於ける愛に屬まれ異邦人を信に服せしめん爲に言と行<sup>ロマ</sup>マ書<sup>一</sup>を以て使徒の聖業を四十有餘年一日の如く勤勉して善範を日本正教會に垂れ給へり是れ此の横なる悖れる世代の中に於て疵無く玷なく 谷なき 神の子<sup>コ</sup>コ<sup>十五</sup>と我等を爲さしめんが爲に閣下は大に役者教育の學校を興し徐ろに將來傳道の廣布を慮り給へり是れ則ち往て教を萬民に傳へよとの主の聖訓を飛騰せらるゝに因てなり噫偉なる哉吾師や今日我國に於て現に主の福音を宣傳する役者中誰れか能く我等大師父に勝る者あらんや 故に我等も亦慎んで儆醒 自ら戒しめ閣下の教訓に遵ひて正教の信仰を守り永生の嗣子たるに愧ざらんことを勤めん如斯は正教を奉ずる信者の本分にして主神の嘉納し給はんこと、信す蓋し閣下も亦たヘリス<sup>ト</sup>スの名に於て嘉納し給はん

斯の記念すべき嘉節に當り我等は日本正教會か閣下に對て特別に感謝を致すべき二事あるを信せんす則ち尊大師父閣下在位の時に於て主教座を有するの教會と成れる事と莊嚴雄大の聖堂建立と夫の時局の大試煉に於て閣下か斯の教會と閣下に於ては第二の生國たる帝國との間に介立して執り給ひし公正にして勇毅剛直にして熱愛溢るゝ聖行と是なり今や平和は克復し舉世この聖堂の尊嚴を景仰して至上者の全能に信賴せんとす而して無耻者は閣下か高潔の聖行に鑑みて多年の迷妄を脱せんとす是れ閣下か深慮遠觀の賜にして正教の角は蓋し益々之より高く揚らん



噫我等は閣下か統治の下に於て親らこの奇觀を見今また茲に光榮の記念たる佳節を平安に迎ふるを得たり誰か大師父閣下の鴻恩を感謝せざらん自今爾後この聖公使徒の教會の成長し搖れず動かす建立し閣下か尊位の威嚴と相伴ふて真理の光輝發揚し速かに斯民を擧げて榮を眞神に歸せしむる期の速に至らんことを冀くは閣下 聖子等の願を容れて主に祈らんことを終に及んで切に望む閣下益々斯國と正教の爲に平康安和にして萬壽を保有せられんことを併せて求む師よ汝の熱切なる祈禱に於て常に 聖子等を忘れざらんことを

今この喜はしき聖なる記念の佳日に我等を導き斯の光榮に與かるを得せしめ給ひし神に光榮は歸す

降生一千九百零六年七月

ハリストスに於て閣下の罪子  
傳教者 路加 廣岡 司馬 太郎

祝 詞

向山父よりの

天父の聖旨神子ハリストスの召命及び聖神の誘導に依て我日本帝國の爲めに福音宣傳の聖職大業に従事し給ふ吾等の最敬至愛なる

ニビスヨブ閣下の叙聖貳拾五年の盛典を茲に謹て奉祝し並に今回大主教昇進の光榮を賀し併て救主の恩寵仁慈益々尊上に滿披し以て長壽壯健ならんことを祈り奉る

明治三十九年七月

不當司祭 伊具那底 向 山  
聖字 齋藤 向山 代 書

祝 詞

佐々木傳道者よりの

萬軍の主ハリストス イイイスの召命を蒙り福音宣傳の聖職に従事し給ふ我大日本帝國ハリストス正教會主教ニコライ大神父尊上の叙聖二十五年の盛典を奉迎するに當て滿腔の喜悅と感謝を以て目出度く茲に祝賀の意を表し併て主の聖寵に依て尊上の健康と永福とを祈り奉る

明治三十九年七月

祝 詞

齋藤副輔祭よりの

我主イイイス ハリストスの召命を蒙り福音宣傳の聖業に従事し給ふ我大日本帝國ハリストス正教會主教ニコライ大神父尊上の叙聖貳拾五年の盛典を奉祝し併せて 主の聖寵に因り尊上の健康と永福とを祈り奉る

明治三十九年七月

ハリストス正教會傳教者  
パワニル 齋藤保郎 謹白

祝 辭

松田父よりの

尊憲ナル大主教尼适頼大神父ノ御叙聖二十五年紀ヲ祝シ奉リ併テ御長壽萬福ヲ祈リ中國諸教會ノ爲メ宗教上ノ大恩ヲ謝ス

明治三十九年七月十一日

祝 辭

中澤傳教者よりの

中國正教會司祭 雅各 松田善述

至聖三者之御名ニ依リ

謹而尼适頼主教御叙聖二十五年紀念並ニ大主教御榮進ヲ奉祝候阿民

明治三十九年七月十一日

大主教尼适頼大師尊上

廣河理意

中 澤

祝 詞

ゲオルギイ阿部傳道者よりの

維時救主降生一千九百〇六年七月十一日我日本正教會ハ東京復活聖堂ニ於テ至聖ナル主イイイス ハリストスノ聖旨ニ由リテ極東ノ使徒ニ召サレタル大主教ニコライ師閣下ノ主教叙聖二十五年紀念ノ大典ヲ舉行ス

回顧スレバ我日本ハ東洋ノ一孤島ニシテ幕府ハ多年鎖國ノ政策ヲ取りタルガ爲ニ今ヲ去ル半世紀前マデハ歐米ノ文明ニ接スルコト甚ダ多カラズ殊ニ宗教ノ一點ニ至リテハ眞理ノ光明ニ接スルコト最モ少ナク國風優美ノ一帝國ヲシテ聊カ欠カスル所アル感アラシメタリ此時ニ當リ大主教ニコライ師閣下ハ上帝ノ召命ニ由リテ我國ニ來リ神國ノ至美ヲ傳ヘ斯民ヲ罪惡ノ渦中ヨリ救ヒ專ラ救世主イイイス ハリストスノ至高偉大ナル愛ニ浴セシメントシ給ヘリ今ヤ吾人罪過深甚ナルモノ亦神ノ國ノ民タルヲ得豈至大ノ幸福ト喜悅トニアラズヤ是全ク大主教ニコライ師閣下ノ恩寵ヲ滿被セラルト聖徳ノ偉大ナルトニ基クモノタルヤ言フ俟タズ今ヤ大主教ニコライ師閣下我國ニ渡來後五十年主教ニ叙聖セラレテ二十五年全國ノ信徒茲ニ記念ノ大典ヲ舉グ不當ナル罪子此末席ヲ汚スヲ得ル

祝 辭

ゲオルギイ小野傳道者よりの

尊貴ナル主教閣下叙聖二十五年ノ記念ヲ祝賀ス

閣下ノ初テ使命ニ任セラレ、時ヲ追思スルニ使徒及ビ聖預言者ノ召サル、ト何ゾ異ナランヤ

當時我國民眞主ヲ忘レ陰陽吉凶ヲトシ聖教ノ何タルヲ知ラズ况ヤ二千有餘年ノ閉鎖ハ海外ノ事情ニ違フ此時ニ當リ 閣下親族故舊ヲ離レ血肉ト謀ラズ單身萬里ノ波濤ヲ凌ギ絶東ノ域ニ向フ誰カ之ヲ難シトセザランヤ

然シテ閣下毅然トシテ事ニ從ヒ偏ニ聖旨ノ成ルヲ期ス故ニ數年間二萬ノ主徒ト百有餘ノ役者トヲ得ラル茲ニ於テカ暗ニ處ル者死ノ陰ニ處ル者眞光ニ浴スルヲ得タリ是誠ニ聖祐ニ依ルト雖モ抑々亦閣下堅忍ノ效ス所ナリ

是ヲ以テ主ハ杖ヲ閣下ニ賜フテ其群ヲ監督セシム實ニ我が明治十三年某日ナリ閣下益々精勵夜ヲ以テ日ニ繼グ今ヤ二百

茨城縣多賀郡大津町

大津正教會在任

傳教者ゲオルギイ阿部仙太郎敬白



有余ノ役者ト三萬ノ主徒ヲ有スルニ至ル而ノ其間誹謗群起シ甚シウシテハ危礙ヲ謀ル者アルニ至ル然レドモ主ハ常ニ其眞牧者ヲ守護シテ之ニ安和ヲ賜ヘリ  
茲ニ盛典ヲ舉グルニ際シ恩寵平康ヲ賜フ主ヘ閣下ノ壽ヲ増シ益々閣下ノ聖業ヲシテ永遠洪大ナラシメンコトヲ禱ル  
神子ケオルギイ 小野 謹白

奉祝主教叙聖廿五年紀

室越傳道者よりの

十字高樓金色光

一同嚴肅蒼天王

老師聖職佳辰日

共會大堂呈賀章

一千九百零六年七月十一日

歷山室越

恭祝尊上叙聖第二十五年與

陸叙大主教

笹葉傳道者よりの

昊昊不天德 照臨莫偏私 不長棄絕域 時至起吾師  
師未見吾土 不辭萬里程 超來述天命 終始竭至誠  
群小咆哮急 民人徒挾疑 祝焉遇呪詛 愛爰見嘲嗤  
瀛列三冬日 風光轉慘然 一陽來復後 貽滄百花天  
天道誰能誣 眞光竟闕幽 攪破長夜睡 解釋膏蘭囚  
仇敵皆慚愧 子來就下風 厥仁兼厥勇 仰之兮愈隆  
權杖托其手 干茲念五年 斯時又陸叙 相賀謝昊天  
至愛其真牧 賜之壽與榮 願碎除榛莽 導我至永生  
一千九百零六年七月十一日 克利爾 笹葉

祝 詞

四國諸教役者よりの

父ト子ト聖神トノ名ニ依ル阿孟

謹テ主教職叙聖二十五年ヲ祝賀シ奉ル

降生一千九百零六年七月十一日

四 國

司 補 司 國  
傳 教 一 同  
祭 者 祭 者

祝 詞

九州南部諸教役者よりの

謹テ尼適賴尊大神父ノ主教職叙聖二十五年ノ光榮ナル盛典ヲ祝賀シ奉ル

主降生一千九百零六年七月十一日

司 祭 ヤコブ 藤 平  
傳 教 者 シメオン 高 岡  
全 ニコライ 吉 田  
全 パワエル 穂 鷹  
全 ベトル 岡 橋  
全 リン 高 橋

賀 辭

柴山父よりの

尊憲ナル我が大主教ニコライ尊上ノ主教職叙聖第二十五年祝典ヲ舉行セラル我等多年其教化ニ薰炙スル者焉ゾ歡喜以テ是レヲ祝セサルヲ得ンヤ  
今ヲ距ル四十年前我カ國民未ダ外交ノ事ヲ知ラス徒ニ自ラ高

祝 辭

中國諸傳道者よりの

血ト熱トラ以テ我等大和民族ヲ聖化ナシ給ヒシ主教ニコライ尊上ノ今度大主教尊上ニナラセ給ヒシコトヲ我等罪僕一同此ニ謹テ祝賀シ奉ル

明治三十九年七月十一日

フシリイ 菅 井 直 江  
ワシリイ 平 井 一 造  
マカリイ 中 澤 桐 太 郎  
イグナチイ 龜 井 介 男  
ニコライ 石 川 昌 三 郎  
ニコライ 高 木 久 吉

祝 詞

九州北部諸教役者よりの

謹テ吾カ

尊憲ナル大主教ニコライ閣下ノ主教職叙聖廿又五年紀ノ祝典ヲ欣賀ス

明治三十九年七月十一日

司 祭 ベトル 河 野  
傳 教 者 ダニイル 廣 岡  
同 ワイサリオン 高 橋  
同 ステファン 南  
同 ベトル 藤 原  
同 イオアン 鈴 木

クシ漫ニ外人ヲ排斥シ殊ニ其宗教ノ如キハ極力之レヲ嫌忌シ敢テ容ル、コトヲナサス此時ニ當リテ我カ敬愛スル所ノニコライ尊上ハ自ラ奮フテ此ノ化外幽暗ノ民ヲ主ノ眞光ニ導キ其救贖ノ恩ニ霑ヘシメントノ大志ヲ抱キ決然露國ノ郷關ヲ辭シテ此ノ言文相通セス風土相異ナルノ國ニ來リ親ラ此ノ頑迷不靈ノ民ニ交リ或ハ猜疑セラレ或ハ誤解セラレ或ハ讒誣セラレ或ハ迫害セラレ四圍皆敵タルノ間ニ立チテ苦楚艱難備ニ嘗メ而モ堅忍勇毅且博愛謙遜ニシテ専ラ主ノ使命ヲ果サンコトヲ期シ内ニハ勤勉子弟ヲ教育養成シ外ハ銳意布教傳道ノ事ヲ慮リ數十年一日ノ如ク今日ニ至リ竟ニ絶東ノ照光者トシテ主ノ眞光ヲ此國ニ輝カシ此民中ヨリ殆ント四萬ノ人ヲシテ拯救ヲ得ルニ至ラシム其偉大ナル事績洵ニ古聖人ノ功勞ニ比シテ遜ルコトナシ宜ナル哉其盛名遂ニ天下ニ傳ヘラレ今回露國皇帝ハ大勳章ヲ贈リテ其勞ヲ多トシ聖シノドハ其偉勳ヲ思フテ茲ニ大主教職ニ陞叙セラル是レ皆ナ人ニ依ルノ榮ニ非ズ實ニ天上冥々ノ中ニ主神カ其勤勞ヲ嘉ミシ給ヒシ祝福ノ反映ナリ我等卑微ナル者幸ニ斯聖傳道師ニヨリテ永生ノ道ヲ聞キ又斯ノ聖大教師ニ就キテ神學ノ蘊ヲ學ビ又斯ノ聖大牧師長ヨリ祝福セラレテ主ノ聖寶座ニ奉事スルノ大寵ヲ荷ヒシ者今日此ノ盛典ニ會シ感謝ト喜悅ノ情ニ盈テ却テ殆ント云ハント欲スル所ヲ失フニ到ル唯一片ノ微衷ヲ以テ謹ミテ師ノ高德ヲ讚シ且主カ斯ノ聖ナル大教師ヲ我等ニ遣ハシ給ヒシヲ感謝シ併セテ師ノ萬福長壽ヲ禱ラントス

一千九百零六年七月十一日

司祭 ベトル 柴山進行



Въспомогающе

Наше же и востанувшее сердце и с...
Вспомогающе благодаримъ Богу; благодаримъ тебя
и земли, благодаримъ прародителей твоихъ...

Годы. Насколько Бог, премудрый Промыслитель тво...
года кресте крестно, въ часъ времени благодарения тво...
меланхолически ощущаю себя въ сердце своемъ...

и преподобные твои истинно-апостольские учения!
Да вода и до реки возвернется вудеи твоими
Богъ, Промыслитель, въ премудро устроивши въ
такоуи похвалитъ гонимы и везен! Менее нашь...

Сво Равно-превознесити самки, помянуи
сми и прамии Святи Таври Морити
11-го м. Июня 1906 года. Изъ города М. на Б. с. н.

左の一篇は 前記露語祝詞の譯文にして 亦同師の
自譯に係る。

祝 詞

我が尊嚴なる大主教ニコライ大父親下
今辰吾人は満心の歡喜と神全能者に對する深厚の感謝と
を以て、親下が主教職叙聖二十五年の盛典を祝さんとす。
斯かる光榮なる容易に遭遇し難き場合に臨みては彼れが
吾國の使徒たる偉業の其一般たりとも茲に聊か記して、
感謝の意を表するは全く適當と認むるなり。
一千八百六十一年に當り、親下が我が正教の眞光を以て
吾國を照さんと欲する大なる熱望を懐いて、初めて吾國
に渡來されたる其頃は恰も吾全國擧りて外人と外教とを
極めて敵視し、往々彼等が無辜の鮮血を流されたる事す
らありて、日夜其生命の危險が彼れの一身上に迫りつゝ、
ありたれども、彼れが 實に豪邁なる智慮は 泰然、恰も
怒濤中の磐石の如く、其使命に取りて將來必要なる準備
に是れ從ひ、彼れが福音の眞光を以て吾が國を照さんと
欲する烈火の如き熱望は大膽に亦覺醒して其乘すべき時
期を窺ひ、恰も彼の大膽なる猛獅が一步退いて、以て其
獲物を過たず攫取するに自ら備ふるが如く然りしなり。
終に神人類の睿智なる攝理者は其時期に至りて彼れが
心願の實行を以て彼を祝福し給ふに至る。爾來吾が國土
に於て——此洋中とハリストス教世界以外とに孤立せる
島嶼に於て——我等久しく異教の暗迷中に墜し、神靈的



死亡の庇蔭に處りたる者に、俄然真理の大光は晃々として輝き、恰も彼の甘樂なる朝暁が極東の地平線上に飛揚するが如くなり。次で彼れが堅忍不拔なる神言の傳道場裡に於ける偉績によりて、赫々たる日出の勢を以て、此超自然的義の太陽は漸々我國に照り、真理の唯一豐富なる寶藏は此に豊かに開かれ、神國の唯一施生救靈的汲み盡すべからざる源泉は此に明かに指点的るゝに到れり。今や吾全帝國内に存在する二百又六十の吾正教會に屬する大小の會合と、殆ど三万に近き其信徒と、四十の本邦神品職を初め、三百に餘る各種の教會役者とは是れぞ即ち現下が吾國に於ける四十五年間の勤勞の實に祝福されたる偉績なりとす。噫其神果夫れ如何に偉大に又赫々たる乎。彼れが吾國に於ける眞に使徒たるの功業亦更に偉大なり、更に彰明なりと謂ふべきなり。然り萬事斯の如く睿智に整理し給ふ至上の神、攝理者は、獨り實に恒久又世々に頌美せらるべきなり。今將た吾人は唯恐懼戰慄して神の攝理

の奇異なる右手の前に嘆稱するあるのみ、大聲疾呼して吾主「サワオン」を讃揚せざるべからず。吾人罪人の言何ぞ克く之を盡さん、舊約の福音者たる、光榮なる大預言者イサイヤと異邦民の使徒たる大パウルの言は庶幾は之を盡して餘蘊なげん。前者は曰く「是れ皆主「サワオン」の爲す所、其定や奇異なり、其智慧や大なり」(イサイヤ二十八の二十八)。後者は曰く「嗚呼深い哉神の富と智慧と知識や、其定は如何に測り難く、其道は如何に究め難き哉」(ローマ十一の三十三)。吾人の永久に忘るべからざる恩人や願くは健在なれ。神亦自ら願くは、其攝理と恩寵の實に至當なる此器の能力を悉く堅めて、以て其人類救贖の偉業を完成するに到らしめ給はんことを。

維時明治三十九年七月十一日

前橋正教會に於て 不當の司祭 把偉路 森田

### 第三部 地方信徒其他個人よりの祝辭。

祝 詞 ヲヲ 水山 信

謹ミテ大主教御昇叙并ニ御就職第二十五年ノ大典ヲ祝ス

明治三十九年七月十一日

陸中 一ノ關町

ヲヲ 水山 信

ニコライ大主教閣下

主教尼哥賴尊師の二十五年祝典を

ほきてよめる

高木 半次郎

遠州森町十字教會信徒

(七十七翁) 高木 千尋

二十余り五とせをいはふけふこそは

ほきてうたはめ君かさかえを

同師の大主教に上昇なされしを

ほきてよめる

いと高き神のみりをつとめつゝ、

なほ又のほる君そたふとき

位山松にまつはり高らけく

いろのつかさとさくふちの花

祝 詞 松川ステファン

維時基督降生一千九百零六年七月十一日ヲ以テ吾日本正教

### 會ノ諸神品傳教者及諸信徒へ閣下ガ主教叙聖廿五年期ノ大祝典ヲ舉行セラレントス。余輩閣下ノ不當ナル神子モ亦此祝典ノコトヲ聞知シ欣然トシテ衷心ヨリ閣下ニ祝言ヲ奉ル。冀クハ閣下ヨ小子女等ノ微衷ヲ嘉納シ玉ハラシコトヲ。尙ホ祈ル至上者ハ益々閣下ニ壯健ト長壽トヲ賜ヒ以テ長ク吾人ヘリストスノ羊群ヲ治牧セラレントヲ。

會ノ諸神品傳教者及諸信徒へ閣下ガ主教叙聖廿五年期ノ大祝典ヲ舉行セラレントス。余輩閣下ノ不當ナル神子モ亦此祝典ノコトヲ聞知シ欣然トシテ衷心ヨリ閣下ニ祝言ヲ奉ル。冀クハ閣下ヨ小子女等ノ微衷ヲ嘉納シ玉ハラシコトヲ。尙ホ祈ル至上者ハ益々閣下ニ壯健ト長壽トヲ賜ヒ以テ長ク吾人ヘリストスノ羊群ヲ治牧セラレントヲ。

小子女ニ欣禱ニ不堪、謹而主教御叙聖廿五年之祝典ト大主教ノ榮位ニ御昇進セラレンシ名譽トヲ併賀シ伏シテ尊憲ナル吾大神父ノ御降福ヲ乞フ。

明治三十九年七月

大阪正教會信徒

神僕 士提反 松川 敬白

大主教ニコライ師尊上閣下

祝 詞 マルコ 島 野

謹而奉祝賀

大日本帝國基督正教會主教尊上叙聖貳拾五年ノ祝典

明治三十九年七月

京都正教會議友 馬可 島野

大主教閣下廿五年記の祝典を奉賀

イオアン 小梨良太郎

ホテナヤ 全 りよ

福島縣郡山町寄留



真心にけふの祭を幾千代も

イオアン 小梨良太郎

いと高き神の祭ともうともい  
いろかへすして祝ふ言の葉

なほとこしへに祝ふ日かな  
全

ホテニヤ 小梨 りよ

父母の恵みよりなほ大父の

深きめぐみをけふ祝ふなり

日の本の祿のなかによき種を

まきてし父のいさは榮えて

祝 辭

パエル 石井 忠言

至聖三者ノ御名ニ依ル阿民

時維明治三十九年七月十一日我尊憲ナル大主教閣下ノ主教職  
叙聖貳拾五年紀念祝典ヲ行ヘル嗚呼惟ハシキ哉斯日ヤ嗚呼盛  
ナル哉斯日ヤ彩雲氤氳トシテ六合ニ遍ク瑞氣爰凝トシテ天地  
ニ滿ツ鳳翔鸞舞天祥地禎閣下ノ尊体ヲ繞ル實ニ絶代ノ慶事何  
物カ亦之ニ若カン哉宜ナル哉天涯地極我儕ト同信ナル兄弟姉  
妹モ齊シク萬腔ノ熱誠ヲ捧ゲテ閣下ノ盛徳ヲ讚榮シ此ノ祝典  
ヲ奉賀スル事  
恭シク惟ミルニ大主教閣下福音宣傳ノ使命ヲ帶ビテ單身孤鞍  
鵬程萬里風餐露宿來朝セラレタルハ幕府ノ紀綱既ニ萎靡シテ  
振ヘス維新ノ恢弘ハ未タ緒ニ就カス海内紛々擾々トシテ其去  
就ニ迷ヒ横論東西ニ唱ヘ縦議南北ニ和シ喧々露々鐵國尊攘ノ  
頑夢醒覺セザルノ時代ナリキ閣下此國論混亂ノ時ニ際シ具ニ

し給ふ我大日本帝國ハリストス正教會主教ニコライ大神父神  
上の叙聖第廿五年の盛典を奉祝し且つ主の聖寵に因り尊上の  
健康と光榮とを祈り奉る 謹上

明治三十九年七月

水戸ハリストス正教會議友  
ライト 大森千代太郎

祝 辭

アンドレイ 藤田 順吉

天子イイススハリストスの召命を蒙り福音宣傳の聖業に服

し給ふ我大日本帝國ハリストス正教會大主教ニコライ閣下が  
叙聖第廿五年の盛典を奉祝し併せて主の恩寵に因り茲に謹み  
て閣下の健康と永福とを祈り奉る誠惶敬白

明治三十九年七月

水戸ハリストス正教會執事  
アンドレイ 藤田 順吉

祝 詞

マトフイ 戸田 金太

我尊憲ナル主教尼格賴師ノ主教職叙聖貳拾五年紀念祝典ヲ  
舉行セラル生等ノ喜悅何ソ之ニ加カン豈慶賀セスシテ可ナラ  
ンヤ抑此ノ紀念祝典タルヤ歐米ニ於テハ其慣例數多アリト雖  
モ我國ニ於テハ古來ヨリ未ダ會テ見聞セサル一大慶ナリ伏而  
惟ルニ我尊貴ナル主教尼格賴師ハ遠ク萬里ノ波濤ヲ經テ我國  
ニ渡來シ千辛萬苦不屈不撓古今ノ類ヲ見ザルナリ死陰ノ境  
ニ居ル者ニ神國ノ福音ヲ宣傳シ教訓ヲ垂レ切瑳琢磨情ヲズ克  
ク其職ヲ全フス我ガ國ニ於ケル基督敎ノ傳道ハ師ヲ以テ嚆矢  
トス然リ而シテ吾人ヲシテ永遠無窮ノ福樂ニ沐浴セシム欣喜  
云フ可カラズ誠ニ千載一遇ノ美舉ト謂フ可シ今ヤソノ恩ニ酬  
ユル爲メ恰モ赤子ノ慈母ヲ慕フガ如ク四方ヨリ雲集シ群衆山

辛酸ヲ嘗メ幾多ノ萬障ヲ排シ迫害ヲ忍ビ俗議ニ抗シ諤々トシ  
テ神ノ道ヲ宣傳シ經營慘憺ニ始メテ大日本ハリストス正教  
會ノ基礎ヲ築キ爾來益々發展ノ氣運ニ進ミ創業ノ根底牢乎ト  
シテ扱クベカラザルニ至ル於是乎閣下ノ聲望隆々中外ニ盡キ  
至聖ナル露國聖務會院ハ閣下ガ顯著ナル好績ト教會前途ノ好  
望ヲ認メ終ニ擢ンテ、主教ノ聖職ニ叙ス以來茲ニ二十有五年  
其間終始一貫勇毅豪健ノ資ヲ以テ霄肝躬親シク教會百般ノ治  
理教導ノ劇務ニ執掌セラレ眞正明確ナル教義ハ日ニ發揮シ惟  
一聖公使徒ノ教會ハ月ニ隆昌ニ進ミ感化ノ偉大ナル萬衆ノ矚  
目スル所ニシテ我儕一辭ヲ費スルノ要ヲ見ス蓋シ僅々タル歲  
月間ニ於テ如上ノ壯觀ヲ呈スルヲ得タルハ洵ニ是レ閣下人類  
ノ福祉ト世界ノ安寧ト而シテ又至醇ナル文明扶植ノ爲メ聖教  
宣傳ニ盡瘁竭誠セラル、ノ熱實切切ナルノ致ス所ニアラザル  
ハナシ其赫奕タル鴻業煥炳タル盛徳宇内ニ輝キ之ヲ古今ニ徵  
シ推校スル所ナシ

即子元是レ薄徳小信ナリト雖モ眞理ノ柱基、活神ノ教會ナルハ  
リストス正教會ノ末班ヲ汚ス者閣下ノ降福ト優渥ナル高恩ニ  
浴シ盛望ヲ瞻仰シ鴻業ヲ謳歌スルモノ今ヤ斯ノ祝典ニ遭フ歡  
并限リナク欣躍曷ソ勝ヘン依テ斐瀆ヲ憚ラズ恭シク蕪辭ヲ脩  
シ肅テ微忱ヲ表スト云爾 恐惶謹言

明治三十九年七月十一日

罪 僕

馬太 戸田 金太

ヲ爲シ茲ニ感謝ノ祈禱ヲ執行シ引次キ祭冠長袍祭服ノ献上式  
ヲ行ヒ祝詞ヲ朗讀ス相互交々踵ヲ廻スガ如シ欣慰無量名狀ス  
可ラズ又タ以テ掬ス可シ冀ヘクハ主全能者ノ鴻恩ニ依リ長壽  
安寧秩序健康ヲ祈ル聊カ蕪辭ヲ述ヘテ祝詞ニ換フ

明治三十九年七月十一日

罪 僕

馬太 戸田 金太

我尊憲至榮至潔ナル主教尼格賴師

降生一千九百零六年七月十一日

大阪正教會信徒

マヌイル 白川久吉 敬白

祝 詞

マヌイル 白川久吉

祝我尊憲なる主教ニコライ師の  
主教叙聖貳拾五年紀念

於 京 都

村上房太郎

祝我尊憲なる主教ニコライ師  
の大主教職叙聖

同 人



大主のりのうてなを仰き見て

君か榮をいはひもそする

祝 辭 小 沼 量 平

謹ミテ尊貴ナル我大日本正教會大主教 大徳望ニコライ大神  
父閣下ノ主教在位二十五年紀ヲ祝シ併セテ萬壽無疆ヲ祈リ奉  
ル

明治三十九年七月五日

門 生

正七位 小沼 量平 敬白

主教尼格賴師の叙聖式二十五年の

祝典をことほさまつりて

陸中前澤 杉目養右衛門

亞 照 巷

玉ちはふ 神の恵みをうけ繼し

おしへになひく 大和民草

五十年の祝をかけてけふはまつ

ほきこそまつれおしへ子我は

賀 辭 陸中前澤町 大河内沂流

神 子 馬 太

はきうたをうたひあけつゝ教子の

まつれる今日そたのしかりける

祝 辭

羽生田作太郎

奉祝大主教ニコライ師之主教職二十五年記念祭

明治三十九年七月十一日

横濱露西亞國領事館内

羽生田作太郎再拜

主教叙聖廿五年記念

祝賀委員會御中

再啓勤務之都合ニヨリ參賀シ得ザルヲ謝ス

叙聖二十五年を祝し

シメチン 遠 藤

イリナ 遠藤 要道

幾世々も君が榮を庭の松

千代のしらへの音をきこゆる

やすくと五々の年月おくり来て

花ささかをる春のあけほの

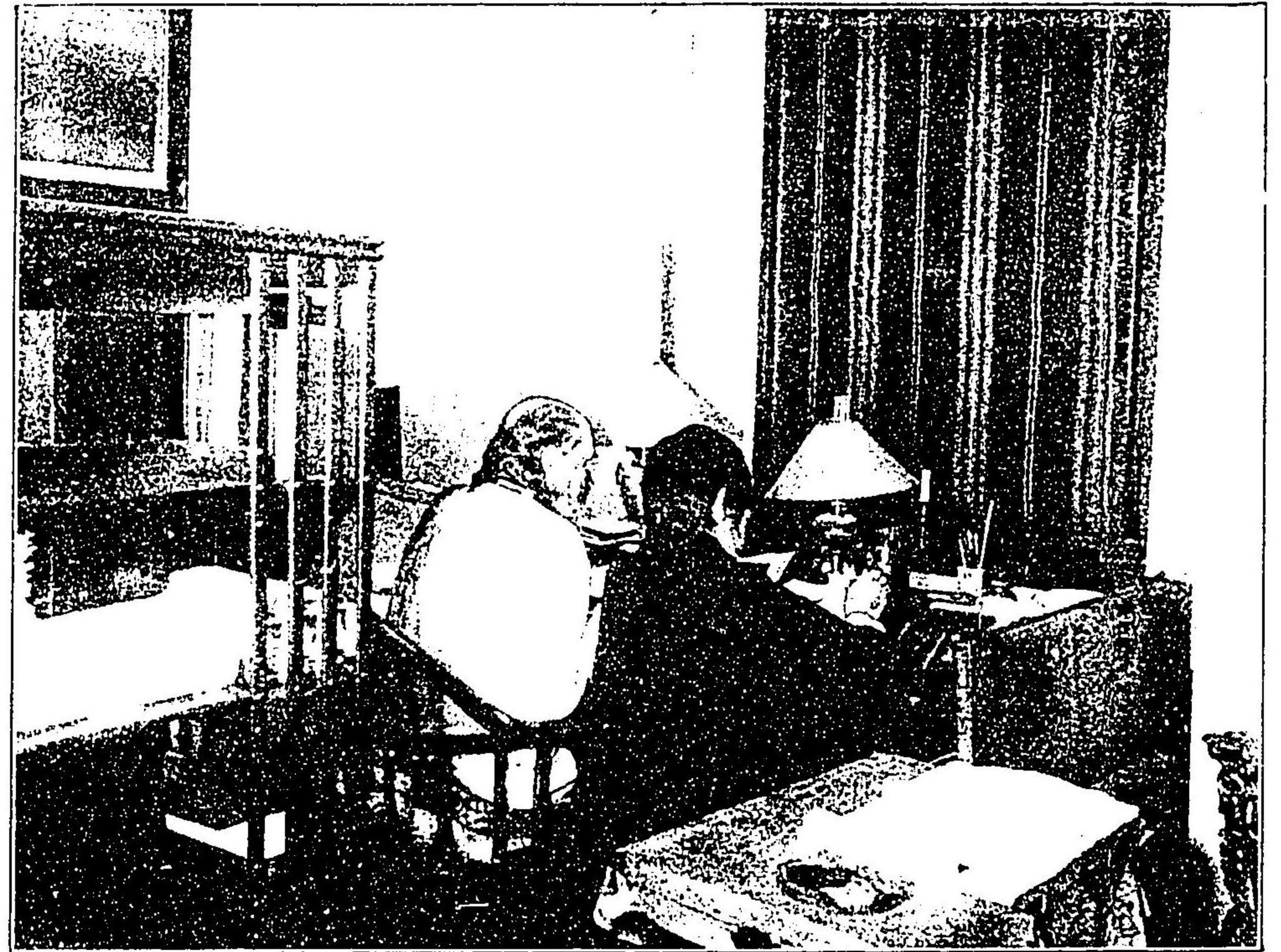
祝 し イリナ 遠藤 たけの

開けゆく御代にしあはするか臺

千とせの花と咲匂ふらん







大主教閣下翻譯夜業の圖

八



東京本會大主教客室の西面



## 挿 畫 ノ 事

**此**圖ノ下ナルハ我 大主教閣下ノ客室西面ノ上半部ヲ寫シタル者、閣下ノ客室ハ四面共ニ宗教上ノ名畫、聖堂ノ寫眞及び特ニ記念スベキ人物等ノ額面ヲ以テ滿タサレタリ。尤モ其東北ニハ最美ナル救世主ノ金裝聖像ト守護天使ノ細密ナル油繪聖像アリ、其他ハ通常ノ繪畫ナレバ、一トシテ上帝ノ福音ト教會ニ關係ナ有セザル者ナシ。今茲ニ掲ゲタル正面ノ中央ナル二大額面ハ上ガ『聖大授洗イオアン』ノ傳道、下ガ佛國マルテン作ノ『ワルタサル』ノ宴會、廣大ナル**ワビロン**亡國ノ夜ノ全景、其兩側ナル二大額面ハ共ニ露國ノ大家**ニコライ**ゲノ作ニシテ、右ガ『救世主十字架ノ全景』、左ガ『畏ルベキ公審判ノ圖』ナリ。右ノ上ノ二個中形額ハ、主**イイスス**ハリストス

ノ幼時ノ肖像ト、二天使ガ主ノ前ニ服事スル圖。其下大額ヲ隔テ、ノ二小額ハ左ガ有名ナル**ラファイル**ノ『**システン**ノ**マドンナ**』右ガ**モリエル**ノ『**エンマキユラタ**』ナレバ、是等ハ對面ノ窓光ノ爲ニ反射甚ダシクシテ此處ニハ繪様ガ分ラズ。左ノ上ノ二個中形ノ額ハ、右ガ『**新婦レベカ**』、即チ**エレアザル**ニ依テ**イサアク**ニ聘定セラル、者、左ガ『**大預言者律法家モイセイ**』。其下大額ヲ隔テ、ノ四小額ハ、右カラ算ヘテ『**イエリサリム**ノ**パトリアル**ホ故キリル』即チ我が大主教ガ大約三十有餘年前ニ彼地ニ於テ面晤セラレシ者、次ガ『**正教訓蒙**ノ著者**モスクワ**ノ**ミトロポリト**故**大フィラレト**』、次ハ既ニ前記中ニ一言セシ『**アムール**ノ教化者故**インノケンテイ**尊師』即チ我が大主教



ニコライ師父ノ少壯時代ニ親シク面接シテ其最モ尊敬ヲ拂フ所ノ克肖者、左ノ端ガ「キエフノミトロポリト故アルセニイ尊師ノ主教職叙聖五十年紀念」ニ刊行サレシ肖像ナリ。是等尊師ハ皆我が大主教閣下ト日本教會ニ厚キ關係ヲ有スルヲ以テ、閣下ハ特ニ之ヲ掲ゲタルナリ。圖ノ左端ニ僅カニ半分以内ヲ留ムル三面ハ、下ガ「ペテルブルグニ於ケルグレチャ人ノ本聖堂」ノ寫眞、其上ガ「救世主顯榮ノ本聖堂」、其上ガ最モ著名ナル、モスクワノウスペンスキイ本聖堂トス。惜ムラクハ圖面ニ全形ヲ寫ス可能ハザリシ、但右ノウスペンスキイ本聖堂ダケハ、曾テ「正教要話」ニ出セシマアリ。

圖ノ右端ニ僅カニ見ユル額縁ハ、北面ノ一部分ニシテ、下ノ小形二個ガ「ハリストス降誕」ト、稍畫様ヲ異ニセル「エンマキニ下」其右ニラ

ファイルノ「ヘルビム」即チ西面ノ「シスタン」中下端ニ在ル者ヲ取テ、大キク崇美ニ顯ハシタル者ナリ。サレド是等ノ「チ」々説明セシトテ此圖面ニハ見ル能ハザルヲ以テ遺憾ノ感ヲ免レズ、故ニ今ハ只圖ノ反對面ニ當ル東壁ニ「見ヨ人ナリ」ト名ヅクル「棘冕ノ救世主」ト「悲哀ノ神母」ノ肖像ヲ掲ゲラレタル「チ」報ズルヲ以テ筆ヲ止メン。併シ此圖中ニハ此レモ見ル能ハザルナリ。

上ナル「大主教閣下翻譯夜業」ノ圖ハ一夜編者ガ突然寫眞師ヲ携ヘテ大父ノ居室ニ入テ之ヲ撮寫シタルナリ。閣下ハ編者ノ不禮ヲ尤メ給ハズ、爲ニ我等ハ此ノ尊ムベキ大父ノ聖業ニ勤勞中ナル良畫ヲ得タリ、感喜鳴謝ニ禁ヘズ。閣下ハ此時或祈禱書ノ翻譯ヲ終リ、中井氏ト共ニ其句讀ヲ切りツ、アリシ。閣下ノ後ニ立テルハ回轉書架ニシテ其上隅ニ懸レル額面ハ一水ヲ隔テ、ペテルブルグノ神學大學ヲ望メル景色ナリ。

第四部 地方教會教役者、及び信徒等よりの祝電。

明治三十九年七月十日着の分

叙聖ヲ祝ス (伯耆)米子教會  
 記念會ヲ祝ス (陸前)古川教會  
 叙聖二十五年ノ記念ノ大典ヲ祝ス 山中、松永  
 謹ンデ主教叙聖二十五年紀ヲ祝フ(發局アブ)發信人無記名  
 同日午前分  
 今日ノ祝典ヲ賀ス(發局カミイソ局) 有川教會  
 主教叙聖二十五年紀ヲ祝賀ス (廣島)菅井  
 遙ニ今日ノ盛典ヲ祝ス (尾張)内海教會信徒  
 祝典ヲ賀ス 小倉、松井  
 謹ンデ主教叙聖二十五年ヲ祝ス 大阪教會信徒  
 謹ミテ叙聖二十五年式ヲ祝フ(發局陸中) 發信人無記名  
 今日ハ御メデトウ (根室)イオアン山内  
 謹ンデ二十五年紀ヲ祝ス 斜古丹教會  
 聖職廿五年アルヒヒスコブ昇叙ヲ賀ス 神戸教會  
 祝二十五年祭 (三河)岡崎教會  
 謹ンデ二十五年紀ヲ祝ス 根室教會  
 尊父ノ盛典ヲ祝ス 仙臺 福音教會  
 奉祝二十五年盛典 涌谷正教會  
 奉祝二十五年之盛典 二郷正教會

叙聖二十五年ヲ祝ス 園部教會土屋 信徒  
 献上式ヲ祝ス 増毛 ルタイ(不明)  
 エビスコブ叙聖二十五年ヲ祝シ奉ル 修善寺教會信徒  
 祝典ヲ賀ス(發局國領局) ベートル村井、ステファンミウ、  
 大ニ祝典ヲ賀ス(發局釜石局) ベートル村井、ステファンミウ、  
 御祝ヒト御榮進ヲ奉賀ス 釜石教會  
 謹ンデ二十五年ノ盛典ヲ賀ス(發局水滸局) 無記名  
 奉祝ス 川度教會  
 謹ンデ御盛典ヲ賀ス (根室)マトロナ福井 高崎教會  
 今日ハ御メデトウ (根室)和村戸田シゲナホ 豊橋教會  
 御メデトウ申上ル (根室)イオアンオガタ 上ノ山教會  
 盛典ヲ祝ス 謹ンデ祝ス (陸前)古川ミカミワサ  
 今日ハ御メデトウ 謹ンデ奉祝 (根室)標津教會信徒  
 大主教記念祝典ヲ賀ス 安中正教會  
 二十五年祭ヲ祝ス 叙聖式ヲ祝ス 大槌教會  
 奉祝大典 下ノ關カワシマ  
 主教祝典ヲ賀ス 前澤教會



祝二十五年ト昇進  
 今日ノ盛典ヲ祝ス  
 盛典ヲ祝ス  
 尊憲ナル主教閣下ノ盛典ヲ奉祝ス  
 主教ノ叙聖ヲ祝ス  
 叙聖記念大典ヲ祝ス(發局豊前四日市局)  
 今日ノ大典ヲ祝ス  
 奉祝ス  
 二十五年祭ヲ祝ス(發局宇都宮局)  
 大主教叙聖二十五年ヲ祝ス  
 御盛典ヲ祝ス  
 主教叙聖二十五年紀及ビ大主教昇進ヲ祝ス  
 本日ノ記念盛典ヲ慶賀ス  
 二大祝典ヲ賀ス

脇町教會  
 佐沼教會  
 宮崎教會  
 鹿兒島正教婦人會  
 阿波撫養教會  
 原  
 長岡教會  
 (札幌)パエル中村  
 無記名  
 小田原教會  
 (上田)細目  
 旭川信徒一同  
 半田教會  
 岩内教會

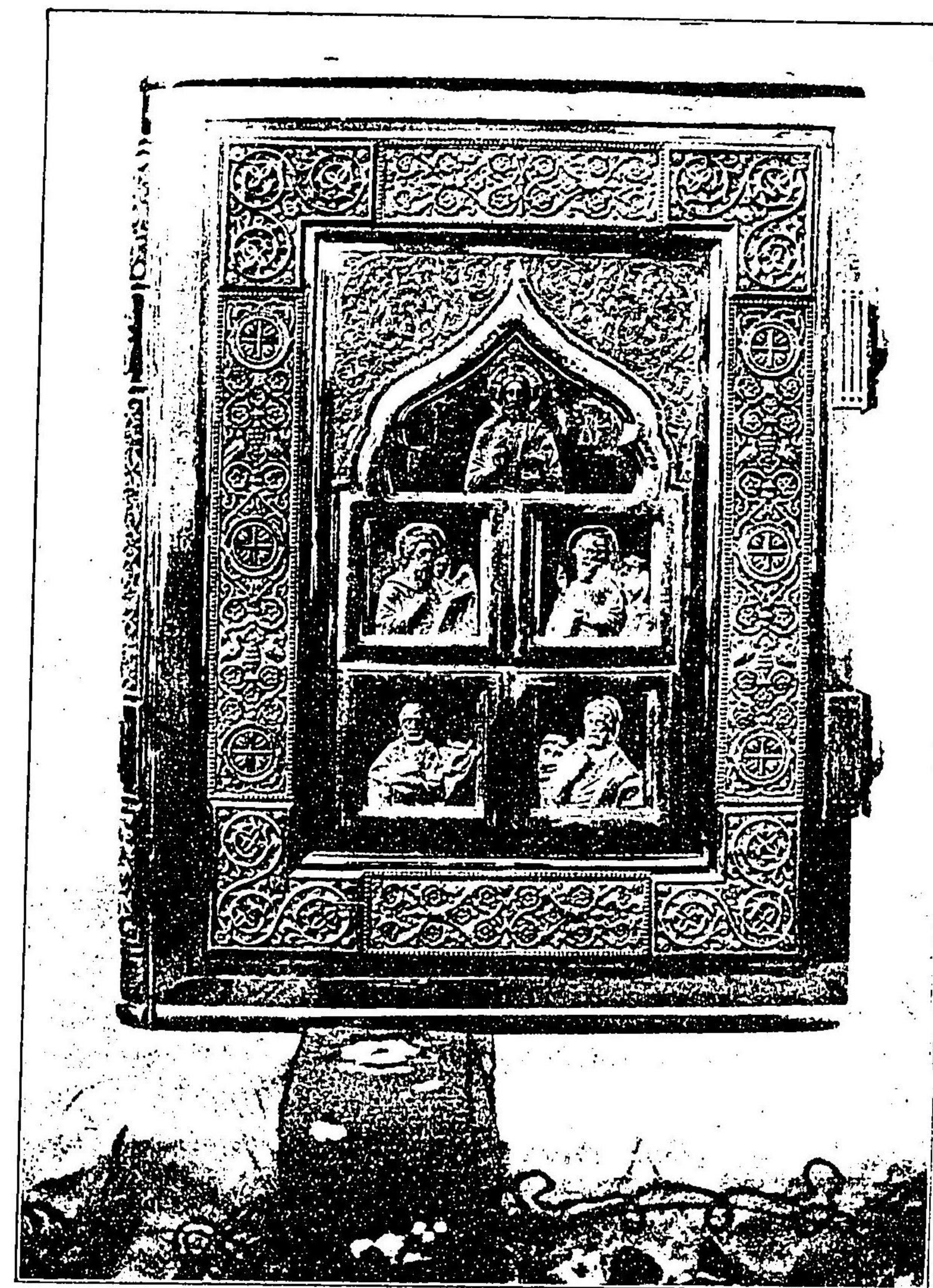
大ニ祝ス  
 十一日午後着の分  
 叙聖二十五年記念ヲ祝ス  
 今日ノ善キ記念ヲ祝ス  
 謹ンデ奉祝ス  
 叙聖二十五年紀ヲ祝ス  
 二十五年大典ヲ祝ス  
 十二日午前着の分  
 叙聖二十五年ヲ祝ス  
 右祝電計 五十九通

(大田原)暹澤パエル、ワルナワ、  
 網走教會  
 福岡信徒(發局不明九州の?)  
 札幌教會  
 人吉教會  
 (厚岸)パウリン山口  
 (豊濱)中須教會

以上受信人の宛名は或は「ハリストス正教本會」とし或は「本會事務所」或は「祝典委員宛」或は「主教ニコライ」「大主教」若くは「アルヒエピスコプニコライ」と記したるものあり、此等は孰れにても可なりども、彼受信人の何人なるや又何教會なるや不詳なる者に至りては聊か遺憾なしとせず、此點に付ては今後何處に打電するに付ても特に受信者の注意を要す。

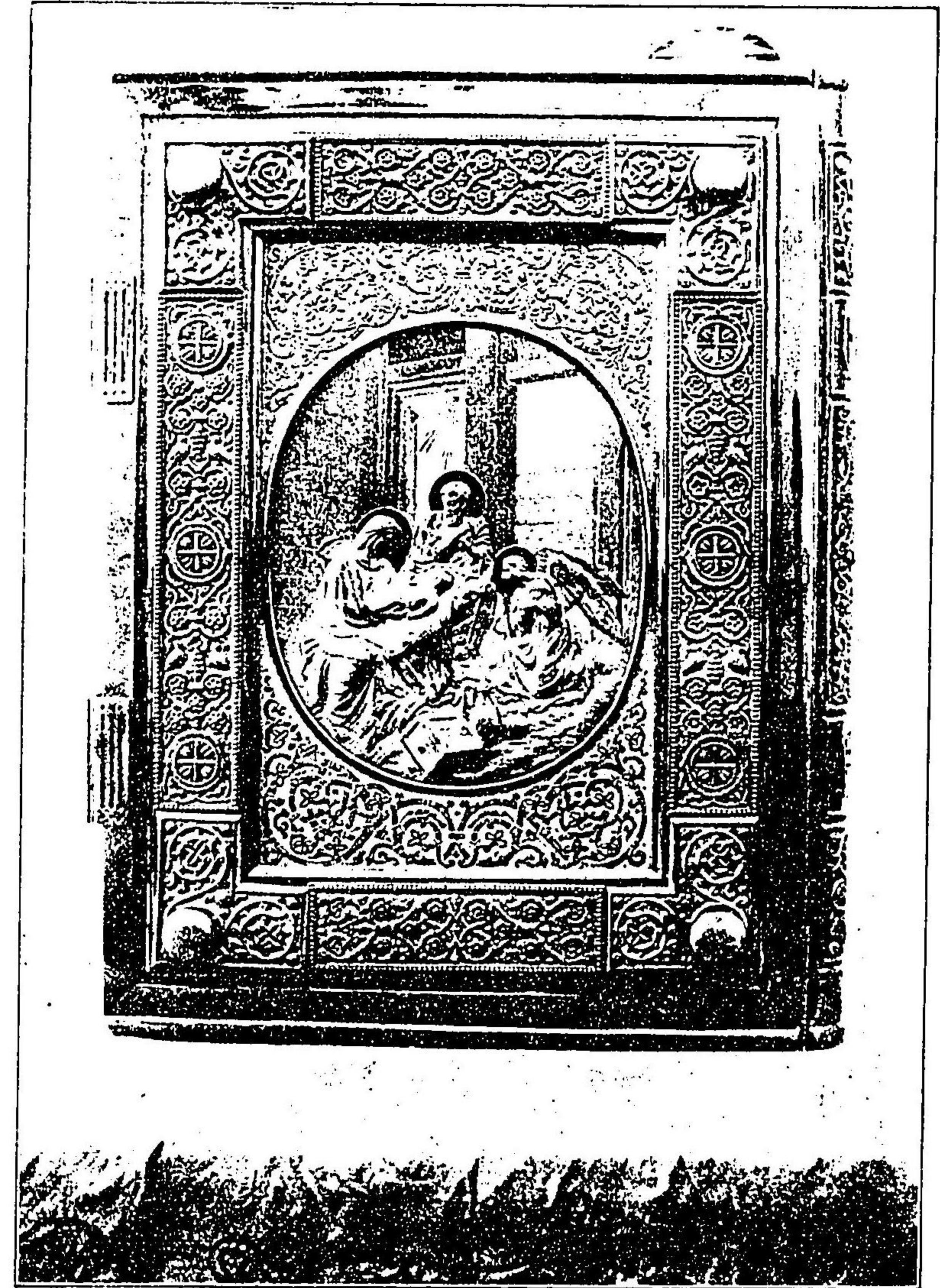






本聖堂の聖福音經





面後經音福聖の堂聖本



## 挿 畫 の 事

**此**に聖福音經の圖を出したのは一見すれば本記録には直接何の關係も無い様であるけれども二つ大に緣故がある。一は初め大主教に祝賀の獻品をなすに付て、本會の役者等は何が善からうかと評議が先づ決したのは最も崇美なる大福音經を作つて獻するといふ事であった。其が後に祭服と變つたのである。一は後記に述ぶるが如く福音を傳ふるに我等の最大最先の急務であるを記憶する爲である。抑此繪は、露國の名譽侍從職ユリイステスノワナ子チャエフマリツェフ氏が一千八百九十二年、我がハリストス復活本聖堂に獻した諸聖器物の一で、最も嵩美なる大福音經の前後兩面を寫した者である。即ち先に公にした『本聖堂畫帖』再版の第九十五圖に在る悉くの聖器物の中央に立てらるゝ所の福音經を茲に稍大きく明かにし

たのである。原實物の大きさは縦一尺四寸、横一尺三分、厚さは二寸五分位であつたと思ふ。此書殼は表裏兩面及び背共に悉く貴金屬に精蜜なる高彫の聖像と種々なる模様を彰はした者で、其意匠繪様等は編者が文字で説明するよりも、此の寫眞に付て一見すれば詳かである。併し念の爲に聖像のまだけは茲に言ておく、表面中央の上なる大括弧形の内には主全能者イ、ス、ハリストス、下の四面は向つて左の上から算へて右の上に遡り、聖福音者マトスイ、マルク、ルカ、イオアン。裏面の中央のはハリストスの至聖なる降誕、其内に天使の恭敬も象られ、博士の獻りたる黄金、乳香、没薬も見えてをる。表面の下端に垂れたる布切は誦讀の境に入る、葉で、兩面の上端に半圓形に見ゆる星形の附いて有る品は、葉の頭飾である。此福音經は前



## 挿 畫 の 事

**此**に聖福音經の圖を出したのは一見すれば本記録には直接何の關係も無い様であるけれども二つ大に緣故がある。一は初め大主教に祝賀の獻品をなすに付て、本會の役者等は何が善からうかと評議が先づ決したのは最も崇美なる大福音經を作つて獻するといふのであつた。其が後に祭服と變つたのである。一は後記に述ぶるが如く福音を傳ふるが我等の最大最先の急務であることを記憶する爲である。抑此繪は、露國の名譽侍從職ユリイステフ、ノワチ子ナエフマリツェフ氏が一千八百九十二年、我がハリストス復活本聖堂に獻じた諸聖器物の一で、最も嵩美なる大福音經の前後兩面を寫した者である。即ち先に公にした『本聖堂畫帖』再版の第九十五圖に在る悉くの聖器物の中央に立てらるゝ所の福音經を茲に稍大きく明かにし

たのである。原實物の大きさは縦一尺四寸、横一尺三分、厚さは二寸五分位であつたと思ふ。此書殼は表裏兩面及び背共に悉く貴金屬に精蜜なる高彫の聖像と種々なる模様を彰はした者で、其意匠繪様等は編者が文字で説明するよりも、此の寫眞に付て一見すれば詳かである。併し念の爲に聖像のただけは茲に言ておく、表面中央の上なる大括弧形の内には主全能者イ、ス、ハリストス、下の四面は向つて左の上から算へて右の上に遡り、聖福音者マトフイ、マルク、ルカ、イオアン。裏面の中央のはハリストスの至聖なる降誕、其内に天使の恭敬も象られ、博士の獻りたる黄金、乳香、没薬も見えてをる。表面の下端に垂れたる布切は誦讀の境に入る、葉で、兩面の上端に半圓形に見ゆる星形の附いて有る品は、葉の頭飾である。此福音經は前



後両面共金色燦爛として、只栗の色に紅緑紫等  
其他の色を見るばかりである。編者は此圖を掲  
げて各地方教會はなるべく、祈禱の爲には特別  
に造られた崇美なる聖福音經の有用を勧むる。

本會の書庫には寶座用のリツはな福音經と  
使徒經が備へられてある。また其地方に持てゐ  
ない所の諸兄弟は各其費を献じて其地方教會  
の爲に之を御求めなさい。(イサイヤ水島記)

\* \* \* \* \*

### 後記 祝典舉行後に於ける我等

#### 日本正教會の奉教者の留意

**尊** 榮なるアルヒエビスコプ、我 日本正教

會の至愛なる大牧者ニコライ師父の エビス  
コプに立てられしより二十五年の記念感謝、及  
び今年新にアルヒエビスコプに昇班されし祝  
典に付ては東京本部に於ける委員諸氏の盡力  
と全國教會の同勞者同心者等の厚意に依て、既  
に首尾善く行はれたり。今後吾人日本教會の奉  
教者は、如何なる心得を以て處すべきか、是れ  
特に考ふべき重要な問題なりとす。吾人は既に  
祝すべきを祝せり、讚稱すべきを讚頌せり、各  
其大牧父に誠意を表せり。されど吾人日本正教  
徒の本分は、單に此れのみを以て満足すべきに  
非ず。是より吾人は茲に奮發して夙夜心懸くべ  
き一大重要な本分あるなり。其は何ぞや、此本  
分に付ては、我らのアルヒエビスコプ閣下が、

是の七月十二日、聖使徒祭の祈禱後、當時參集  
の諸神品、教衆と翻譯者及び記者等に晝餐を賜  
ひし席上に於て、特に吾人に訓戒を垂れ給ひし  
言に依て明かなり。曰く

『諸氏の讚稱は我敢て當らず、されど日本  
は今回戦争の大勝利に因て世界に著しき  
大國となれり、夫れ爾等の國は斯の如き大  
國となれり、されば爾等の教會をも大教會  
となすべきは豈當然の急務に非ずや、今後  
爾等は益々協力奮發して主イ、ス、ハリ  
ストスの教を盛にし、日本教會をして世界  
に著しき大教會とならしめんを心懸け  
よ云々。』

**嗚呼**是れ吾人奉教徒が 夙夜 服膺すべき一大  
訓戒に非ずや、人は多く徒らに其家を大にせ



んを勉む、其富を大にせんを望む。此れも可なり、されど吾人が教會を大にせんを勉むるは、徒らに世の虚榮の爲に非ずして、最も上帝の悦び給ふ事を爲すなり。奉教者が其教會の大教會たらんを望むは、即ち聖書に所謂、上帝は衆人が救を得て眞理を知るに至らんとを悦ぶとの聖旨に合ふ善行なり。されば吾人は假令世界に名もなき小國の民たりとするも、一回其中に天國の來るあらば、奮つて之を大にせんを務むるは、固り當然の本分なり、況や大師父の言へる如く、我が國は既に世界に著しき大國の列に入りたる秋に於てをや。乃ち一層の奮發、幾倍の力行を以て靈の收穫を實に大にするを務むるは何よりの急務たるなり。願くは是の最小なき芥種は長じて大なる樹とならん。(マテ、廿三)

然らば吾人は、果して如何にして大教會にせんか、之れに付ては敢て特別の方法あるに非

ず、吾等には彼の英米佛獨の諸派の如く、語學其他に於て何等の助けもなし。又他の舊新諸派の如く、敢て多數の外國宣教師に依頼するを要せず、勿論依頼せんとするも、我が正教會にはニコライ大師父の外一人の外國宣教師もなし。我が教會には既往に在て偶々一二露國宣教師の來ることありしも、忽ち來り忽ち去る、其始終一貫して斯の島帝國に留り、眞に日本傳道の爲に全靈全身を献けたる者、實に我ニコライ大師父一人のみ。故に吾人が日本教會を大にせんを務めんには、只一大師父の熱誠と至愛の精神に則りて、衆同勞者各出來るだけ全力を出すに在るのみ。之が爲めには、生活の困苦、世間よりの憎悪、或者よりの迫害、其他妨礙となる者は我が福音の前途に横はれりと雖も、吾人は敢て之を取除くべき術を有せず。只吾人は其父大主教閣下が四十有餘年の昔千辛万苦を忍びて救ひの爲に奮戦したるが如く吾人も此等の

困苦と妨礙を忍びて奮戦すべきのみ。我等の大主教が今も非常の時事に處して主を讚榮するが如く、吾人も只主を讚榮すべきのみ。此帖の前に編者は大主教閣下の美なる筆蹟を擧げしが、茲に其聖言を記憶するを要す、曰く、  
蓋シ我若シ福音ヲ傳ヘバ、我ニ誇ルベキ所ナシ、此レ我が分ノ爲スベキ所ナレバナリ、若シ福音ヲ傳ヘズバ、我ハ禍ナル哉(コリント前九の十六)。然り福音を傳ふるは、全く我等教役者の當然の本分たるなり、之を行はざれば、我等は主の前に曠職の罪を免れず、乃ち悪情の僕として罰せらるべきなり。されば凡そ傳道の職に従事する者は、言に筆に、各々其能する所に循ひて、大に福音の弘布、教會の堅立、衆人の救ひに入て眞理を知るの福を得んとを務めざる可らず。彼の直接傳道に關せざる者と雖も、少くとも其頭に傳道思想を有せざる可らず、若も『余は傳道者に非ず』との故を以て、徒らに私利

に耽り己れの嗜好のみに偏し、教會の公益と傳道界の便否を考へざる輩の如き、亦禍たるを免れざるなり。

斯の如く我らが幸榮なる大師父閣下を榮するの祝典を擧げし後の日本教會に於て、傳道の擴張は、乃ち大教會を爲すに付て、最第一の要件なり。是と共に尙一の要件は、教會の獨立供給を謀るとなりとす。此れに付ては頗る困難を感ずる人少からずと雖も、今俄かに全部を然せよと曰ふに非ず、兎に角早晚教會は獨立せざる可らず、我が教會至微なりと雖も、主全能者の恩佑に乗じて、終に能はざる事なしとの確信を懷きて、各自勤儉を守り、愛の訓諭を厚うし、熱心至誠以て此に當らば、強ち預想より難きにも非ざるべし。視よ、我等本會の委員會に於て、初め大主教閣下に献品の出資を全教會に募集するや、我らの間には其應募額を預想して多く共七百圓を超過せざるべしと謂へり。然る



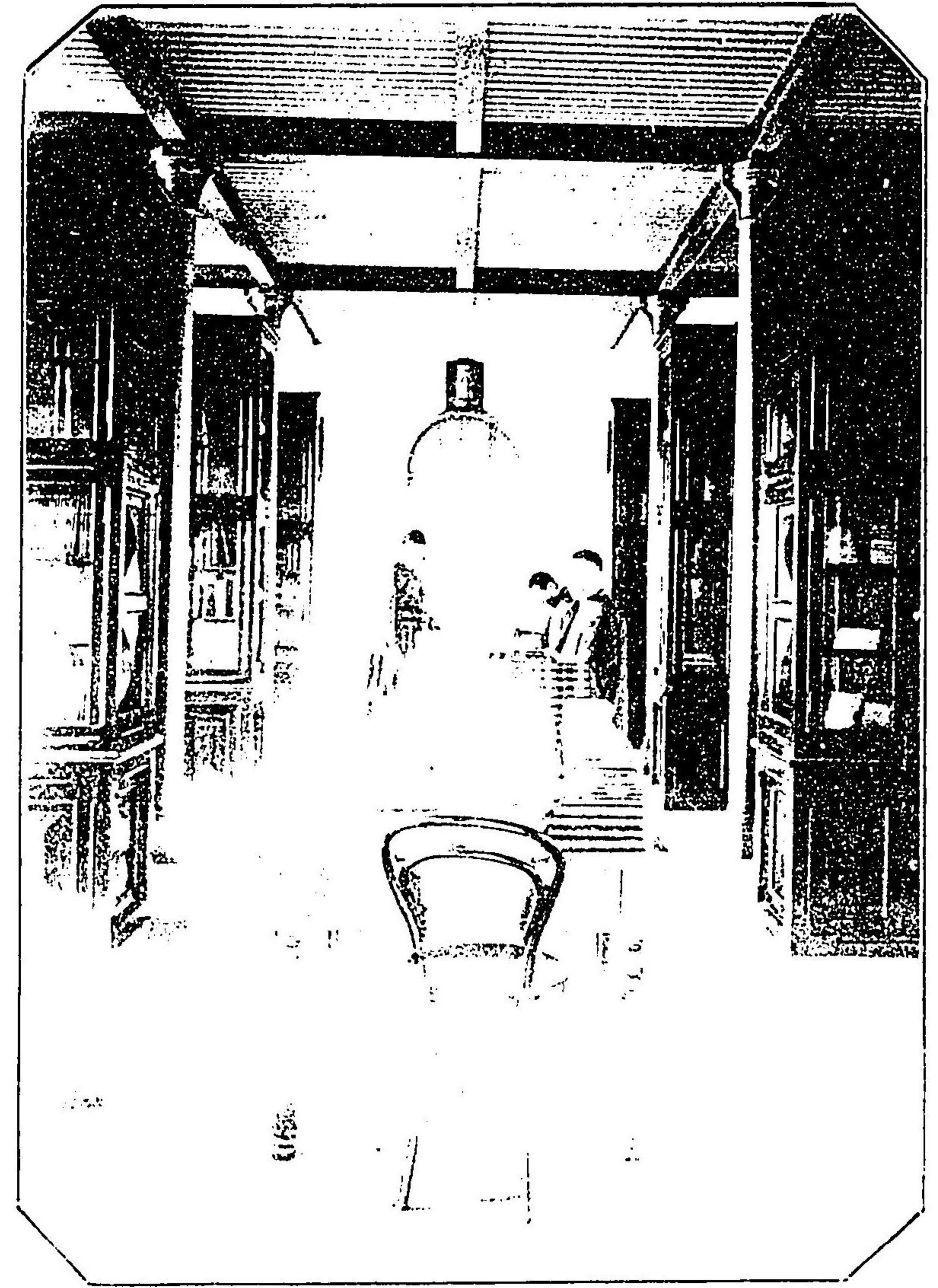
に實際は之に倍するよりも尙多く、即ち此附録に明記する如き一千六百有餘圓を得たり。是れ何に因て然るか、我らの同勞者が大師父閣下の成徳と厚恩を憶ひ、一同最も奮發して集金に務め、衆人亦大に奮發して大牧父の爲に各々其財を献じたるに因る。其中一人にして多きは二百圓の者もあれども、少きは十錢又は五錢の者もあり、試みに附録の明細報告に就て見るべし。斯く些少の額も誠意と衆力を以てせば、立るに前記の如き巨額を得て、預定以上の多種の聖物を大師父閣下に献呈するを得たり。されば今後傳道者への供給、教會諸費の補給等、各々其地方牧者教師も自省し、信徒の心を啓き、彼ら衆

力を一致して至誠以て事に従へば、今時に於て、供給獨立の初歩を立て且つ進むに於て、強ち望みなきに非ざるべし。此れに付ては今年の公會に於て新なるプロトエイ三井師父は、閣下の旨に従て、ペトル石川主筆と共に全國の諸教會を巡廻するに定まり、衆人に勸訓する爲に今や兩氏は既に其途に就けり、全教會に於て然るべき善益を受けんと、吾人の信じ且つ祈る所なり。而して爾後の報道に依れば至る所に好果ありと云ふ。願くは主上帝の寵佑に依て信仰の好果に愈々好果を加へ我らの教會は大に成長せんことを、アミン。

\* \* \* \* \*



(十一)



部内の階二庫書



# 附録 献品調製費寄附金報告

ニコライ大神父ノ主職叙聖二十五年祝典舉行ノ際に奉獻セシ祭衣冠一式調製ノ爲メニ全國諸教會ノ兄弟姉妹ヨリ寄附シタル金額并ニ寄附者姓名如左

序次ハ申込ノ先後ニ循フ(與中金額其他活字に大小あるは一に編制上及び印刷上の都合に因る者にして敢て他に載例あるに非ず者諒也)

注意 前掲第十一圖に付ても前掲七圖説明の終りを參看すべし乃ち初めから順に見れば分る。

金壹圓	司祭	アキラ	廣田	金貳圓	聖堂取締	大越文五郎	金五十錢	札幌	コロン	伊藤
金壹圓	副傳教者	渡邊	新六	金百圓	東京	長郷泰輔	金五十錢	同	ニコライ	伊田
金壹圓	傳教者	高木	久吉	金貳拾錢	甲府山中	マルファ原	金五十錢	同	パエル	野々村
金壹圓	司祭	ボリス	山村	金參圓	司祭	テイト小松	金拾錢	同	イオシフ	橋山
金五拾錢		イリナ	山村	金拾六圓參拾五錢	札幌	顯榮教會	金拾錢	同	ゴオルギ	中山
金五拾錢		ステフン	山村	内	司祭	ニコライ櫻井	金貳拾五錢	同	モイセイ	小林
金參拾錢	傳教者	フイワ	山村	同	傳教者	セルギー鹽谷	金貳拾錢	同	パヅル	今井
金壹圓	詠隊師	豐田	精一	同	札幌教會	キリル日野	金拾錢	同	スサンナ	百々
金五拾錢	傳教者	増田	作太郎	同	同	イオアン大橋	同	同	シメオン	大和田
金五拾錢	傳教者	櫻田	徳治	同	同	ワシリイ田村	同	同	シメオン	大和田
金拾圓	陸中磐井教會	山田	榮治	同	同	パヅル中村	同	同	同	同
金參圓	副輔祭	今田	彦三郎	同	同	エンナ中村	同	同	同	同
金五拾錢	傳教者	市川	茂平	同	同	マルク阿部	同	同	同	同
金五拾錢	姫路教會	ユリヤ	宮田	同	同	マトエイ阿部	同	同	同	同
金五拾錢	同	ダワド	都守	同	同	ミハイル郡司	同	同	同	同
金壹圓	傳教者	田手	恭助	同	同	ルカ藤井	同	同	同	同
金五拾錢	輔祭	加納	一藏	同	同	ユリヤ瀬尾	同	同	同	同
				同	同	イオアン松井	同	同	同	同
				同	同	ワシリイ郡司	同	同	同	同

附録







金壹圓	日形教會モイセイ葛西原衛	金貳拾錢	増田	イリヤ	中川崇	金五拾錢	足利	イオアキム川田茂平
金五拾錢	同 マリナ全 千春	金壹圓	同 撫養教會	イオアン	中川亨	金五拾錢	同	ホマ熊本友治郎
金壹圓	同 イグナテイ小野寺正作	金壹圓	同	ニコライ	富田	金五拾錢	同	ターホン關口文次郎
金五拾錢	同 ルカ 渡邊善吉	金八拾錢	同	マトスイ	秋田	金參拾錢	同	ガウリイル龜田清三郎
金參拾錢	同 メホゾイ小野寺正	金五拾錢	同	アキラ	佐々木	金貳拾錢	同	アンドレイ島海辰五郎
金拾錢	同 パウル佐藤慶之助	金五拾錢	同	ペトル	梯	金貳拾錢	同	ユリヤ 寺内
金拾錢	同 マトスイ小野榮三郎	金五拾錢	同	ルカ	齋藤	金拾五錢	同	サロミヤ黒澤くま
金拾錢	同 エリセイ小野寺清八	金壹圓	同	新聴者	中川資策	金拾錢	同	ソフヤ小林とめ
金拾錢	同 マトスイ小野寺嘉藏	金壹圓	東京	宮階	路加	金貳圓	同	伊豫松山教會キリル加藤
金七拾錢	同 イアコフ渡邊禮治	金壹圓	同 女子神學校	マリナ	水谷	金五拾錢	同	リテヤ 一色
金參拾五錢	同 正教婦人會	金壹圓	同	エリナ	楊泉	金五拾錢	同	ミヘイ 中村
金五拾錢	同 日 曜 學 校	金壹圓	同	ルキヤ	影田	金壹圓	同	武州大宮教會イオアン新田
金貳拾錢	陸中金澤教會ルカ佐藤寅之助	金壹圓	同	エカテリナ	中井	金壹圓	同	イエレミヤ福原
金拾錢	同 アルセニイ萩田廣治	金七拾錢	同	マルス	石田	金貳拾錢	同	テモスイ佐々木
金貳拾錢	同 ベトル加藤市兵衛	金七拾錢	同	ユリヤ	村上	金貳拾錢	同	ワシリイ黒田
金貳拾錢	同 イリナ菅原はるの	金七拾錢	同	マルス	鈴木	金貳拾錢	同	テーホン小坂橘
金貳圓	同 水 山 高 志	金七拾錢	同	パウラ	關木	金貳拾錢	同	ベトル 高橋
金五拾錢	羽後湯澤町マリンナ 竹村	金七拾錢	同	ムラ	山村	金貳圓	同	伯耆米子教會ユリヤ高島倭文
金參拾錢	同 同岩崎町イオアン齋藤作右衛門	金壹圓	足利教會	マリヤ	平塚静	金貳圓	同	金卅錢氣仙郡盛教會イアコフ水野徳太郎
金拾錢	同 ルカ 鹽谷豐藏	金壹圓	同	ワシリイ	關口由兵衛	金五拾錢	同	同 尾張知多郡乙 川 教會
金拾錢	同 マトスイ柴田榮助	金壹圓	同	イナヤコ	熊本周太郎	金參拾錢	同	人吉教會 モイセイ倉本
金拾錢	同 同増田町アンドレイ佐々木運吉	金壹圓	同	パウル	川田埔之助	金五拾錢	同	アガヒヤ鹽見
金貳拾五錢	同 イオナ白石榮枝	金壹圓	同	ベトル	牧島百藏	金貳拾錢	同	タジシイ淵田
	同 パウル齋藤辰之助	金壹圓	同	グオルギイ	小野	金貳拾錢	同	

金貳拾錢	人吉教會 キリル 川口	金貳拾錢	下總舟尾	サビン	古橋	金貳拾錢	佐沼	シメオン佐々木
金貳拾錢	同 アレキシイ沼田	金五錢	同	フリト	尾井川	金貳拾錢	同	シメオン佐藤
金參拾錢	同 メホゾイ淵田	金貳拾錢	同	ルキヤ	花島	金貳拾錢	同	イオフ 大場
金參拾錢	同 テモスイ横瀬	金五拾錢	同	マトスイ	加藤	金拾錢	同	タイト 佐々木
金貳拾錢	同 ワシリイ横瀬	金貳拾錢	同	モイセイ	岩井	金拾錢	同	ホテナ 佐々木
金貳拾錢	同 パウル倉本	金拾錢	同	ムラ	酒井	金拾錢	同	ベトル 佐々木
金拾錢	同 ワシリイ川口	金參拾錢	同	ミハイ	出山	金拾錢	同	エリサヘイ佐々木
金貳拾錢	同 ゲオルギイ久木田	金拾錢	同	イオシ	山口	金貳拾錢	同	イオアン 佐々木
金貳拾錢	同 アキラ淵田	金拾錢	同	ペトル	豊島	金拾錢	同	イリヤ 遊佐
金貳拾錢	同 リデヤ高畑	金五拾錢	同	イシドル	増田	金拾錢	同	マリヤ 遊佐
金貳拾錢	同 フオドル椎葉	金貳拾錢	陸前佐沼	アルテ	三浦	金拾錢	同	マトロナ志賀
金七拾五錢	同 ベトル菊池	金拾錢	同	イリナ	佐々木	金貳拾錢	同	ミヘイ 岩城
金貳拾五錢	同 パウル東久世	金貳拾錢	同	マリナ	佐々木	金參拾錢	同	バルメン星
金五拾錢	同 ベトル岡	金拾錢	同	ペトル	佐々木	金貳拾錢	同	ベトル 伴
金五拾錢	京都正教會イオフ 高田	金貳拾錢	同	ニキタ	佐藤	金拾錢	同	アゲイ 星
金貳圓五拾錢	常陸國 太田正教會	金貳拾錢	同	イオナ	佐々木	金拾錢	同	イナナテイ星
金五拾錢	同 佐久間 貞治	金拾錢	同	アスナシイ	遊佐	金貳圓	陸奥福岡	ニコライ川島
金拾五錢	同 下總船尾教會モイセイ豊島	金貳拾錢	同	ア、ロン	遊佐	金壹圓	同	ベトル酒井一家族
金貳拾錢	同 ダワド 豊島	金拾錢	同	アスナシヤ	金森	金壹圓	同	モイセイ下斗米一家族
金貳拾錢	同 パウル 杉森	金拾錢	同	ダワド	平塚	金五拾錢	同	メレテイ柴田
金貳拾錢	同 イヤコフ細谷	金拾錢	同	ネオニ	平塚	金五拾錢	同	マリヤ 下斗米
金拾錢	同 ルカ 鳥羽	金貳拾錢	同	ホテナ	伴	金參拾錢	同	ベトル 澤藤
金壹圓	同 アレキサンドル鳥羽	金拾錢	同	ダワド	新妻	金貳拾錢	同	アンナ 川守田
金參拾錢	同 ニーナ 鈴木	金拾錢	同	ヒワ	熊谷	金七拾錢	同	八王子教會ハリトン平塚
金參拾錢	同 イオアン古川	金拾錢	同	スオドル	熊谷	金六拾錢	同	マルク 淵沼







金貳拾錢	白河	マトフニイ畑田	金五拾錢	淺草	イサアク橋本	金參拾五錢	二郷	ルカ大町
金五拾錢	全	ワシリイ岩間	金參拾錢	全	ヒリッブ富田	金貳圓	名古屋教會	アウラアム宮下
金參圓	小倉教會	ニコライ松井	金貳拾錢	全	コスマ尾崎	金壹圓	全	イアコフ水野
金壹圓	全	パワニル佐藤	金參拾錢	全	(ニカノル増田)	金壹圓	全	アキラ水谷
金五拾錢	全	サムイル小林	金貳拾錢	全	マリヤ牧田	金壹圓	全	イオアン水谷
金壹圓	全	アンドレイ木村	金拾錢	全	ダリヤ喜多川	金壹圓	全	エリセイ馬場
金貳圓	全	パワニル加藤美	金拾錢	全	イグナタイ大越	金壹圓	全	ルカ竹内
金壹圓	全	パワニル清田	金貳拾錢	全	マカリイ大野	金壹圓	全	家族一同
金壹圓	全	イアコフ島田	金壹圓	全	イオアン横山	金壹圓	全	ニコライ中村
金壹圓	全	タイホン渡邊	金五拾錢	全	ベトル山村	金五拾錢	全	ベトル柴山
金五拾錢	全	マルク小田切	金五拾錢	全	アルセニイ佐々木	金五拾錢	全	イグナタイ高田
金壹圓三拾錢	傳教者	イオアン鈴木信一	金貳拾錢	全	パワニル鎌田	金五拾錢	全	(以下七十一)
金貳圓	東京	堀江復	金參拾錢	全	サワ木村	金五拾錢	全	イオナ三島
金壹圓拾錢	淺草教會	テモフニイ庄司	金七拾錢	全	ルカ木村	金五拾錢	全	マリク近藤
金壹圓	全	ワルナワ森	金五拾錢	全	イアコフ武者	金五拾錢	全	イリヤ黒川
金壹圓	全	サムン神保	金貳拾錢	全	イオナ遠藤	金五拾錢	全	アガヒヤ水谷
金壹圓	全	マトフニイ湯川	金拾錢	全	キリル横山	金五拾錢	全	マリナ水谷
金五拾錢	全	マリヤ山下	金貳拾五錢	全	イオナ藤	金五拾錢	全	ワニラ水谷
金五拾錢	全	ワシリイ山下	金參拾錢	全	シメオン伊藤	金五拾錢	全	ベニアミン阿部
金五拾錢	全	ワシリイ高島	金壹圓	全	イサイヤ齋藤	金五拾錢	全	パワニル寺島
金五拾錢	全	マルク外山	金拾錢	全	ベトル木村	金五拾錢	全	マルク二村
金五拾錢	全	マルク外山	金拾錢	全	イオアン木村	金五拾錢	全	ステファン岡井
金五拾錢	全	マカライ武原	金貳拾錢	全	フニオドル吉城	金參拾錢	全	キリル笹葉
金五拾錢	全	サワ齋藤	金貳拾錢	全	イオアキム甲谷	金參拾錢	全	マリヤ濱田
金五拾錢	全	フィラレト保倉	金五拾錢	全	ワシリイ阿部	金貳拾錢	全	イオアン服部
金五拾錢	全	イオアン金谷	金貳拾五錢	全			全	ニナ井坂

金貳拾錢	名古屋	ユリヤ伊藤	金壹圓	中須教會	ヒリッブ大岩	金參拾錢	修善寺	アガヒヤ小杉
金貳拾錢	名古屋	井村福太郎	金貳拾錢	全	イオアン大河内	金貳圓	全	イアコフ山田
金拾五錢	全	マトフニイ三田梅作	金貳拾五錢	全	ルカ日野	金貳圓	全	エラスト野田
金拾錢	全	ホマ山口松五郎	金拾五錢	全	ワルワラ濱本	金壹圓	全	イオアン野田
金貳拾錢	全	モイセイ森 葎水	金拾錢	全	釘宮剛	金參拾錢	全	同傳教生イオアン大木竹次郎
金五拾錢	全	ヒリッブ岩澤銀作	金壹圓	輔祭	マリヤ釘宮	金參拾錢	全	岩代須賀川教會イオアン小梨
金拾錢	全	ニコデム井村初太郎	金五拾錢	全	マリヤ釘宮	金拾錢	全	ワサリオン廣田
金壹圓	全	ワシリイ三田金次郎	金六拾錢	全	ステファン森下	金參拾錢	全	フニオドル村上
金貳拾錢	全	グリゴリイ金子茂藏	金六拾錢	全	グリゴリイ小池	金拾錢	全	イオアン三瓶
金拾錢	全	ワシリイ石井正藏	金四拾錢	全	テモフニイ林	金五拾錢	全	ダワイド加瀬
金拾錢	全	アンドレイ日吉長吉	金四拾錢	全	パワニル森下	金五拾錢	全	スサンナ加瀬
金貳拾五錢	全	ワシリイ三田銀次郎	金參拾錢	全	ベトル安部	金五圓	全	鳥山教會
金拾錢	全	シモン雨宮亥之作	金拾錢	全	マリヤ大川	金壹圓	全	全傳教者
金壹圓	全	イオアン森 拓平	金五錢	全	イオアン飯塚	金五拾錢	全	備前岡山教會ベトル太幸
金拾五錢	全	内海教會	金拾錢	全	イオアン原澤	金五拾錢	全	ダワイド佐藤
金貳拾錢	全	イアコフ日比	金參拾五錢	全	マルフフ桑原	金五拾錢	全	セルギイ須崎
金參拾錢	全	イサアク日比	金參拾五錢	全	イアコフ桑原	金五拾錢	全	アンドレイ神崎
金拾錢	全	シメオン内田	金四拾錢	全	マリヤ須藤	金貳拾錢	全	マリヤ佐藤
金拾錢	全	マルク内田	金四拾錢	全	イオアン森下	金貳拾錢	全	オニシム藤原
金拾錢	全	イオアシフ日比	金壹圓	全	ベトル後藤	金貳拾錢	全	ソフィヤ佐藤
金拾錢	全	アレキシイ日比	金拾五錢	全	マトフニイ西山	金貳拾錢	全	イサアク三田村
金拾錢	全	アンナ日比	金拾五錢	全	グリゴリイ桑原	金拾錢	全	ヘオドラ佐藤
金五錢	全	サワ日比	金八拾五錢	全	アウラアム八木	金拾錢	全	ニナ佐藤
金壹圓	全	ザハリヤ日比全家	金壹圓	全	豆州修善寺教會 信徒一同	金貳圓	全	全傳教者ニコライ石川昌三郎
金拾錢	全	イオアン日比	金壹圓	全				
金拾錢	全	ユリヤ日比	金四圓	全				



金五拾錢	尾州知多郡坂井村望月富之助	金貳圓五拾錢	日本橋教會内 藤 節二	金參拾錢	飯肥	ミロン金丸善被
金參拾錢	丹後宮津教會イオアン建部	金貳圓五拾錢	全 ウヰラ内藤	金拾五錢	全	イオアン金丸重雄
金拾五錢	全 イリヤ山内	金壹圓	休職司祭 佐藤 秀六	金五錢	全	サウワ金丸俊次
金參拾錢	全 パホミイ村瀬	金五圓	東京 正教青年會	金五錢	全	テイト岩切 寛
金五拾錢	全 ペトル山田	金壹圓五拾錢	東京 山田藏太郎	金參拾錢	全	アレキシイ梅村友清
金五拾錢	秋田市 傳教者 赤平恂太郎	金貳圓	全 金須嘉之進	金拾錢	同	イアコフ 梅村瑞夫
金壹圓	全 パエル相原	金貳圓	司祭 千葉 忠朔	金拾錢	同	エカテリナ梅村みき
金壹圓	東京深川教會ダニイル小菅	金壹圓	神學校教員昇 直隆	金五錢	全	マクシム弓削利光
金五拾錢	全 ニコライ梅本	金壹圓	内山 彼得	金五錢	全	アレフ佐藤熊太郎
金參拾錢	全 テイト西尾	金壹圓	竹内謙三郎	金五錢	全	シモン 三島浩
金參拾錢	全 ペトル卷内	金壹圓	森 謙一	金五錢	全	ホテナ松下と
金參拾錢	全 ミヘイ石川	金參圓	岩谷堂教會信徒一同及星山重道	金壹圓	全	マルフア高橋
金參拾錢	全 ホマ薄生	金貳拾五錢	日向依肥教會マルク吉野正	金壹圓	全	リ ン 高橋
金貳拾錢	全 アンドレイ小玉	金貳拾五錢	全 ペラギヤ加藤かすが	金五拾錢	同	豊前中津教會アルセニイ原
金貳拾錢	全 シロト徳永	金五拾錢	全 フェオドル黒田兵三郎	金五拾錢	同	ソフヤ 原
金拾錢	全 佐沼教會 モイセイ加藤	金拾錢	同 バズル 黒田	金五拾錢	同	イオアン 全
金壹圓	全 野州宇都宮教會田島芳太郎	金五錢	同 リスヤ 全	金五拾錢	同	ナアジュグ 全
金壹圓	本會 笹川賢八	金五錢	同 イリナ 全	金五拾錢	同	ワラ 全
金貳圓	全 藤澤次利	金五錢	同 マリヤ 全	金五拾錢	同	マリヤ 全
金貳圓	司祭 湯川金太郎	金五錢	同 ニコライ 全	金貳拾錢	全	マリナ 全
金五拾錢	司祭 假野成章	金五錢	同 リナヤ 全	金五圓	全	パウラ 中尾
金五拾錢	本郷 鈴木廉次郎	金拾五錢	全 エウロフイ和田勇平	金拾錢	全	フェオドル安部全家
金貳圓	牛込 イリナ植松うた	金拾五錢	全 イオアン和田常治	金拾錢	全	デミトリイ床並
			全 エフレム宅間友次郎	金壹圓	全	ドロフヤ服部
			全 コノン日吉庄七	金壹圓	全	ニーナ 服部

金參拾錢	中津 アハナシイ安部	金五拾錢	廣島教會傳教者 菅井直江	金五拾錢	盛岡	アキラ 福地
金四拾錢	全 グリゴグイ安部	金五拾錢	根室教會第二回分	金參拾錢	全	サムイル小笠原
金貳拾錢	全 ペトル篠原	金貳圓	植分村 アンドレイ佐々木	金參拾錢	全	イアコフ菅
金貳拾錢	全 ペラギヤ荒井	金五拾錢	全 ルカ 福田	金參拾錢	全	ペトル 澤野
金五拾錢	全 イアコフ森 奥	金壹圓	根室 イアコフ丹羽	金拾錢	全	イサアク小野寺
金五拾錢	全 イオアン森 奥	金壹圓	厚岸町 パウリン山口	金貳圓	全	仙臺司祭 片倉源十郎
金五拾錢	全 傳教者 ダニイル廣岡	金壹圓	盛岡教會 ホマ 八重樫	金五拾錢	全	松川教會傳教者 安宅 博
金五拾錢	備中妹尾全平 井一 造	金拾錢	ルカ 高瀬	金五拾錢	全	秋田市傳教者 赤平恂太郎
金參拾錢	池田教會全デミトリイ益田	金壹圓	メホテイ川 瀬	金貳拾錢	全	ザハリヤ荒澤
金五拾錢	和歌山教會フェオドル山路梅吉	金貳拾錢	マルファンナ瀬川	金貳拾錢	全	ホマ 高橋
金拾錢	全 マルク美濃部由太郎	金貳拾錢	マルフア 樽山	金壹圓	全	パウエル石井
金貳圓	全 ルカ松尾新太郎	金貳拾錢	ハリテナ西海枝	金壹圓	全	石狩旭川傳教者 石井周太
金拾五錢	全 モイセイ西龜之助	金參拾錢	マルコ 荒濱	金五拾錢	全	浦谷教會 ワルワラ松浦
金參拾錢	全 アキラ玉置朝吉	金拾錢	エレナ 上田	金貳拾五錢	全	丹後間人會イアコフ池田
金參拾錢	全 ニカノル榎本楠七	金壹圓	テイト 堀合	金五拾錢	全	マルフア 中小路
金五拾錢	全 エレナ田村みちる	金五拾錢	パウエル 白土	金拾錢	全	名古屋教會アウグスト古川
金五拾錢	全 アウラアム田中善藏	金貳拾錢	ノンナ 柴内	金拾錢	全	全司祭(第二回分)柴山準行
金參圓	全 イアコフ北田久太郎	金拾錢	ワルワラ伊藤	金貳圓	全	ニーナ 水谷
金參圓	全 和歌山 婦人會	金貳拾錢	ハリテナ柏原	金五拾錢	全	バラスケワ水口
金壹圓	全 傳教者 パワエル 津田徳之進	金貳拾錢	フェオドル岩澤	金參拾錢	全	(前六十八頁 下巻君) ニーナ 船橋
金壹圓	丹後園部教會 テイト 桐野	金壹圓	テモフェイ 泉澤	金拾五錢	全	イオシフ小出
金壹圓	全 モイセイ中野	金五拾錢	イアコフ大里	金拾錢	全	函館教會 アントニイ馬場
金壹圓	全 マルク 井戸田	金參拾錢	テイト 相澤	金五圓	全	神戶教會 ダニイル津田
金參拾錢	全 メホテイ土屋	金五拾錢	コンスタンチイ高橋	金壹圓	全	
金參拾錢	全 ヒリモン内藤	金五拾錢	アキラ 高橋			



金參拾錢	神戶	イオシフ木村	金五拾錢	兒島	アンドレイ太宰	金參錢	金成	マリヤ 小野寺
金五拾錢	全	マリヤ 鈴木	金貳拾五錢	全	ダワイド 小川	金拾錢	全	イオフ 高橋
金拾錢	全	マリナ 關口	金五拾錢	全傳教者	イグナテイ龜井	金五錢	全	ドロヒヤ佐藤
金壹圓	全	アガヒヤ佐野	金壹圓	武州	軍道 教會	金五拾貳錢	全	イアコフ川股
金拾錢	全	モイセイ森	金貳拾錢	武州秩父會	ステファン川田文彌	金五拾錢	全	パウエル 大川
金壹圓〇五錢	全	婦人 會	金壹圓	十文字教會	テモフニ 菊地	金參拾錢	全	イオアン佐藤
金參拾錢	全	アガヒヤ石卷	金五拾錢	全	マルコ 佐藤	金貳拾錢	全	ニコライ高橋
金拾五錢	全	イウステン齋藤	金拾錢	全	ジノビイ小野寺	金五錢	全	イオナ 山田
金五拾錢	全	イオアン中村	金貳拾錢	全	ミヘイ 鈴木	金貳拾錢	全	ルカ 加藤
金五拾錢	全傳教者	イアコフ萱野	金五拾錢	全	エリセイ佐藤	金壹圓	全	アウラム梅澤
金五拾錢	司祭	松田 善述	金貳拾錢	全	パンテレモン菅原	金壹圓	全	ミハイル岩立
金壹圓	熊本傳教者	高橋 長七	金拾錢	全	キリル 全	金壹圓	全	パウエル深山
金壹圓	肥前唐津全藤	原林 次郎	金拾錢	全	サムイル 全	金五拾錢	全	パウエル深山
金壹圓	上州館林全杉	山謙 三	金五拾錢	全	シメオン 全	金五拾錢	全	イオシフ深山
金貳圓	全	館林 正教會	金貳拾錢	全	モイセイ加藤	金五拾錢	全	イアコフ寺田
金五拾錢	備前兒島會	ニコライ野崎	金貳拾錢	金成教會	アンドレイ加藤	金五拾錢	全	ペトル 染谷
金貳拾五錢	全	ペトル 中山	金拾錢	全	アトフニ 佐藤	金五拾錢	全	イオシフ園部
金貳拾五錢	全	モイセイ武岡	金拾錢	全	ワシリイ鈴木	金五拾錢	全	ステファン山崎
金拾錢	全	マルフフ宮田	金五錢	全	ペトル 高橋	金五拾錢	全	パウエル 松本
金四拾錢	全	ワシリイ嶋井	金拾錢	全	モイセイ林	金五拾錢	全	サワ 岩立
金貳拾五錢	全	パウエル 太宰	金五錢	全	シモン 菅原	金五拾錢	全	ペトル 梅澤
金五拾錢	全	グリゴリイ鴨井	金拾錢	全	ペトル 小野寺	金五拾錢	全傳教者	シメオン富井
金五錢	全	パウエル 太宰	金五錢	全	イオアン鈴木	金八拾錢	全	遠州袋井教會
金拾錢	全	フエドル岡山	金五錢	全	テクサ 星	金壹圓	全	遠州袋井教會
金五錢	全	マリヤ 松本	金五錢	全	エウドキヤ金野	金壹圓	全	マルコ 西尾

金貳拾錢	袋井	ロマン 大橋	金五拾錢	下總七榮	新妻 敬治	金貳圓	京都	エフレム田村
金貳拾錢	全	イオアン橋本	金五拾錢	全吉岡	諸岡 寅松	金壹圓	全	パウエル 奥村
金拾錢	全	ワシリイ近藤	金貳圓	全八街	豊榮 信徒	金壹圓	全	イアコフ佐藤
金拾錢	全	サワ 河村	金貳拾錢	全	福島教會	金壹圓	全	ヒリッ村上
金拾錢	全	イオナ 木村	金參拾錢	全	パウエル 高橋長吉	金五拾錢	全	マトフニ 桐野
金拾錢	全	アキリナ中島	金壹圓	全	サワ 遠藤富治	金五拾錢	全	ハリシヤ足立
金拾錢	全	リポフ 古坂	金拾錢	全	モイセイ山田忠三郎	金五拾錢	全傳教者	イオアン磯久
金壹圓	全	アキラ 岩田	金貳拾錢	全	齋藤 三郎	金五拾錢	北海道増毛教會	阿部常吉
金五拾錢	遠州掛川會	ベトル 竹内	金五拾錢	全	アンドレイ吉田榮三郎	金五拾錢	全	ステファン 小谷木常祐
金五拾錢	全	ニコライ松浦	金五圓	全	イオアン荒川脩	金五拾錢	全	マトロナ阿部
金參拾錢	全	アキラ 川島	金五拾錢	全	マトフニ高橋友平	金五拾錢	全	トルコ小島宗孝
金貳拾錢	全	イオシフ野	金七拾五錢	全	モイセイ古關兵之助	金貳拾錢	全	グリゴリイ美濃清吉
金壹圓	野州馬頭教會	アレキシイ飯塚	金五拾錢	全	古川教會傳教者	金參拾錢	全	マリヤ川股とく
金壹圓	全	イオアン上田	金壹圓	全	森教會 信徒	金參拾錢	全	新聽者田中貞作
金五拾錢	全	イアコウ林	金壹圓	全	パウエル 久保田	金貳圓	全	渡島國 有川 教會
金五拾錢	全	イリヤ 大内	金五拾錢	全	遠州 萱間 教會	金五圓	全	函館教會
金壹圓五拾錢	全	ワシリイ奥山	金壹圓	全	越後 柏崎 教會	金五圓	全	ニキタ 倉岡
金五拾錢	全	シメオン菊地	金參拾錢	全	浦谷教會	金五圓	全	イグナテイ下田
金五拾錢	全	セルギイ大森	金五拾錢	全	岡崎教會	金參圓	全	パウエル 西
金參拾錢	全	マトフニ西宮	金貳拾錢	全	アキリナ中山	金參圓	全	イグナテイ厨川
金參拾錢	全	モイセイ川又	金拾錢	全	ゲオルギイ佐藤	金參圓	全	イアコフ八木
金五拾錢	全	イオアン磯野	金壹圓	全	東京赤坂丹後町	金貳圓	全	アンドレイ福士
金參拾錢	全	パウエル酒尾	金貳圓	全	京都教會司祭	金壹圓	全	ロマン 本多
金六拾錢	全	パウリン磯野	金貳圓	全	ホマ 望月	金壹圓	全	アンドレイ福士
金五拾錢	全	イアコフ秋元	金貳圓	全	マルコ 島野	金壹圓	全	グリゴリイ茂木



金壹圓	函館	アルカテイ鈴木	金參拾錢	函館	ニキタ 長瀬	金貳拾錢	上ノ山	イオアン瀧口
金壹圓	全	パワエル 長尾	金壹圓	全	モイセイ 美濃	金拾錢	全	ベトル 船山
金壹圓	全	イオナ 大平	金壹圓	全	イアコフ 野々村	金拾錢	全	マトフイ 山口
金壹圓	全	スサンナ 柿沼	金壹圓	全	パワエル 中岡	金拾錢	全	ザハリヤ 山口
金壹圓	全	ワルワラ 三浦	金壹圓	全	アンドレイ 笠原	金壹圓	全	豊前國弓削田村炭坑八木港
金壹圓	全	ベニアミン 稻川	金壹圓	全	ヒリッブ 江口	金貳圓	全	東京女子神學校エリサベタ兒玉
金貳圓	全	エレナ 五十嵐	金壹圓參拾錢	全	シメオン 小笠原	金壹圓五拾錢	全	エウヒミヤ 伊藤
金五拾錢	全	エウドキム 西村	金壹圓	全	エレナ 酒井	金五圓	全	神奈川
金壹圓	全	パワエル 平	金拾五錢	全	インナ 田邊	金壹圓	全	東京
金五拾錢	全	キリル 下田	金拾圓	全	イアコフ 後藤	金拾圓	全	京都正教女學校舍内教員及生徒
金壹圓	全	イオアン 齋藤	金壹圓	全	イサイヤ 村木	金壹圓五拾錢	全	輔祭 ベトル内田政之助
金壹圓五拾錢	全	アレキセイ 佐藤	金五圓	全	函館正教婦人會	金貳圓	全	司祭 イオアン小野莊五郎
金貳拾錢	全	ゾーヤ 伊藤	金五拾錢	全	イオアン 安田	金壹圓	全	氣仙沼盛正教習ベトル伊勢
金壹圓	全	フイワ 山本	金貳拾錢	全	グリゴリイ 野村	金五拾錢	全	アンドレイ 伊勢
金五拾錢	全	フイクトル 石田	金壹圓	全	大木幾次郎	金五拾錢	全	イアコフ 朝倉
金壹圓	全	ベトル 村井	金壹圓	全	東京駒込	金五拾錢	全	イオアン 千葉
金貳圓	全	イオアン 玉野	金貳拾五錢	全	下總小見川會イオアン 須田	金五拾錢	全	イオアン 山川
金壹圓	全	エロヘイ 佐々木	金貳拾五錢	全	パワエル 寺島	金參拾錢	全	北海道厚真嶺 野長治
金壹圓	全	イリヤ 大平	金貳拾五錢	全	アンナ 羽生	金五拾錢	全	佐羽内 黄吉
金貳圓	全	ミハイル 野村	金五拾錢	全	ワルワラ 平野	金壹圓	全	佐羽内 ひとり
金貳圓	全	ステファン 三浦	金七拾五錢	全	ベトル 河連	金拾錢	全	森 影さよ
金五拾錢	全	マリヤ 折戸	金五拾錢	全	キリアキヤ 横山	金拾錢	全	徳 永 鹿藏
金壹圓	全	グラシム 石田	金五拾錢	全	陸前中新田教會	金貳拾五錢	全	佐羽内 武之助
金壹圓五拾錢	全	アンナ 長谷川	金五拾錢	全	羽前上ノ山	金貳拾錢	全	嶺 野 ちん
金貳圓	全	フエオドラ 荒濱	金貳拾錢	全	ニキホル 吉田	金貳拾五錢	全	小野寺 運吉

人名別如左

金拾錢	厚真	藤井 又治	金拾五錢	濱松	マトフイ 芳賀	金五拾錢	旭川	テモフイ 山田
金貳拾錢	全	尾形 賢治	金拾五錢	全	ルカ 佐々	金參拾錢	全	ワシリイ 山田
金貳拾錢	全	イサアク 荒川萬右衛門	金五拾錢	全	マトフイ 松永	金參拾錢	全	ボリス 小野
金五拾錢	全	全傳教者	金五拾錢	全	イオアン 川合	金貳拾錢	全	ミハイル 藤野
金拾錢	全	陸前若柳教會バルメン 佐藤	金壹圓	全	テイモン 雪島	金貳拾錢	全	イグナテイ 畑山
金貳拾錢	全	千田 善右衛門	金壹圓	全	巢鴨監獄署内イオアン 山崎孝基	金壹圓	全	ベトル 山縣
金貳拾錢	全	千葉 運藏	金五拾錢	全	靜岡教會	金五拾錢	全	陸中日結町イアコフ 関
金參拾錢	全	イリヤ 藤堂丈三郎	金壹圓	全	テモフイ 近藤	金貳圓	全	參州豊橋教會ベトル 田中
前滿秋田縣大湯教會寄附金參圓の内譯	全	イリヤ 藤堂丈三郎	金壹圓	全	グリゴリイ 稻垣	金壹圓	全	ニーナ 田中
人名別如左	全	イリヤ 藤堂丈三郎	金壹圓	全	イオフ 日比	金參拾錢	全	キーラ 田中
金五拾錢	全	柴内 秀正	金貳圓	全	陸奥五所川原 泉澤 信吉	金參拾錢	全	イオアン 田中
金五拾錢	全	川瀬忠兵衛	金五拾錢	全	田邊 豊太郎	金貳拾錢	全	モイセイ 田中
金拾錢	全	上野茂八郎	金五拾錢	全	柳川教會司祭ベトル 河野周造	金貳拾錢	全	ワラ 武石
金拾錢	全	大森 直藏	金四圓	全	シメオン 有澤	金貳拾錢	全	ワシリイ 高澤
金拾錢	全	淺井 末吉	金貳圓	全	グリゴリイ 古澤	金貳圓	全	ワルナワ 平石
金拾錢	全	山口 こと	金壹圓五拾錢	全	パワエル 川島	金拾錢	全	ユニーヤ 平石
金拾錢	全	青山吉次郎	金壹圓五拾錢	全	ワシリイ 吉田	金拾錢	全	マリヤ 平石
金拾錢	全	谷地 儀助	金壹圓	全	マトフイ 佐藤	金五拾錢	全	イオフ 金田
金拾錢	全	朝霧 進造	金壹圓	全	アレキシイ 森田	金拾錢	全	ニコライ 三芳
金拾錢	全	朝霧 進造	金壹圓	全	エウドキヤ 森	金拾錢	全	エウセビイ 福井
金拾錢	全	武石 俊造	金參拾錢	全	アンナ 安東	金五拾錢	全	キリル 平山
金拾錢	全	佐藤 朝吉	金五拾錢	全	アントニイ 河野	金拾五錢	全	ヒリモン 加藤
遠州濱松教會モイセイ 太田	全	イアコフ 佐藤 朝吉	金五拾錢	全	マリヤ 河野	金拾五錢	全	ヒリモン 伊藤
金壹圓	全	ベトル 川合	金壹圓	全	アガヒヤ 中島	金貳拾錢	全	アルセニイ 三井
金七拾五錢	全	パワエル 本間	金貳拾錢	全	エリヤ 池末	金四拾錢	全	シメオン 永井
金五拾錢	全	ベラギヤ 小杉	金參拾錢	全	北海道旭川會マルコ 紺野	金五拾錢	全	
金貳拾錢	全	ザハリヤ 永田	金壹圓	全			全	



金五拾錢	豐橋	ルカ 富田	金壹圓	神田	イリナ 大越	金貳拾五錢	司祭	マトコイ 松本
金五拾錢	全	イオシフ大木	金五拾錢	秋田船川港諸	井留吉	金五拾錢	司祭	ロマン 福井
金貳拾錢	全	イアコフ朝倉	金貳拾錢	三本木教會イオシフ駒	峰	金壹圓	イグナテイ	岩間
金五拾錢	全	マトフエイ桑原	金拾錢	全	アキラ 木下	金參拾錢	アニキタ	立花
金壹圓	全	バズル 織田	金貳拾錢	全	エレナ 和島	金貳拾五錢	モイセイ	山内
金貳拾錢	全	ダニール大石	金拾錢	全	イオフ 菅原	金貳拾五錢	マトロナ	關根
金貳拾錢	全	セルギイ神戶	金拾錢	全	モイセイ長内	金壹圓	フガスヤ	戸田
金五拾錢	全	ニカノル吉江	金壹圓	水戸教會の内	鮎川正教會	金壹圓	ロマン 福井	
金參拾錢	全	テーモン杉浦	金四圓	東京	王子堀の内教會	金壹圓	イオアキム 佐々木	
金四拾錢	全	アレキシイ鈴木	内譯	青柳、金壹圓、金子田川、金子田	島山、金子田	金壹圓	同	佐々木
金拾錢	全	モイセイ柴田	金五拾錢	北海道余市町	渡邊 大吉	金壹圓	同	佐々木
金拾錢	全	ガウリイル後藤	金參圓	司祭	目時 金吾	金貳拾錢	同	佐々木
金拾錢	全	マリヤ 全	金五拾錢	磐城角田教會	アンドレイ松崎	金貳拾錢	同	佐々木
金五拾錢	全	アンナ 全	金壹圓	一戸教會	ス マ 平野	金五拾錢	同	佐々木
金參拾錢	全	ワシリイ加藤	金壹圓	金壹圓八拾錢上下堤會	ステファン 一條	金五拾錢	同	佐々木
金參拾錢	全	イリナ 加藤	金拾錢	全	外 數 名	金貳拾錢	同	佐々木
金拾錢	全	イアコフ加藤	金拾錢	相州片岡教會	宮城 はる	金五拾錢	同	佐々木
金壹圓	全	イオアン西郷	金拾錢	平井 こと	と	金貳拾錢	同	佐々木
金參拾錢	全	ライサ 内田	金壹圓五拾錢	宮城縣廣瀬村ハリサン	鈴木 木	金五拾錢	同	佐々木
金五拾錢	全	ミハイル酒井	金壹圓	前記根室教會寄附金人名明細左ノ通り	ヘクラ 鈴木 木	金參拾錢	同	佐々木
金貳圓	全	ホマ 石田	金壹圓	イオアキム 岡	イオアキム 岡	金壹圓	同	佐々木
金五拾錢	東京	東京孤兒院主 北川 はつ	金拾錢	テイト 向井	テイト 向井	金貳拾錢	同	佐々木
金拾圓	東京	三河島教會イアコフ清水	金拾圓	グリコロイ 齋藤	グリコロイ 齋藤	金五拾錢	同	佐々木
		神田正教婦人會						

金壹圓	野州植野教會	鈴木 重	金貳拾錢	須賀	ベトル 鶴澤	金壹圓	銅路	ミハイル 小山
金壹圓	全	福原角次	金貳拾錢	全	ニコライ市原	金壹圓	イオアン	征井
金壹圓	全	湯川謹藏	金拾錢	全	イオアン大木	金五拾錢	ハトル 多久佐理	
金壹圓	全	湯川立	金貳拾錢	全	アウラアム加瀬	金壹圓	イリヤ 岡崎	
金壹圓	全	村山等	金拾錢	全	イグナテイ伊藤	金壹圓	マルヤン 津村	
金五拾錢	全	柳川禮三	金貳拾錢	全	イオシフ伊藤	金拾錢	ワシリイ 羽毛田	
金五拾錢	全	永島昇三	金拾五錢	全	イオアン鈴木	金貳拾錢	イリノイ 淺山	
金五拾錢	全	加藤高次郎	金五拾錢	全	マカリイ小川	金貳拾錢	ヒリフ 上野	
金五拾錢	全	福原元次郎	金五拾錢	全	イオシフ林	金壹圓	モイセイ 泉	
金參拾錢	全	長谷川三吉	金五拾錢	全	イリヤ 鶴澤	金貳圓	バエル 小川	
金貳拾錢	全	福原よし	金五拾錢	全	ベトル大木	金壹圓	正教婦人會	
金拾錢	全	小坂常吉	金五拾錢	全	マルコ大木	金五拾錢	全傳教者	
右植野教會分爲寄附料郵稅拾六錢差引			金五拾錢	全	グリゴロイ大木	金拾錢	全	ダリヤ 鈴木
右別敷教會分爲寄附料郵稅六錢差引			金貳拾錢	全	ハルトン小川	金參拾錢	全	イイヤ 田村
陸奥國 弘前教會			金拾錢	全	シメオン伊東	金貳拾五錢	全	ステファン田手
金貳圓	陸奥國	金壹圓五拾錢下總須賀教會ヒリフ鶴澤	金貳拾五錢	全	ゲオルギイ伊東	金壹圓	全	イオアン山本
金五拾錢	全	ニーナ 鶴澤	金拾錢	全	ベトル伊東	金拾錢	全	マリヤ 坂
金壹圓	全	アキラ 齋藤	金貳拾錢	全	ゲオルギイ伊東	金五拾錢	全	ウエラ 針生
金五拾錢	全	アンナ 齋藤	金拾錢	全	イグナテイ伊東	金貳拾錢	全	ワシリイ安達
金參拾錢	全	マカリイ齋藤	金拾錢	全	パワエル大木	金參拾錢	全	ソシリイ安達
金貳拾錢	全	アウラアム神谷	金拾錢	全	アンナ大木	金壹圓	全	ワシリイ古田
金貳拾錢	全	パワエル神子	金壹圓七拾錢	全	アンナ大木	金壹圓	全	陸中磐井教會フェオドラ鈴木
金貳拾錢	全	ルカ 林	金五拾錢	全	ニコライ 駒野	金壹圓	全	ベトル 栗原
金貳拾錢	全	イアコフ鶴澤		全		金壹圓	全	ベトル 千葉



金參圓	磐井 婦人會	金五拾錢	常陸大津	キール三枝	陸前氣仙沼	アンドレイ大森
金壹圓	全傳教者	金壹圓五拾錢	全	ニコライ軍司	全	山 川
金五拾錢	中	金貳拾錢	全	ニコライ三枝	全	アラクム小梨
金壹圓	パワニル 佐々木	金拾錢	全	イオアン志賀	全	マルス小梨
金五拾錢	アンドレイ山田	金五拾錢	女子神學校門衛	アルセニイ淺井	全	キリル 齋藤
金五拾錢	ベトル二關	金貳拾錢	福岡縣福岡	紫 けい	全	森 田
金五拾錢	テモズイ細川	金拾錢	全	白石芳一	全	パワニル 勝又
金貳拾錢	テモズイ千葉	金壹圓	同傳教者	山本八之進	全	同折壁教會
金貳拾錢	アウラム佐藤	金貳拾錢	全	南 克太郎	全	バンテレモン阿部
金參拾錢	エリセイ安齊	金五拾錢	全	正教青年會有志	全	下總平和教會
金參拾錢	ニーナ武内	金五拾錢	全	高宮美吉郎	全	齋藤市太郎
金參拾錢	タイシヤ柳瀬	金五拾錢	全	廣岡三男三郎	全	石橋豊次郎
金貳拾錢	マトスエ佐藤	金貳圓	丹波國龜岡	安達源三郎	全	林 友藏
金貳拾錢	デオニシイ柳瀬	金五拾錢	陸前鹿又	中館長三郎	全	石橋金次郎
金五拾錢	ゲオルギイ阿部	金壹圓	作州津山	イオアン深瀬	全	宇井政次郎
金四拾錢	イグナテイ江戶	金五拾錢	全傳教者	マカリイ中澤	全	宇井寅之助
金五拾錢	ニコライ永山	金貳拾五錢	全	エウドキヤ中澤	全	渡邊拾次郎
金參拾錢	グリゴリイ鈴木	金貳拾錢	全	アンナ岡	全	増田重太郎
金參拾錢	アケブシム鈴木	金貳拾錢	全	イアコフ福井	全	協町正教會
金貳拾錢	ベトル近藤	金貳拾錢	同	モイセイ竹内	全	宇ノ浦教會
金五拾錢	イオアン鈴木	金貳拾錢	同	ベニアミン中澤	全	西ノ浦教會
金五拾錢	オニシム鈴木	金拾五錢	同	インドル白井	全	東京
金拾錢	アンドレイ西丸	金拾錢	同	ニキホル白井	全	板谷九郎
金拾錢	テモズイ鈴木	金拾錢	同	マリヤ林	全	赤井勘太郎
金五拾錢	ルカ山縣	金拾錢	全	ナハナイル杉谷	全	柳井原教會

金參拾錢	柳井原	金四拾錢	青森	ハトル	大澤	本會門衛	ワシリイ竹田
金貳拾五錢	淺野熊左衛門	金五拾錢	全	ハトル	柳引	金參圓五拾錢(第二回分)	横濱教會
金貳拾五錢	淺野久直	金壹拾錢	全	イオアン	工藤	(明細は次*に在り)	
金五拾錢	安藤 姫松	金壹圓	全	マトロナ	山形	東京傳教者	猪狩 新造
金貳圓	横溝徳次郎	金貳拾錢	全	イリナ	土岐	上州古馬牧教會	パワニル藤西
金貳圓	下總嚶鳴教會	金拾錢	全	ハトル	横田	同	ナラシキ森下
金壹圓	石毛丑松	金拾錢	全	イオアン	大澤	同	アンナ 全
金壹圓	崎山太藏	金拾錢	全	マトロナ	木村	同	リヤ 全
金壹圓	島田清太郎	金拾錢	全	マヨナ	田村	小田原教會	マリヤ 藤枝
金五拾錢	高木要藏	金貳拾錢	全	ニキホル	一ノ関	全	ミヘイ 菊池
金五拾錢	渡邊幸作	金參拾錢	全	イリヤ	菊地	全	須藤 某
金四拾錢	高森米治郎	金貳拾錢	全	ユリヤ	小杉	全	
金四拾錢	穴戸半藏	金五錢	全	マンフ	齋藤	全	
金參拾錢	石毛辰次郎	金拾錢	全	シメオン	松原	全	
金貳拾錢	鈴木政治	金拾錢	全	アレキセイ	松原	前記二回横濱教會申込明細人名*	
金壹圓	全旭町	金壹圓	東京詠隊教師	山家 頼行	比留間 一介	全	
金壹圓	全成山	金壹圓	東京神田	今井彦太郎	淺野 鐵平	全	
金五拾錢	齋藤 惣吉	金五拾錢	東京詠隊教師	早川 銀六	瀬戸千代吉	全	
金五拾錢	來栖松五郎	金五拾錢	東京傳教者	松田 保治	柴田安兵衛	全	
金四拾錢	中塚 忠道	金壹圓	東京麴町會	鈴木 いと	吉原 長七	全	
金五拾錢	宮城縣廣瀬	金五拾錢	全傳教者	後藤 忠七	守谷芳太郎	全	
金參拾錢	マリナ大原	金五拾錢	全	森 磐	淺倉 よし	全	
金貳拾錢	アキラ大原	金五拾錢	全	大野 頼恭	近藤 かめ	全	
金參拾錢	イオアン續	金五拾錢	全	尾又 丑藏	藤澤 宇平	全	
金貳拾錢	ワシリイ遠藤	金五拾錢	全	入野 寅藏	鷲巢繁次郎	全	
金貳拾錢	前記青森教會之明細人名	金五拾錢	東京	山ノ手教會	松尾幸太郎	全	
金拾錢	モイセイ 阿本	金八拾錢	全詠隊教師	折田 惟治	宮田徳太郎	全	
					小テニヤ新井	全	
					成島 儀作	全	



金五拾錢	四尾と	金壹圓	上州高崎教會イアコフ須藤	金參圓	下谷	永山昌甫
金五拾錢	原島吉藏	金五拾錢	イアコフ秋葉	金五拾錢	全	永山昌甫
金五拾錢	淺岡貞子	金四拾錢	イオアン上原	金壹圓	全	古川信實
金拾錢	山中喜四郎	金參拾錢	イオアン内藤	金壹圓	全	吉野はつ
金拾錢	小牧孝男	金貳拾錢	アレキセイ日向野	金壹圓	全	柳川仁造
金拾錢	川端常之丞	金參拾錢	モイセイ逆沼	金壹圓	全	原田とよ
金參拾錢	野州足利教會 小林留	金貳拾錢	ペトル山口	金壹圓	全	松本之吉
金貳拾錢	岡安熊	金貳拾錢	タイト黒田	金壹圓	全	新藤みづ
金貳拾錢	全 柏崎八十八	金五拾錢	パウル日向野	金五拾錢	全	岡村く
金貳拾錢	全 下總須賀教會ワシリイ伊藤	金貳拾錢	サワ八木	金貳拾錢	全	坂野留吉
金四拾錢	ルカ伊藤	金貳拾錢	イオシフ鈴木	金五拾錢	全	エレン
金拾圓	ニホント若梅	金四拾錢	イオシフ岡	金五拾錢	全	鳥居藤也
金拾圓	イリヤ小川	金參拾錢	アグニヤ吉田	金五拾錢	全	柴崎留吉
金貳圓	東京神田南神保町杉山源作	金貳拾五錢	モイセイ推名	金五拾錢	全	金田芳郎
金參拾錢	本會詠隊教師 小原甲三郎	金貳拾錢	イオアン中原	金五拾錢	全	細井悌次郎
金參拾錢	東京本會 イオアン須川	金貳拾錢	イオアン小野	金五拾錢	全	吉田熊太郎
金貳拾錢	オニシム松田	金貳圓	イグナテイ高久	金五拾錢	全	土岐鍾司
金貳拾錢	マトフニ今井	金五拾錢	チリヤ齋藤	金參拾錢	全	曾根昌言
金五拾錢	マルク吉田	金貳拾錢	パウル小川	金貳拾錢	全	喜多川銚三郎
金五拾錢	モイセイ東父岡	金參拾錢	アウラム高津	金貳拾錢	全	今井留吉
金壹圓	ルカ宮越	金貳拾錢	イオフ木内	金拾錢	全	田中清右衛門
金五拾錢	ニコノル高瀬	金壹圓	セルギイ關馬	金壹圓	全	マルク市川
金壹圓	伊藤眞三郎	金壹圓	イオナ田村	金拾錢	全	マドスイ關
金壹圓	ベトル野澤	金五圓	ソフヤ長南	金拾錢	全	吉野兵助
金五拾錢	ニキホル白岩	金參圓	ボリス植松	金拾錢	全	
金貳圓	鈴木九八	金壹圓	エフレル瀧澤	金貳圓	全	

金五拾錢	阿波徳島教會オニシム廣岡	金壹圓五拾錢小樽	イオアン片倉	金貳拾錢	江間	パウル津田
金五拾錢	ワルワラ喜多	金壹圓五拾錢全	ヒリモン安宅	金五拾錢	全	マクリナ津田
金貳拾錢	マリナ寺尾	金參拾錢	タイト山田	金貳拾錢	全	ワシリイ桑原
金貳拾錢	ニーナ眞鍋	金五拾錢	テモスイ松本	金拾錢	同	アキラ津田
金拾五錢	イリヤ河村	金五拾錢	ニキタ織田	金拾錢	同	カビトン津田
金壹圓	ルカ宮井	金參拾錢	イオフ木内	金拾錢	全	エラスト宮階
金五拾錢	ワルナワ澤	金參拾錢	マリヤ入山	金六拾錢	全	ダニイル山口
金貳圓	全 傳教者	金參拾錢	イオアン對馬	金拾錢	全	イオアン石井
金貳圓	全 司祭	金拾錢	セルギイ關馬	金拾錢	全	パウル大川
金壹圓	前橋司祭	金拾錢	イオナ田村	金拾錢	全	パウル關
金壹圓	全 傳教者	金貳拾錢	ソフヤ長南	金拾錢	全	アンナ秋山
金壹圓	全 詠隊師	金貳拾錢	ボリス植松	金拾錢	全	スタスン大川
金貳百圓	東京 岡村竹四郎	金五拾錢	エフレル瀧澤	金貳圓	全	全三島教會ダウト大沼
金拾錢	淺草教會 ナゾシタ石川	金五拾五錢五厘	全 傳教者パウル松本	金壹圓	全	イリヤ中田
金拾錢	全 ハリナ高橋	金五拾錢	熊本正教婦人會 椎葉てる	金參拾錢	全	モイセイ中田
金參圓	小樽教會 マルコ澁谷	金五拾錢	アニシヤ山本	金貳拾錢	全	ニーコン青木
金壹圓	全 伊リヤ高村	金貳拾五錢	オリカ喜多川	金貳圓	全	パウル日吉
金五拾錢	全 高村	金拾五錢	アンナ中村	金貳拾錢	全	シモン千倉
金貳拾五錢	全 齋藤	金拾五錢	熊本正教婦人會 無名姉	金貳拾錢	全	イアコフ木村
金壹圓	全 齋藤	金拾五錢	札幌教會 ワシリイ山部	金拾五錢	全	イリヤ佐藤
金壹圓	全 石勢	金拾錢	東京深川 アンナ添田	金拾五錢	全	アナスタシヤ金森
金貳拾錢	全 藤應	金拾錢	エカテリナ八幡	金貳拾錢	全	ハイナ高橋
金貳拾錢	全 藤應	金拾錢	豆州江間教會モイセイ石井	金貳拾錢	全	スサンナ佐藤
金壹圓	全 藤應	金拾錢	イオシフ鳴下	金貳拾錢	全	イオアン大槻
金參拾錢	全 藤應	金拾五錢	マドスイ伊奈	金貳拾錢	全	アンナ徳江



金拾錢	全	マルチン沼倉	金五拾錢	本郷	今村	金參拾錢	仙臺教會	イオアン鈴木
金五錢	全	ユリヤ村	金五拾錢	全	山崎	金五拾錢	下谷教會	マトロナ千代
金壹圓	全	イオシフ及川	金五拾錢	全	小島	金壹圓	全	イリヤ千代
金壹圓	全	陸前 築館教會	金五拾錢	全	滑川	金壹圓	京橋教會	ルカ加藤
金七拾錢	全	宮野教會	金參拾錢	全	井上	金貳圓	神田教會	イサイヤ内藤
金拾錢	全	相州片岡教會 鈴木 光三	金參拾錢	全	大内	金貳圓	全	ペトル金山
金五拾錢	全	東京 傳教者 松野 方秀	金貳拾錢	全	大内	金壹圓	全	アウラム鈴木
金貳拾錢	全	日本橋正教會 マリナ荒	金貳拾錢	全	森	金壹圓	全	アボルロス小林
金壹圓	全	フルワラ大村	金壹圓	全	田口	金壹圓	全	フシリイ大島
金五拾錢	全	篠田常次郎	金五拾錢	全	浦田 文夫	金壹圓	全	パワエル渡邊
金貳圓	全	パワエル 長谷川	金五拾錢	全	東京傳教者 倉岡吉之助	金壹圓	全	パワエル石原
金貳圓	全	二ツ木 伊勢松	金壹圓	全	根室標津教會 伊藤 繁吉	金五拾錢	全	パワエル大槻
金參圓	全	森山 宗治郎	金拾圓	全	東京芝教會 フモフニイ 石井	金五拾錢	全	ダウイド 笠原
金參圓	全	アレキサンデル 歌橋	金貳圓	全	ステファン 青山	金五拾錢	全	ペトル 笠原
金五拾錢	全	愛々社 (シメオン マルフ)	金貳圓	全	アンドレイ 木村	金五拾錢	全	イオフ 菊地
金參圓	全	本郷教會	金貳圓	全	ゴルデイ 篠崎	金五拾錢	全	イオフ 矢萩
金貳圓	全	愛々社員	金貳圓	全	パワエル 眞島	金五拾錢	全	イサアキイ 柴田
金貳圓	全	輔祭(後司祭)	金貳圓	全	パワエル 鶴岡	金五拾錢	全	ペトル 杉山
金壹圓	全	高井	金貳圓	全	アレクセイ 綾部	金四拾錢	全	サラ 内井
金壹圓	全	鈴木	金壹圓	全	パワエル 海野	金參拾錢	全	パワエル 本間
金壹圓	全	伊藤	金五拾錢	全	イオシフ 松田	金參拾錢	全	テモフニイ 外村
金五拾錢	全	坂本	金五拾錢	全	ヒリツブ 菅野	金貳拾錢	全	イオシフ 鬼頭
金五拾錢	全	大内	金拾圓	全	アレクセイ 土屋	金貳拾錢	全	イオアン 栗田
			金參圓	全	東京神田 マトフニイ 神田	金貳拾錢	全	シモン 中尾

金貳拾錢	神田	ニールン 澤木	金參拾錢	下總七榮教會 ニールン 小倉	金五拾錢	宮崎傳教者 シメオン 高岡
金貳拾錢	全	ベトル 坂巻	金壹圓	日向宮崎教會 ワシリイ 園田	金五錢	同
金拾錢	全	氣仙沼教會 テーモン 本吉	金參拾錢	マリナ 園田	金五錢	同
金參圓貳拾五錢	全	アレキセイ 小林	金五拾錢	イオシフ 井上	金五錢	同
金貳拾錢	全	陸中山田教會 信徒及傳教者	金參拾錢	イアコフ 全	同	同
金壹圓六拾錢	全	全宮古教會 信徒及未信徒	金五錢	エウドキヤ 全	同	同
金貳拾錢	全	全田之濱 ベトル 山崎	金五錢	ハリストチナ 全	同	同
金壹圓	全	千住三河嶋イサアクニ野戸	金五錢	ガオルギイ 全	同	同
金參拾錢	全	イオアン 清水	金拾錢	マリヤ 關谷	同	同
金壹圓	全	イオアン 佐藤	金五拾錢	ベトル 野井	同	同
金壹圓	全	東京本所教會 アンドレイ 有竹	金拾錢	ソフヤ 全	同	同
金壹圓	全	セルギイ 岡本	金拾錢	サモン 全	同	同
金五拾錢	全	イオシフ 松下	金拾錢	クリメント 全	同	同
金五拾錢	全	アフアナシイ 北島	金拾錢	マリヤ 全	同	同
金五拾錢	全	アルテモン 佐藤	金五錢	アナトリイ 全	同	同
金五拾錢	全	エルミイ 鈴木	金五錢	エウゲンニヤ 全	同	同
金五拾錢	全	ルカ 室伏	金五錢	エレナ 全	同	同
金五拾錢	全	テモフニイ 青柳	金五錢	ニーナ 全	同	同
金五拾錢	全	イシドル 古川	金五錢	マルタ 全	同	同
金五拾錢	全	イオアン 倉田	金拾錢	アレキセイ 全	同	同
金五拾錢	全	イオアン 佐々木	金拾錢	トリヒナ 全	同	同
金五拾錢	全	アウラム 植田	金五錢	イオフ 全	同	同
金五拾錢	全	アウラム 植田	金五錢	イリヤ 全	同	同
金參拾錢	全	バワエル 桑原	金五拾錢	ハラヤキ 全	同	同
金參拾錢	全	イサアク 横山	金拾錢	アンナ 全	同	同
金參拾錢	全	アンナ 菅野	金拾錢	ナデジタ 黒田	同	同
			金拾錢	ルキヤ 小西	同	同







### 主教二十五年紀念獻品調製祝典 及び之に附帶する諸費決算報告

收入	支出
一 金壹千六百貳拾四圓貳拾參錢五厘	一 金壹千四百九拾壹圓九拾壹錢八厘
寄附收入	支出總額
內 譯	祭冠經費額
金參百參拾八圓九拾五錢	金モール經費額
金四百九拾七圓五拾五錢	長袍及祭服一式服地代
金四百拾七圓零壹錢八厘	祝典獻品等の寫真代
金九拾圓貳拾錢	祝賀會經費
金百拾四圓七拾貳錢五厘	雜費
金參拾參圓四拾七錢五厘	殘餘金
差引	
金百參拾貳圓參拾壹錢七厘	
右ノ通り	
明治三十九年七月	
祝典委員會 會計 假野成章	

右は明治三十九年八月一日の正教新報を以て公表したる者なり

## 大 尾

明治三十九年十一月十三日 初版印刷  
 三十九年十一月二十三日 全發行  
 三十九年十二月十五日 再版印刷  
 四十年一月二十一日 全發行

編輯 水島行楊  
 東京府北豐島郡瀧野川村大字西ヶ原八十六番地

印刷者 神田 靜次郎  
 東京市神田區美土代町四丁目五番地

印刷所 日本印刷株式會社  
 東京市神田區三崎町三丁目一番地  
 電話本局一千八百四十番

發行所 正教本會編輯所  
 東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地  
 電話本局二千五百六十九番

新刊 水嶋行楊 著  
 天國と地の民(口繪) 幼兒に祝福の圖入(全一冊)……………定價金五錢。郵税二冊一錢。  
 救理略解(挿畫四枚) 救世主、生神女、ラザリ、其他(全一冊)……………價金六錢。郵税二冊一錢。  
 再先祖の神(口繪) 主サヲオフ入(全一冊)……………定價金三錢。郵税五冊一錢。



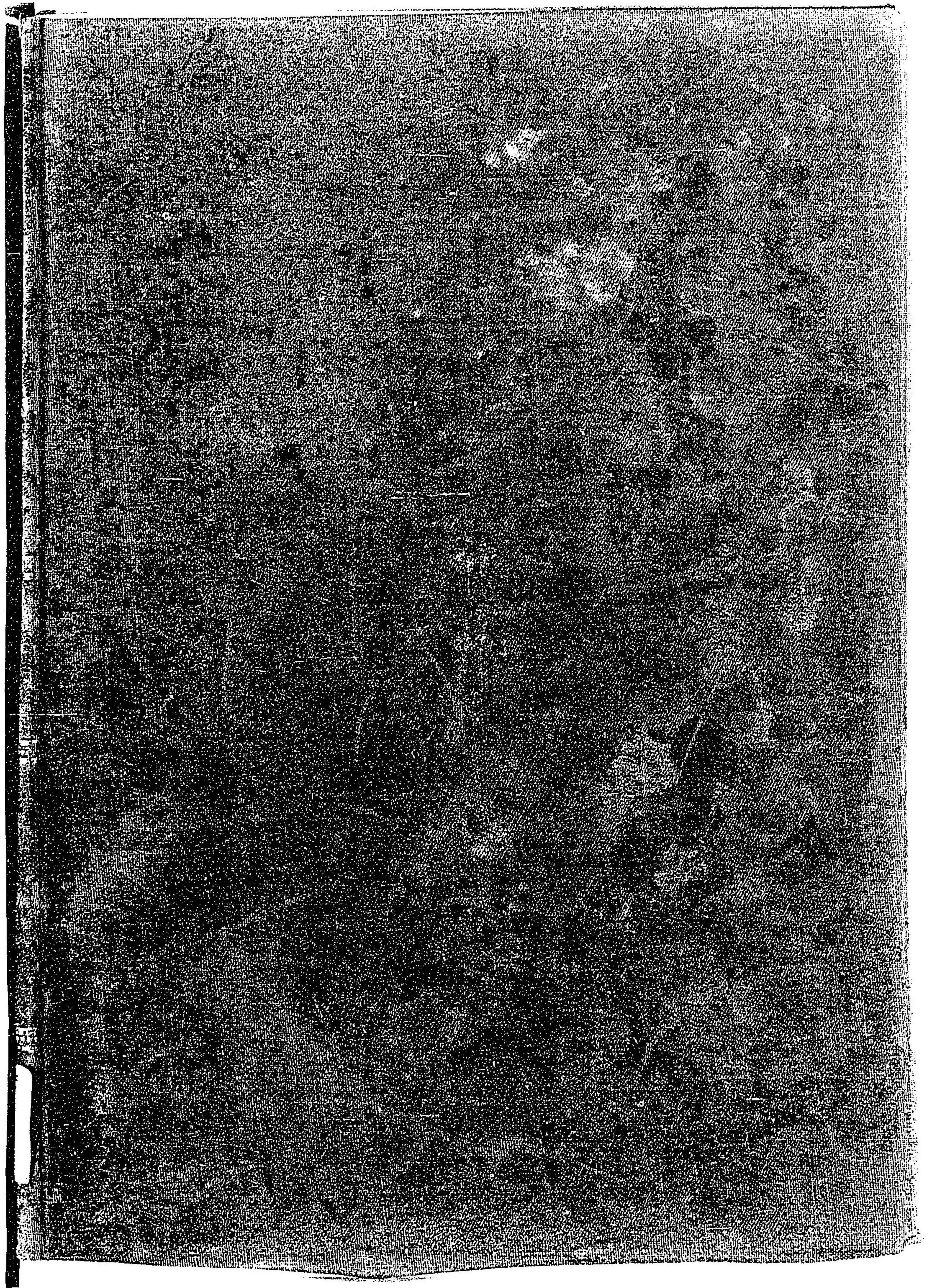
稿を印刷に附するまでには未だ最後の殘額處分も議定に至らざりし。

上記の殘額は其後又本件に附帶する必要の資金に充てたるを以て額に多少の異動を生じり即ち「重敬録」の調製其他の費用に付て。然るに此再版











020700-000-1

特55-157

重歡録(挿画)

水島 行揚/編

M40

ABI-0519







1



水  
后  
的  
可  
操  
分